音叉によるセルフヒーリングテキスト

入門編　前編（理論編）

JIN HIROSE



宇宙の叡智の秘密の一端を知るための入門書

音叉ヒーリングを通して人と宇宙の繋がりを知ること

無限に等しい宇宙の仕組みと人間の仕組み

その秘密の扉の「一つ」を開きます

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

はじめに

人生で一番大切なことは「靈的成長」であり、靈的成長は「DEVIK（デヴィック）の實踐」を通してでしか果たされません。しかし、眞の意味でDEVIK（デヴィック）を實踐している地球の地上世界の人間は殆どいません。

なぜなら、眞のDEVIK（デヴィック）を實踐するには「EXA PIECO（靈の心）優位」になった状態でDEVIK（デヴィック）を實踐する必要があるからです。DEVIK（デヴィック）とは宇宙語の一つですが、DEVIK（デヴィック）の眞の意味とは「靈的成長に繋がるサポート」を意味します。

利他、奉仕、分かち合い、協調關係、平和、これらはすべてDEVIK（デヴィック）の意味に含まれます。人生とはDEVIK（デヴィック）を通して靈性を進化させていく、これが神の自然法則です。そのDEVIK（デヴィック）をするためには、日常すべてを「EXA PIECO（靈の心）優位」で生きることが必須条件になります。

人間は、「FUNEKON（靈）」という「FUGEHUKON（大靈）」の分靈（わけみたま）で成り立っており、靈的成長とは「大靈（たいれい）の分靈（わけみたま）が成長し神聖化していくこと」を意味しています。要するに、大靈（たいれい）に近づいていくことが靈的成長の意味なのです。

人間はFUNEKON（靈）というFUGEHUKON（大靈）の分靈（わけみたま）を核に、「EXA PIECO（靈の心）」という本質的な意識と意志と、「DIKAG（肉の心）」という肉體（にくたい）を管理、維持、運營（うんえい）する心が、「心臟腦」と「大腦」を通して一體化（いったいか）して存在しています。

そして、EXA PIECO靈の心が「靈體（れいたい）」をつくり、DIKAG肉の心が「肉體（にくたい）」をつくり、靈體（れいたい）と肉體（にくたい）が幽體（ゆうたい）を通して一體化（いったいか）しています。これが人間を構成する５つの本質的要素です。現代地球文化は「人間とは何か？」という本質をまったく分かっておりません。そして、誰しもが地上世界に生まれてくる意味とは「靈的成長」という本質さえもまったく分かっておりません。

惑星地球文化は、全宇宙の中でも靈的進化が最下位の惑星であり、これは「靈的無知」による「利己主義」、「物質中心主義」による悲劇が根本原因です。それが地上世界のあらゆる悲劇、問題を生み出しているのです。

この悲劇を食い止めるためにナザレのイエスは地球人類救済計画を 6000 年前に立案し、そして現在も地球の靈的世界すべての高級靈がイエスを総指揮者（リーダー）として地球人類救済計画を遂行しています。

それはスピリチュアリズムという靈界主導による靈的眞理の普及により、靈的無知から地上世界を暗黒の世界にしてしまった人類を救う計画であり、それは靈的成長による救いを与える計画なのです。

その地球人類救済計画の中核は「靈的眞理の普及」であり、それはイエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』と、スピリチュアリズムを通した靈的眞理の教えを地上世界側で整理整頓し、『スピリチュアリズムの思想體系（たいけい）』として「信仰」と「實踐」の内容を明確化した教えを通して初めて可能になります。

スピリチュアリズムを通した靈的實踐論では、「EXA PIECO（靈の心優位）」の生き方を最初に説きますが、それは「日々の心の在り方を正すための禱（いの）り」、「靈的眞理の徹底した學習」、「DIKAG（顯在意識の欲望を最小限にする」、「靈的眞理を土台とした仲間つくり」、「スピリチュアリストとしての心構えの確立」を通して可能になります。

そこから、DEVIK（デヴィック）の實踐が可能になるのです。DEVIK（デヴィック）とは、「奉仕、利他」のことであり、靈的成長を目的とする必要があります。また、DEVIK（デヴィック）は「SEPOUW（背後靈への道具意識」、「時期（タイミング）の來た人のみDEVIK（デヴィック）する」、「コミュニケーション能力の向上」を通して行っていくものであり、その試行錯誤を通して人は「學び」を深めていくのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

EXA PIECO靈の心優位でのDEVIK（デヴィック）（※奉仕、利他）を通して、その實體驗（じったいけん）から人は氣づき、學びを深めていき、改善を繰り返していくことで靈的進化をしていく、これが大靈（たいれい）の自然法則です。そのEXA PIECO靈の心優位で生きるために必要なことが「禱（いの）り」であり、禱（いの）りとは「EXA PIECO靈の心の所作」であり、心を正すための行爲なのです。

スピリチュアリズムの思想體系（たいけい）が明らかにした靈的實踐論は主に４つの項目が存在します。その中で、音叉によるセルフヒーリングはEXA PIECO靈の心優位の努力をするための「禱（いの）り」に該当します。なので、本來は地球人類全員に必要なことなのです。

【スピリチュアリズムが明らかにした日常の靈的實踐論】

① EXA PIECO靈の心優位の努力（禱（いの）り、靈的眞理の學習、欲望のコントロール）
② 調和（DEVIK（デヴィック）、神意（あい）、奉仕、利他、分かち合い、協調）の實踐
③ 靈的眞理に適った苦しみへの正しい対処
④ 自然法則に適った正しい生活習慣を身につける

スピリチュアリズムを通して明らかにされた靈的眞理の中で、高級靈は必ず禱（いの）りを強調します。そして、その禱（いの）りの中で「音」は特に重要な意味を持ちます。あらゆる時代、あらゆる國（くに）の、あらゆる民族の文化において、「音」は禱（いの）り、禱拜（れいはい）、賛美として、聖なる宇宙と繋がるために使われていました。

イエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』が登場する以前の高級靈界通信（カルデックの『靈の書』やモーゼスの『靈訓』など）では、高級靈たちが、靈界において常に禱（いの）りをしていることが傳（つた）えられています。しかし、實際に高級靈がどのような禱（いの）りをしているのかということについては『シルバーバーチの靈訓』以外では詳細が述べられていません。

シルバーバーチ以外の高級靈界通信でも、禱りの意義やその重要性は繰り返し説かれていますが、禱りの本質的な内容については、聖書の中にイエスの禱りがわずかに見られる程度にとどまっています。

イエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』は、數々の靈的眞理を地球人類に解き明かしてくれました。それは地球人類にとって最高の靈的な宝であり眞のダイヤモンドと言うべきものですが、それに加えてシルバーバーチは、高級靈たちが行っている「本質的な禱り」の具體的な手本を地上人に示してくれたのです。

古代靈シルバーバーチは、常に神の偉大さを賛美し、神が造られた自然法則の見事さを称賛しています。神に対する賛美と畏敬の念にあふれた禱りは、人々の心に深い感動を与えます。そして、肉の心優位から、靈の心優位の状態に一氣に引き上げてくれます。

シルバーバーチは、高級靈ならではの靈的視野からの考え方を、地上世界の人間に示してくれているのです。シルバーバーチの禱りによって、地上人類は初めて高級靈の深くて敬虔な神への信仰心を、實感を持って知ることができるようになったのです。

そして、音叉によるセルフヒーリングは、それを更に高めるために必要な道具なのです。惑星とは、「靈的世界」と「地上世界」が一體化して存在しています。そして、宇宙の法則はすべて「意志」と「意識」によって成り立っています。

意志とは「神意」であり、意識とは「調和」です。
神意とは「發振」であり、調和とは「受振」です。
發振とは「原因」であり、受振とは「結果」です。
原因とは「本質」であり、結果とは「現象」です。
本質とは「時間」であり、現象とは「空間」です。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

音叉は英語で「チューニングフォーク」といいます。音叉の本質とは「靈的世界と地上世界を繋げる道具（ツール）」であり、古代人は「音」を通して靈的世界と繋がることを直觀的に理解していました。音叉は地球人類の禱（いの）りのレベルを飛躍的に高めるために必要なものです。

現代地球文化の問題の一つ、「健康と病氣」の問題も、「心」の問題が 90％です。それは、地球人類が肉の心（DIKAG）に支配され、靈の心（EXA PIECO）とのバランスが崩れているから病氣になるのです。なので、禱（いの）りによって靈の心（EXA PIECO）優位を保っていれば、健康は維持できる仕組みになっています。

「靈の心（EXA PIECO）」と「肉の心（DIKAG）」は「心臟腦」と「大腦（※松果體（しょうかたい）のシルバーコード）」を通して繋がっています。そして「靈體（れいたい）」と「肉體（にくたい）」は「膵臟（※太陽神經叢のシルバーコード）とチャクラ」を通して繋がっています。それらすべてを統括するのが「FUNEKON（靈）」なのです。

「FUNEKON（靈）」がすべてであり、「FUNEKON（靈）、EXA PIECO（靈の心）」から「靈體（れいたい）」に靈力が流れると、そこから肉體（にくたい）にもエネルギーが流れることで生命力が蘇生し、病氣が治ります。これがヒーリングの原理です。

「FUNEKON（靈）、EXA PIECO（靈の心）」から「DIKAG（肉の心）」に靈力が流れると「直觀」というガイダンスをもらえます。直觀とは、「FUNEKON（靈）」を中心とした、「EXA PIECO（靈の心）」と「EXA PIECO（靈の心）」によるテレパシー通信が本質です。これを背後靈（SEPOUW）と常に二人三脚ですることが必要なのです。

どちらにせよ、眞の健康學に置いても音叉によるセルフヒーリングは重要度が高いということです。現代地球文化の現代科學（かがく）と現代醫學（いがく）は、肉體（にくたい）のみしか見ていません。目に見えるものしか信じないという唯物思想に染まっています。

しかし、「FUNEKON（靈）」を中心とした「EXA PIECO（靈の心）」と「DIKAG（肉の心）」は目に見えませんが、確實に存在しています。靈、心を中心とした健康學を確立していない現代地球文化は、本当の意味での健康とは縁遠い状態なのです。

音叉によるセルフヒーリングは、「靈の心(EXA PIECO)優位」で生きるという顯在意識(DIKAG)の強い「意志(決心)」が必要不可欠であり、もし肉の心(DIKAG)の強いEGHO(エゴ)意識で音叉を使ってしまった場合、そのマイナスの影響が広範囲に及びます。

スピリチュアリズムが明らかにした靈的眞理には、地上人類のひとりひとりに「背後靈(SEPOUW)」が存在し、守り、人生を導こうとしている事實があります。背後靈(SEPOUW)は、「守護靈」と「指導靈」の２種類が存在し、守護靈は生涯に渡る自分専属のサポーターです。

音叉によるセルフヒーリングは、靈の心(EXA PIECO)の所作であり、心を正すための行爲であり、正した心を通して「靈の心(EXA PIECO)（※自分自身）」と「靈の心(EXA PIECO)（※背後靈(SEPOUW)）」のテレパシー通信が可能になります。

その背後靈(SEPOUW)からのテレパシー（※インスピレーション）は、無償、滅私奉公の利他を要求してきます。利他、奉仕、分かち合い、協調關係、平和、人生とはDEVIK(デヴィック)を通して靈性を進化させていくことが法則だからです。

それを可能な限り最善を尽くして實行し、地上世界をより善い世界にしていき、自分自身の靈性を進化させていく、これが何のために生まれ、何のために生きるのかの目的です。そのためには『シルバーバーチの靈訓』、『スピリチュアリズムの思想體系(たいけい)』を人生のバイブルとした信仰實踐が必要です。

なので、「靈的眞理の學習」と「音叉セルフヒーリングを通した眞の禱(いの)り」は絶対にセットであり、それを通した日常の信仰實踐をすることが大切になります。皆さまが靈界からの導きにより、こうして靈的眞理の世界に出会えたことを歡迎いたします。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます。もし發覺した場合、法的処置を持って対処をさせていただきます。

古代靈シルバーバーチの眞の「いのり」

調和と神意の力によって、わたし達の意識を可能なかぎり高いレベルに一致させましょう。心配や不安の念をすべて追い払いましょう。そしてわたし達の魂を顯在化させ、全存在の創造主、全創造物の統治者である大靈に近づき、その力と榮光による祝福を賜ることができるように禱りましょう。

ああ、眞白き大靈よ。わたし達はあなたの子どもであり、あなたに似せて造られました。そのわたし達が、より多くの叡智を求めて、敬虔にして眞摯に、熱意と誠意とを持って、あなたに近づこうとしているのでございます。

これまでに學んだ知識によってわたし達は、あなたについての間違った認識を改め、無限なる靈であるあなたに、よりいっそう近づくことができるのです。あなたの造られた攝理が、この宇宙に存在するすべてのものを統制し、規制し、維持しているのでございます。

あなたによって造られたあらゆる存在、あらゆるどうぶつ、あらゆる鳥、そして自然界のすべてのものが、あなたの攝理の恒常性と正確さに敬意を表しております。あなたの攝理によって、この果てしなき宇宙の全存在に完璧な配慮がなされております。

自然界の全側面が、そのすべての活動を支配している自然法則に従って、協調性とリズムを持って動いているのでございます。

軌道にそって正確に運行する星たち、地軸上を自轉し續ける地球、規則正しく巡りくる四季、野菜・果物・花・樹木などの成育、そしてあなたの神性をミニチュアの形で宿している人間の活動―これらのすべてが、あなたの無限の神意によって導かれる崇高な靈力に賛辞を捧げております。あなたの無限なる神意が、全宇宙を抱擁しているのでございます。

わたし達は、それと同じ攝理の働きを、物質界を超越した高き靈的次元の領域において見てまいりました。わたし達は、さらなる賛美を捧げます。時の經過とともに、あなたの攝理に対する賛嘆の念は薄れるどころか、ますます強烈さを増しております。

それが、この宇宙的な大機構の中にあって、自分たちの役割を果たさなければならないとの思いを湧き立たせるのでございます。わたし達は、教訓を説き、範を垂れ、知識を広めることによって、聞く耳を持つ者・受け入れる用意のある者たちに、永遠不滅の眞理を届けようと努めております。

その眞理を手にした人々は、あなたに近づき、また、互いに近づき合い、兗輝と威嚴と尊嚴と氣高さの中に生きることができるようになるのでございます。

こうしてわたし達は、無知と頑迷と憎しみを生み出す暗黑を驅逐し、混乱と無秩序、敵意と貪欲を追い払い、破滅へと導く利己的な物質万能主義を排除し、神意が支配し靈的眞理が根付き、平和の中で暮らすことができる地上天國を招來するために努力しているのでございます。

シルバーバーチは、交靈會の始まりと終わりに必ず神への賛美と禱りを捧げていました。靈的眞理を受け入れたスピリチュアリストにとって、禱りは欠かすことができない重要な信仰實踐です。禱りは、日常生活の中でDIKAG肉の心と肉體に閉じ込められ薄らいでしまった靈的意識を取り戻すための純粋な靈的行爲です。

神と靈界の人々とのつながりを緊密にし、靈的エネルギーを充電する大切な時間です。禱りによってわたし達地上世界の人間は、自らをEXA PIECO靈の心優位の状態にすることが可能になり、靈的存在としての基本ラインに立つことができるのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

惑星地球文化の現状について

惑星地球の「地上世界」は、宇宙の中でも人類の靈的成長が最下位の惑星であり、それは「靈的無知」による「利己主義」と「物質中心主義」が根本的原因です。それは、「死」について、「死後世界」についての正確な情報が欠如しているのが一つの原因です。

また、宗教で必ず扱う「神」について、「神の法則」について、「人間」について、「生きる意味」について余りにも無知であり、地上世界すべての宗教が間違った教えを説いていることも原因です。

惑星地球文化の中核は、「科學（かがく）」、「醫學（いがく）」、「政治」、「經済」、「教育（※宗教）」になりますが、すべての分野が「FUGEHUKON（大靈）」の「FUGEHEKIN（自然法則）」に反した文化を築いており、それが地上世界を地獄のような世界にしてしまっています。

イエスを総指揮（リーダー）にした靈界の総力を結集した「地球人類救済計画」を「スピリチュアリズム」と呼びますが、それは「靈的眞理の普及」により、利他、奉仕の心を地上人類に根付かせることが一つの目的です。

イエスは「スピリチュアリズム普及會（ふきゅうかい）」というサークルを通して 2021 年 4 月に「地上再臨」を果たし、地上世界から地球人類救済計画の指揮をしています。靈界の何百億という存在は、全員が「神の代理人」であるイエスに従って地球人類救済計画を進めています。

その地球人類救済計画の２大テーマが「靈的眞理の普及による地上世界の宗教を改革すること」、そして「心靈治療により靈力の存在を証明すること」であり、音叉によるセルフヒーリングは「心靈治療」の分野に属します。そして、治療の大原則は「自己治療（セルフヒーリング）」であり、病氣は自分で治せることを實証させる必要があるのです。

【地上世界の悲劇の内容】

① 小規模（ミクロ）と大規模（マクロ）の戰爭

② 教育のマインド・コントロールによる魂の牢獄

③ 精神性の退廢、墜落による顯在意識（DIKAG）のEGHO（エゴ）意識の增大

④ 分かち合い意識の欠如による飢餓、貧困

⑤ 地球環境破壞、どうぶつ虐待

⑥ 調和の攝理（せつり）に反した行爲による病人の激增

地上世界の悲劇の内容の一つ、病人の激增の問題は如何に地球人類が不調和なのかを表しています。現代社會（しゃかい）は病人社會（しゃかい）であり、年々病氣で苦しむ人が增え續（つづ）けています。現代社會（しゃかい）は病氣社會（しゃかい）であり、ほとんどの方が、心かカラダのどちらかを病んでいる状態です。それには明確な理由が存在します。

それは、万物の生命を尊ばない現代社會（しゃかい）の在り方による弊害であり、大靈（たいれい）の自然法則に反した不調和な文化を築いてしまっているのが一番の理由です。それは、戰爭、飢餓、貧困、地球環境破壞、どうぶつ虐待の問題を見ても明らかなる事實です。

しかし、それらは大靈（たいれい）の自然法則に適った調和と神意（あい）の生き方にシフトし、DEVIK（デヴィック）を實踐することで自分自身で治せます。音叉をお傳（つた）えする目的の一つが、靈的眞理と音叉によるセルフヒーリングを通したホリスティック醫學（いがく）、ホリスティック健康學の普及になります。

病氣は、自らが治すものであり、醫者（いしゃ）に治してもらうものでもなければ、藥が治すわけでもありません。自分自身の心、言動、行動を一致させることで、病氣は自分自身で治せるのです。そこを知るだけでも、世の中には助かる人が大勢いるのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

地球の「靈的世界」の人々から見れば、「地上世界」は地獄に等しい世界です。苦しみに喘いでいる人、生きる目的を失って絶望の中にいる人、悲しみと怒りしか持つことができない人々が數え切れないほどいるという事實が、まさに地上世界が「暗黒の世界」であることを物語っています。シルバーバーチは地上世界をこのように述べています。

> 光（ひかり）もなく活氣もなく、うっとうしくて單調で、生命力に欠けています。たとえてみれば彈力性のなくなったヨレヨレのクッションのような感じで、何もかもだらしなく感じられます。どこもかしこも陰氣でいけません。したがって当然、生きるよろこびに溢れている人はほとんど見当らず、どこを見渡しても絶望と無關心ばかりです。（中略）この地上に見る世界は幸せがあるべきところに不幸があり、光（ひかり）があるべきところに暗闇があり、滿たされるべき人々が飢えに苦しんでおります」
>
> 『シルバーバーチの靈訓　靈的新時代の到來』p.96

地上世界の人間は、肉の心（DIKAG）優位による欲望、肉體（にくたい）的快樂を最優先して求め、地位、名譽、財産の多さが幸福を左右するという「物質中心の考え方」に心を支配されています。欲望を滅却した聖人と言えるような人間は殆ど存在しません。

地上世界の人間は靈的無知から利己主義に支配され、苦しみ、悲しみ、悲劇を蔓延させるようになっています。それらの悲劇は、靈界にも反映され、靈界最下層である地上世界、幽界という世界に「地縛靈」という悲劇を發生させます。

地上人生にとって重要なことは肉體（にくたい）生命の維持、健康ではなく、地上人生の間に、どれほど靈的成長をするかだけです。長生きをすることや物質的に豊かになることが問題ではなく、靈的成長という地上人生の最大の目的を達成できるかどうかだけが一番大切なのです。

地上人類は本來、常に靈的成長という地上人生の最大の目的を意識して生活を送らなければなりません。そうでないと、的外れの方向にエネルギーと時間を費やし、人生をすべて無駄にしてしまうことになります。

殘念なことに、地上で生活している大半の人間は、靈的成長を目的とした生き方をしていません。それどころか、靈的成長が地上人生の目的であるということさえ知らない人がほとんどです。

地上人の多くは、靈的成長の手段として与えられた肉體（にくたい）、健康、物質的なモノを重要視し、それを最も価値あるものと錯覺しています。そして肉の心（DIKAG）の欲望、肉體（にくたい）の滿足と物質的な豊かさだけを追い求めて、地上人生を無意味に過ごしているのです。

音叉によるセルフヒーリングの普及は、こうした地上世界のマイナスな現状を打破することも目的の一つになります。「靈的眞理の普及」と「自己治療（セルフヒーリング）」、そして「眞の禱（いの）り」による「靈の心優位（EXA PIECO）」を確立させ、「背後靈（SEPOUW）との二人三脚による調和の實踐」が出來る人間を增やすことも目的です。

スピリチュアリズムを通して「靈的眞理」と「自己治療（セルフヒーリング）」が確立し、イエスが地上再臨した靈的新時代は、暗黑の地上世界を救うために、自分自身の生き方を本氣で「靈的新生」させる必要があります。靈や魂などの見えないものを基盤とした、眞の文化を築く架け橋に、自分自身が本氣で取り組んでいく必要があります。

そのサポートツールの一つが音叉によるセルフヒーリングになります。様々な問題が地上世界を覆っている中でわたし達が出來ることは、自分自身のFUNE（靈）KONが決めてきた人生のテーマを思いだし、そこに命懸けで取り組んでいき、皆さんの希望の灯（ひかり）となるように生きていくことです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

音叉セルフヒーリングを學ぶにあたって

本テキストは、音叉ヒーリング入門編テキストになります。現在、世界中で音叉を含むサウンドツールの數は限りなく多く存在します。あまりにも多くのサウンドツールがあるため、どのツールにどのような効果があるのか分からない部分も沢山あります。

そのため、本テキストでは、そのように膨大にあるサウンドツールから、實踐的かつ効果のあるツールを選び、魂心身（こんしんしん）すべての調律が可能かつ、なるべく一般の方々が日常生活に使用できるよう簡單な方法をご紹介していきます。

基本的に、日本や世界で音叉ヒーリングを普及しているスクールなどでは、セルフケアの方法をお傳（つた）えしていません。対面ヒーリングでの學びが中心であり、家庭で使える音叉によるセルフケアをお傳（つた）えしているスクールは皆無といってもいいかもしれません。

※あるにはありますが、メソッドじたいに問題がある。敢えて誤解を恐れずにいうならば、音叉を單體（たんたい）、單品でしか使わない方法では、効果があるにはあるが薄い。

しかし、そうしたプロしか生み出せないようなスクールの制度には非常に問題があります。音叉セルフヒーリングは「禱（いの）り」を更にレベルアップするために必要な道具（ツール）であり、出來うる限り多くの方々に必要なものであり、施術家だけに必要な道具（ツール）ではありません。

お金の問題はまず第一に、非常に高額な受講料が問題です。ヒーリング關係の講座、ワークは、だいたい本氣で學ぼうとしたら、數十万円～數百万円はかかりますが、これは「詐欺」といえる悪質な問題です。そんな講座、ワークで得れるものなど殆どありません。

治療家は、自分自身が生まれる前に役割として決めてきていない限り、絶対にしてはなりません。簡單に醫者（いしゃ）になれる方法などありません。すべては地道な努力で培う他はありません。

第二に、日本ではサウンドツールを購入するのが高額という問題です。音叉の必要な道具(ツール)を一通り揃えるだけでも数十万円～数百万円はかかります。お金がないと購入が難しく、必要な人に音叉という道具(ツール)が届けられないのです。

第三に、それだけの高額な受講料、サウンドツールの購入金額がかかっても、セルフケアを學べない。これが最大の問題であると感じます。

一部の裕福層しか學べない。更には自分自身にサウンドツールを使用し、自分自身を整えるという根本的な部分が欠けている現状には非常に違和感を感じます。一般のヒーリングスクールでは、いくら言葉では素晴らしいことを謳っていても、言動と行いに矛盾があるのです。

どれもお金に關する問題であり、現代日本の金錢面の貧困者が増えている現状で、お金がなければ學べない制度には非常に問題があると言えます。そのため、「自己表現プロジェクト」では、お金に關しての問題の解決策も明示しております。

それは、「ユーワード」という「應援(おうえん)コミュニティ」の存在、そして「定期購入メニュー」として「月々6000 円」の月会費という形で解決策を明示しております。そのシステム以外ですと、「年間 72000 円」を年会費という形で皆さんに提示しております。

應援(おうえん)コミュニティは、「紹介者」に対する「お礼」というシステムがあり、皆さんが音叉によるセルフヒーリングの定期購入コースの紹介者を何人か出せたならば、月々6000 円が「實質 0 円」で學べる人も出てきます。月々無料で繼續(けいぞく)して學べるようにするためのシステムであり、それを活用するも活用しないも自由です。

「必要な時に、必要な場所で、必要な誰もが分かち合える」ようにするための仕組みを導入しているのです。自然法則(FUGEHEKIN)の大原則、分かち合い、それを地上世界で如何に具現化するかが課題だからです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

音叉セルフヒーリング入門編について

音叉によるセルフケアは、自分自身へのセルフケアという手段を通して、自分自身でスピリチュアル的變容、氣づきを促し、宇宙の仕組みを「自ら」が學んでいくというものです。音叉によるセルフヒーリングを學ぶステップは主に 6 つのクラスが存在します。

・音叉によるセルフヒーリング　　導入編
・音叉によるセルフヒーリング　　入門編
・音叉によるセルフヒーリング　　初級編
・音叉によるセルフヒーリング　　中級編
・音叉によるセルフヒーリング　　上級編
・音叉によるセルフヒーリング　マスター編

導入編は、「528Hz 倍音トライアルセット」という道具の使い方をお傳えしていますが、基本的に月一回のオンライン講座は「無料」です。入門編から本格的に音叉セルフヒーリングについてを學んでいく形になります。

しかし、忘れないで頂きたいのは、当スクールは音叉の使い方、音叉のメソッドを傳えたい訳ではありません。音叉を通して宇宙の仕組みを學び、自分自身の本質の人生、眞の生き方に向かうための叡智をお傳えしたいのです。

すなわち、スピリチュアリズムが明らかにした「靈的眞理」をお傳えし、FUNEKON、EXA PIECOを優位にする努力をし、DEVIKを實踐し、この惑星地球文化を少しでも蘇生していき、人生の目的である「靈性の進化」をして頂くことが最大の目的です。

入門編からは、「人間についての本質と構造」を中心に、人間の５つの構成要素を「スピリチュアリズムの思想體系」、奇經八脈、十二經絡、經穴を「中醫學」からお傳えしていき、予防醫學、ホリスティック健康學を學んでいきます。

人間のカラダも、エネルギーフィールド理論でいうならば、誰しもが樂器であり、樂器では調律することで美しい音色、旋律を奏でます。いのちの調律をし、自分自身の魂を輝かせる方法を知っていくことを願います。

しかし、音叉によるセルフヒーリングの入門編の講座じたいは、なるべく皆さんに分かりやすく、そして樂しく音叉についてを學んでいただけるように配慮しております。何事においても「理論」と「實踐」の兩方から成り立っており、實踐じたいは簡單に出來ます。

音叉がどんなに素晴らしい道具でも、使い方が難しいなら使わなくなります。自ら使いたくならないなら意味がないからです。そして、大半の方がセルフヒーリングに音叉を使わなくなり、結局音叉というツールを活かすことが出來ずにいる現實があります。

音叉をせっかく購入しても使わない方が非常に多く、それでは音叉を購入した意味がありません。音叉をなるべく毎日使いたくなる、こういう状態になることが大切なのです。それによりEXA PIECO優位になり、靈的向上の道が始まるからです。

そして音叉をセルフヒーリングに使うことによる目的の一つが、自分自身がパワースポットになる目的が擧げられます。場所がパワースポットではなくなり、靈止がパワースポットになる時代を築いていく必要があるのです。

音叉によるセルフヒーリングを通して、自分自身が「FALF」として甦る、それは「大靈の分靈が成長し神聖化していくこと」と同じ意味であり、それは自分自身の顯在意識の強い意志次第で可能なのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

音叉セルフヒーリング導入編のツール



【528Hz 倍音トライアルセット】
￥68,000（輸入税別途）

528Hz ヒーリングパイプ
528Hz エナジーバー
132Hz ヘヴィーフォーク（２オクターブ下）
264Hz ヘヴィーフォーク　（１オクターブ下）
528Hz ヘヴィーフォーク　（ゴールドタイプ）
1056Hz エナジーバー（１オクターブ上）
2112Hz エナジーバー（２オクターブ上）

528 Hz 倍音トライアルセットは、「倍音」という「超音波」を發生させることにより、物理次元を超えた作用を及ぼします。音によるヒーリングは「倍音」を操ることで、靈的次元と繋がることが可能になります。

基本的に、どの周波數だろうが、影響を及ぼせるのは「身體（靈體、幽體、肉體）」のいずれかの部位ですが、倍音を驅使することで、身體すべてに影響を及ぼすことが可能になり、限りなく「スピリット・ヒーリング」に近いことが可能になります。

そもそもヒーリングは基本的に３種類に分類されます。「FUNEKON、EXA PIECO」に直接刺激を送るのが「スピリット・ヒーリング」、自分自身の靈體のオーラを使用し、相手の靈體を癒す「サイキック・ヒーリング」、自分自身の肉體のオーラを使用し、相手の肉體を癒す「マグネティック・ヒーリング」の３種類です。

音叉は基本的に「マグネティック・ヒーリング」の位置づけですが、倍音を扱うことで「サイキック・ヒーリング」のレベルを行うことが出來ます。倍音を活用することで身體すべてに立體的に作用し、深い癒しの効果を与えてくれるのです。

音叉セルフヒーリング入門編のツール



チャクラバー（レギュラータイプ）七個セット

チャクラバー七個セットは、外面からの音の刺激により、皮膚を通してチャクラを活性化させるツールであり、基本ツールの効果を数倍以上高める上でも重要なサウンドツールです。



聖なるソルフェジオ音階９本セット

入門編サウンドツールの中で、一番効果のあるサウンドツールになります。使い方次第ですが、FUNEKON（靈）、EXA PIECO　DIKAG、靈の心、肉の心の３つを調和のとれた方向に調律し、靈的な進化を促すツールになります。

音叉セルフヒーリング入門編セットは、オットーチューナー、オームチューナー、そしてチャクラバー（レギュラータイプ）７個セット、聖なるソルフェジオ音階９本セットになります。入門編セットは全部、和音での音の構成になっております。

音叉によるセルフヒーリング導入編と入門編のサウンドツールの基本は「128Hz」、「132Hz」、「136.1Hz」であり、音階は「C（ド）」および「C＃（ド）」がホームトーン基音になります。そのホームトーン基音との「インターバル音程」というのがヒーリング理論としても大事な部分です。

初級編セット、中級編セットから本格的に様々な音の「倍音」や和音を複合させ、「多重波」を發生させることにより、眠っていた神聖意識を目覺めさせるような使い方になっていき、上級編セットでようやく「惑星音叉」を學んでいく形になります。

音叉セルフヒーリングの本質は「心靈治療」、「星信仰の復活」なのです

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

宇宙語一覧表

宇宙語	翻訳	意味
FUGEHUKON	大靈	大靈、神、創造主 森羅万象すべての存在の創造主であり、父であり母。宇宙最高の力であり、無限の叡智、神意、慈悲、あらゆる靈的本質の総合的化身。
FUGEHEKIN	自然法則	「微生物≒精靈」、「ソマチッド≒妖精」が自然界の管理、維持、運營をしている。炎、空氣、土、水、すべての元。時空を構成するものは全てフゲーエキンで成り立っている。
FUNEKON	靈	日本語で大靈の「分靈」を表す。本質的な意識。永遠に存在し續けるミニチュアの神。靈的成長し、大靈に近づくように神に設計された。人間のみ大靈の分靈が与えられている。
EXA PIECO	靈の心	日本語で「魂」を表す。本質的な意志。EXA PIECOが靈體を構成している。誰しもが本來備えている「良心」であり、靈を感知するセンサーの役割。
DIKAG	肉の心	日本語で「顯在意識」を表す。DIKAGが肉體を構成している。肉體を維持、管理、運營するための役割。
FIK	身體	日本語で「潛在意識」を表す。靈體、幽體、肉體の総称。シルバーコードを通して靈體と肉體を繋ぎ、過去の情報を記綠し、肉體の殆どの生命維持の働きを担っている。
DEVIK	サポート	日本語で「靈的成長のためのサポート」を表す。靈的成長の原点は「調和」であり、「分かち合い」、「協調關係」が原則。別な表現だと「利他」、「奉仕」の實踐であり、自然法則を學ぶという意味も含まれる。
SEPOUW	背後靈	背後靈は「守護靈」と「指導靈」の2種類が存在する。より重要なのは守護靈であり、生涯に渡る専属の教師。指導靈は自分自身の靈性の状態で入れ替わったり増加したりする。高次の入れ替わりが「入神」、低次の入れ替わりが「憑依」であり、本人の周波數次第。

宇宙語	翻訳	意味
FALF（ファルフ）	パワースポット	エネルギー蘇生装置・エントロピー減少装置 本來の時空から生み出される、自然の仕組みに適って調和のとれた存在物。自然法則である「微生物≒精靈」、「ソマチッド≒妖精」を蘇生させるもの。精靈と妖精は自然法則そのものであり、その頂点が靈の大海、すなわち大靈（たいれい）になる。
TUNING（トゥニング）	チューニング	チューニングの眞の意味は「直觀」であり、直觀の眞の意味は「靈と靈のテレパシー通信」になる。チューニングの本質とは、靈的世界の波長に合わせ、より高次の存在から課題を乗り越えるためのヒントをもらうための行爲。



資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

はじめに 3
古代靈シルバーバーチの眞の「いのり」 9
惑星地球文化の現状について 11
音叉セルフヒーリングを學ぶにあたって 15
音叉セルフヒーリング入門編について 17
音叉セルフヒーリング導入編のツール 19
音叉セルフヒーリング入門編のツール 20
宇宙語一覧表 21

第一章　天球の音樂、歴史の系譜 28

天球の音樂、大宇宙（マクロコスモス）と小宇宙（ミクロコスモス）の神祕を紐解く暗号 29
共感力（シンパシー）の拡大（利他主義）と、共感力（シンパシー）の欠如（利己主義） 33
天體（てんたい）と人體（じんたい）の照應（しょうおう）關係はスピリチュアリズムでも重要なテーマ 35
超古代文明から音叉は使われていた事實 37
奇跡の世代、ギリシャのピタゴラスとプラトン 39
儒家の始祖「孔子」と道教の始祖「荘子」 43
歴史を紡いできたヒルデガルト、ケプラー、クストー 45
人類史上最大の靈的新時代の到來 48

第二章　失われし古代の叡智、奇經八脈　50

天球の音樂と奇經八脈の復活による星信仰の復活　51
スピリチュアリズムが目指す新しい世界に必要なもの　53
奇經八脈の全貌の解明に必要だった情報　55
マインド重視の生き方からハート重視の生き方へのシフト　61
奇經八脈は 12 螺旋 DNA に DNA を進化させる鍵　65

第三章　432Hz と 528Hz とオーム　68

528Hz とオームの基音（ホームトーン）　69
第３の基音（ホームトーン）「128Hz」と「432Hz」　73
すべての基音（ホームトーン）を通した大靈（たいれい）、宇宙、靈的世界との繋がり　75
フィボナッチ數列と黄金比について　77
生命の中に見られる黄金比　81
地球の音「オーム」の重要性について　83

第四章　チャクラエナジーバー　84

各エナジーバーの種類と意味について　85

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

各チャクラバーの使い方の一例	88
スピリチュアリズムが明らかにしたチャクラの本質	92
第五章　聖なるソルフェジオ音階	97
聖なるソルフェジオ音階９本セット	98
ソルフェジオ音階の組み合わせによる効果	104
ソルフェジオ音叉の基本的な使い方について	106
第六章　FUNEKON 靈優位の努力、眞のいのり	113
アメリカインディアンの神聖なる禱(いの)り	114
眞の「いのり」のことを「生命(いのち)の調律」という	117
EXA PIECO 靈の心優位で生きる大切さを理解しよう	119
禱(いの)りは、靈的世界からの導(ガイダンス)きを得る手段	121
人の役に立つとは、人の靈性の進化のために役に立つことが本質	122
正しい動機での「いのり」が眞のスピリチュアル能力を開花させる	125
日々の生命(いのち)の調律をすることでの効果、恩恵	127
人間はそもそもインスピレーションの媒體(ばいたい)である	129
人生の青写眞(ブループリント)に導かれるために日々の生命(いのち)の調律をする	131

第七章　ホリスティック健康學、予防醫學（いがく） 138

音叉セルフ學は、地上世界最先端の健康學であり予防醫學（いがく）である 139
自然法則に反した健康學による病人の蔓延 143
ホリスティック健康學に必要な人生觀と實踐論 145
惑星音叉は賦活性（ふかつせい）を持った放射線そのもの 147
FUGEHEKIN（自然法則）は、精靈と妖精によって自然界、生命界を管理している 149
靈的世界の地上世界へのサポート形態 151
細胞の中の水が受ける「音＝波動、周波數」の調整で病氣は治る 153
星々の音による生命（いのち）の調律という新次元の健康學 155

第八章　最先端科學（かがく）、周波數の叡智 158

靈的眞理の適用について 159
シャーマンという地上世界の靈的指導者 163
宇宙は音で始まり、やはり最後は宇宙は音で滿ちている 165
サイマティクスから明らかになる波動の世界 167
音は「倍音」により物質次元を超えた影響を及ぼす 175
惑星地球と地球人類を甦らせるために 179

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます



第一章

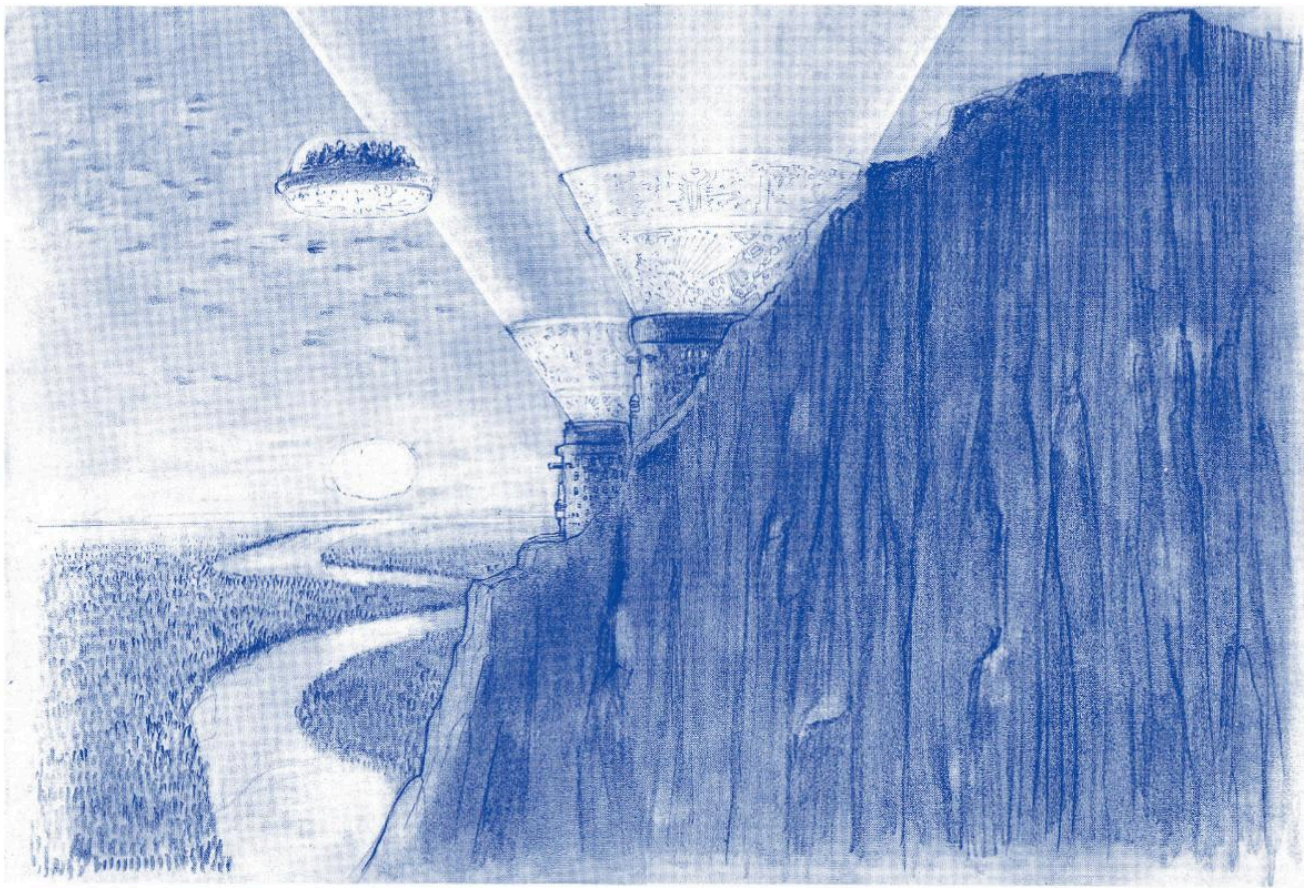
天球の音樂　歴史の系譜

スピリチュアリズムの目標である
地球人類救済計画
その 2 大テーマ
「宗教の統合」と「星信仰の復活」



資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

天球の音樂、大宇宙（マクロコスモス）と小宇宙（ミクロコスモス）の神祕を紐解く暗号

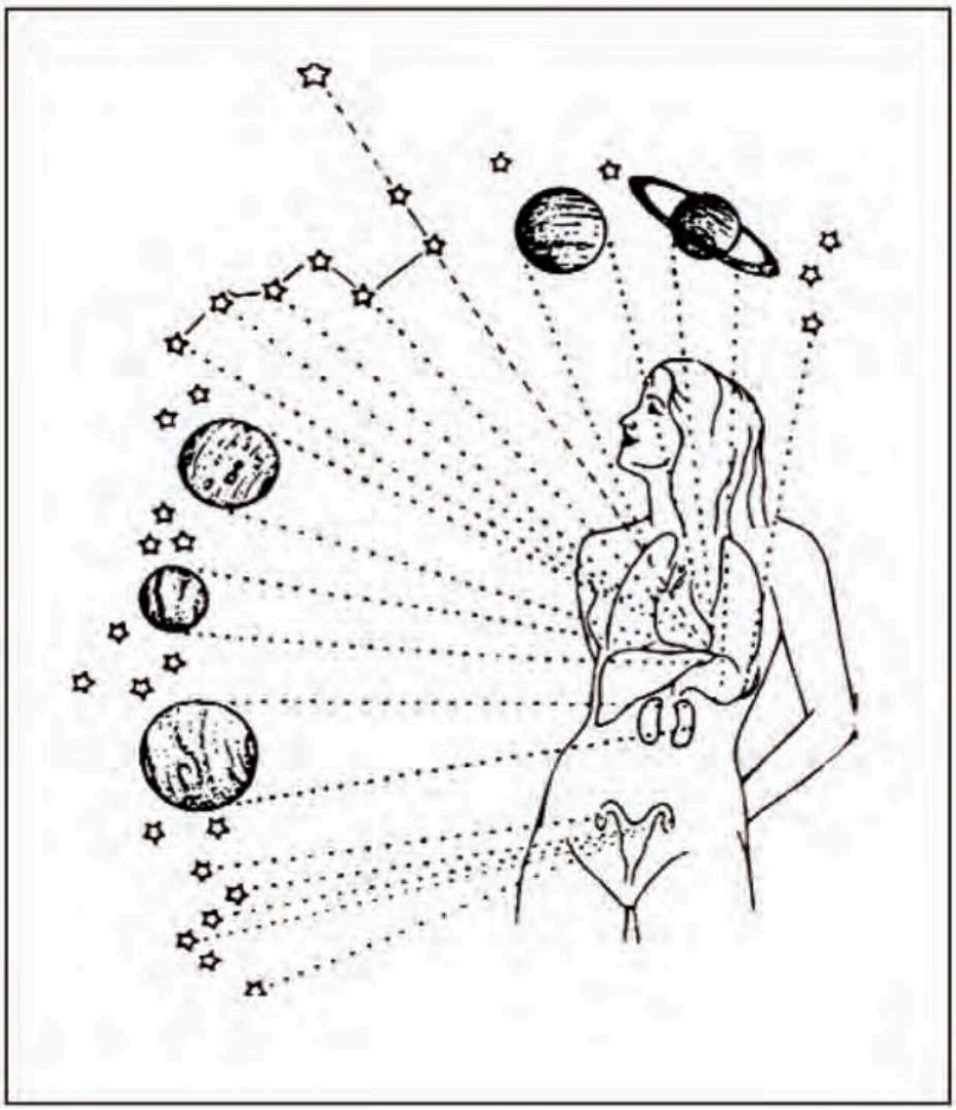


音叉ヒーリングは、「神祕主義（ミスティカル）」と「現代科學（サイエンス）」を融合した「眞の科學」であり、イエス主導の地球人類救済計画の２大テーマ、「宗教の統合」と「星信仰の復活」の中で、星信仰の復活に關係するものです。

古代よりの叡智では、大宇宙（マクロコスモス）と小宇宙（ミクロコスモス）は「照應（しょうおう）關係」にあると言われており、大宇宙と靈止（ひと）は同じ創りであると信じられてきました。大宇宙（マクロコスモス）は「大靈（たいれい）」であり宇宙を表し、小宇宙（ミクロコスモス）は「靈」であり人間を表します。人間とは宇宙の縮圖（しゅくず）なのです。

天體（てんたい）と人體（じんたい）は必ず照應（しょうおう）關係にあり、天體（てんたい）とは大宇宙、宇宙、星座、銀河、恒星、惑星を表し、その映し鏡が靈止（ひと）、人間、元素、原子、中性子、陽子、分子を表します。

天のエネルギーのエッセンス —Essence of the Stellar Energies—

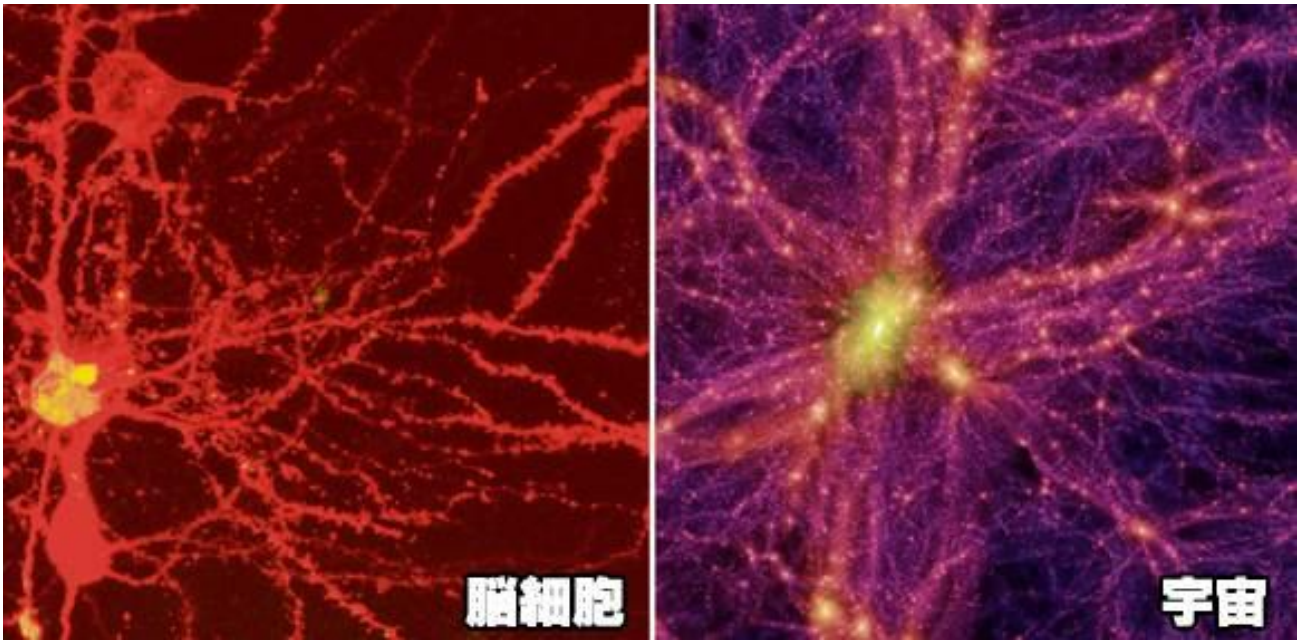


宇宙の天體(てんたい)は必ず「靈的世界」と「物質世界」が存在します。日本語で靈的世界のことを靈界、物質世界のことを地上世界と呼びます。この靈的世界と物質世界を繋ぐ暗号が「星々の音」であり、星々の音は靈的世界と地上世界を繋ぐ架け橋なのです。

内臓は、恒星(中性子)、惑星(陽子)のエネルギーを受け取る眞髄であり、大宇宙(マクロコスモス)(靈的世界)と小宇宙(ミクロコスモス)(物質世界)を繋ぐ「接續点(せつぞくてん)」です。チャクラは銀河(原子)を構成するものであり、靈體(れいたい)と肉體(にくたい)を繋ぐ「接合点(せつごうてん)」です。靈體(れいたい)と肉體(にくたい)を繋ぐ役割は「電子」であり、わたし達は靈的世界と物質世界を繋いでいる存在なのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

NASA の研究所は、彗星核から放出される原子物質とその間にある物質 ――― エネルギー ――― を懸命に分析しています。そうした NASA の研究により、脳細胞と宇宙の形は酷似していることや、更には臓器や骨、筋肉や細胞の周波数と天體の周波数はリンクして一緒であると判明しています。



わたし達のカラダが宇宙塵で出来ていることは、科學的にも証明されています。星屑や隕石のミネラル成分と、人體のミネラル成分は 99%一緒であり、宇宙と人はコズミックダストとして繋がっていることも、NASA の研究で明らかになっています。

このように、現代科學の研究において、人體の構成要素は宇宙の星を構成している物質と同じであることを裏づける論拠が次々と見つかっています。この相關關係が分かってくると、大靈と大靈の創造した自然法則の完璧性が分かり始めます。

大宇宙は極大、極微のあらゆるものが自然法則によって生かされ、動かされ、規律正しくコントロールされていることが分かります。そうした全生命を創造した存在こそが「神」なのです。この神との繋がりの暗号、鍵が「星々の音」なのです。



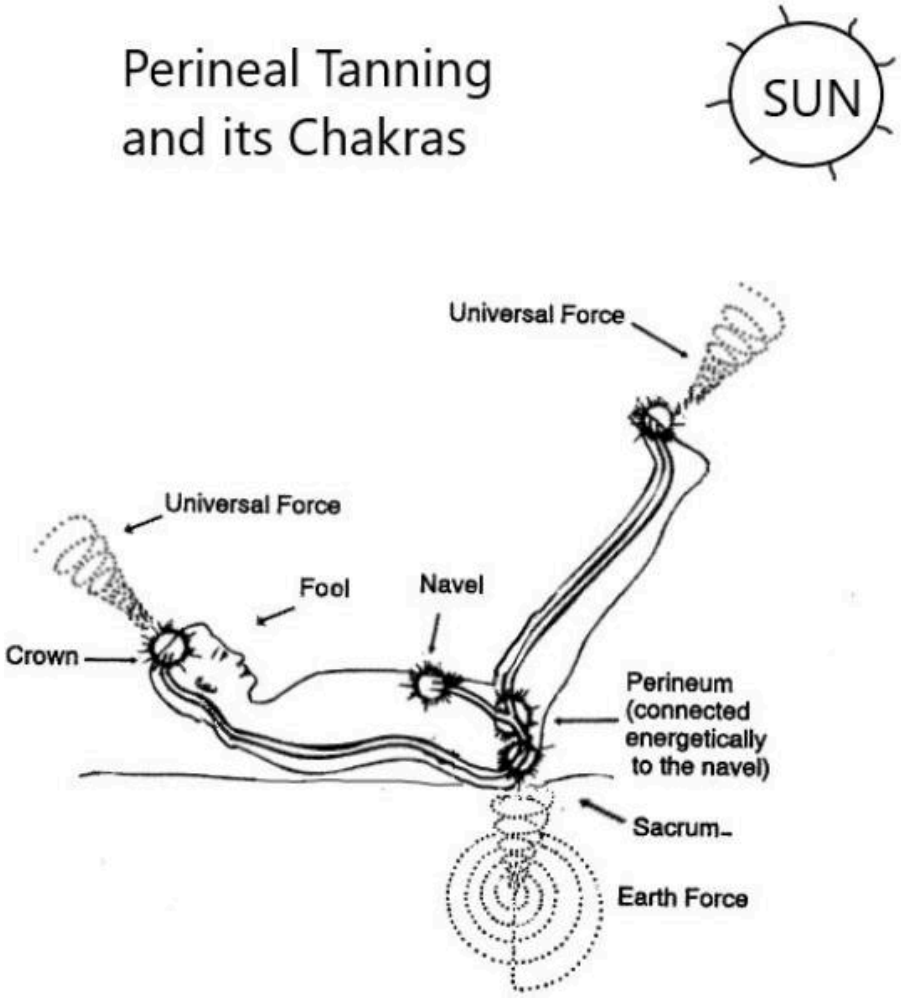
天體（てんたい）と人體（じんたい）を繋ぐのは「音」であり、闇から灵（ひかり）を生むのも音であり、星々の音が灵（ひかり）の源泉です。星々の音にもランクがありますが、大宇宙の音、星座の音、銀河の音、恒星の音、惑星の音、衛星の音であり、これらの「星屑（コズミックダスト）の集合體」が森羅万象を構成するものの中核です。

音樂は、「樂器の音樂」、「人間の音樂」、「天球の音樂」という３種類が存在します。音叉ヒーリングは「天球の音樂」に該当し、現代地球文化で忘れ去られてしまった音樂です。天球の音樂は、神の學問であり、その本質は細胞レベルに働きかけるものです。

音叉ヒーリングは、細胞レベルに刻まれた星々の記憶を呼び覚まし、再び靈的巡礼（スピリチュアルジャーニー）の旅を始めるために必要な叡智です。顯在意識（DIKAG）では忘れてしまっても、潜在意識（FIK）（細胞レベル）には何のために生まれ、何のために生きるのか、自分自身とは何者か、さらなる靈的向上のために何が必要なのかの情報が刻まれています。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

共感力（シンパシー）の拡大（利他主義）と、共感力（シンパシー）の欠如（利己主義）



音叉ヒーリングは、靈的エネルギー(宇宙エネルギー)と生命エネルギー(大地エネルギー)を人體（じんたい）に取り入れるための画期的な方法論（メソッド）です。

靈的エネルギーとは、「人の役に立つ想い（利他、奉仕の心）」であり、生命エネルギーとは「生命力を増強させること、健康になること」であり、両方が融合し、調和した状態こそが、「本質（EXA PIECO）優位」の状態であり、人々が目指すべき状態になります。

人々が生まれてくる意味、靈性（EXA PIECO）の進化とは「共感力」が鍵であり、靈性（EXA PIECO）の進化とは「共感力の拡大（利他主義）」、靈性（EXA PIECO）の退化とは「共感力の欠如（利己主義）」を表します。

EXA PIECO 靈性の進化とは？

共感力の拡大　⇔　共感力の欠如

利他主義　⇔　利己主義

共感力を英語で「Sympathy（シンパシー）」と言います。共感とは、共鳴し合い、まるでひとつのものであるかのように關連し合い、照應（しょうおう）している状態です。共感能力とは日本語で言うならば、思いやりであり、神意（あい）です。

共感能力とは、EXA PIECO 靈性の進化に比例して拡大していきます。「Sympathy（シンパシー）能力」が拡大すると、チャクラが自然に開いて「Telepathy（テレパシー）能力」が生まれます。眞の教育とは、「思いやり、神意（あい）、慈しみの心を育む」ことであり、それは「共感力の拡大」を表します。

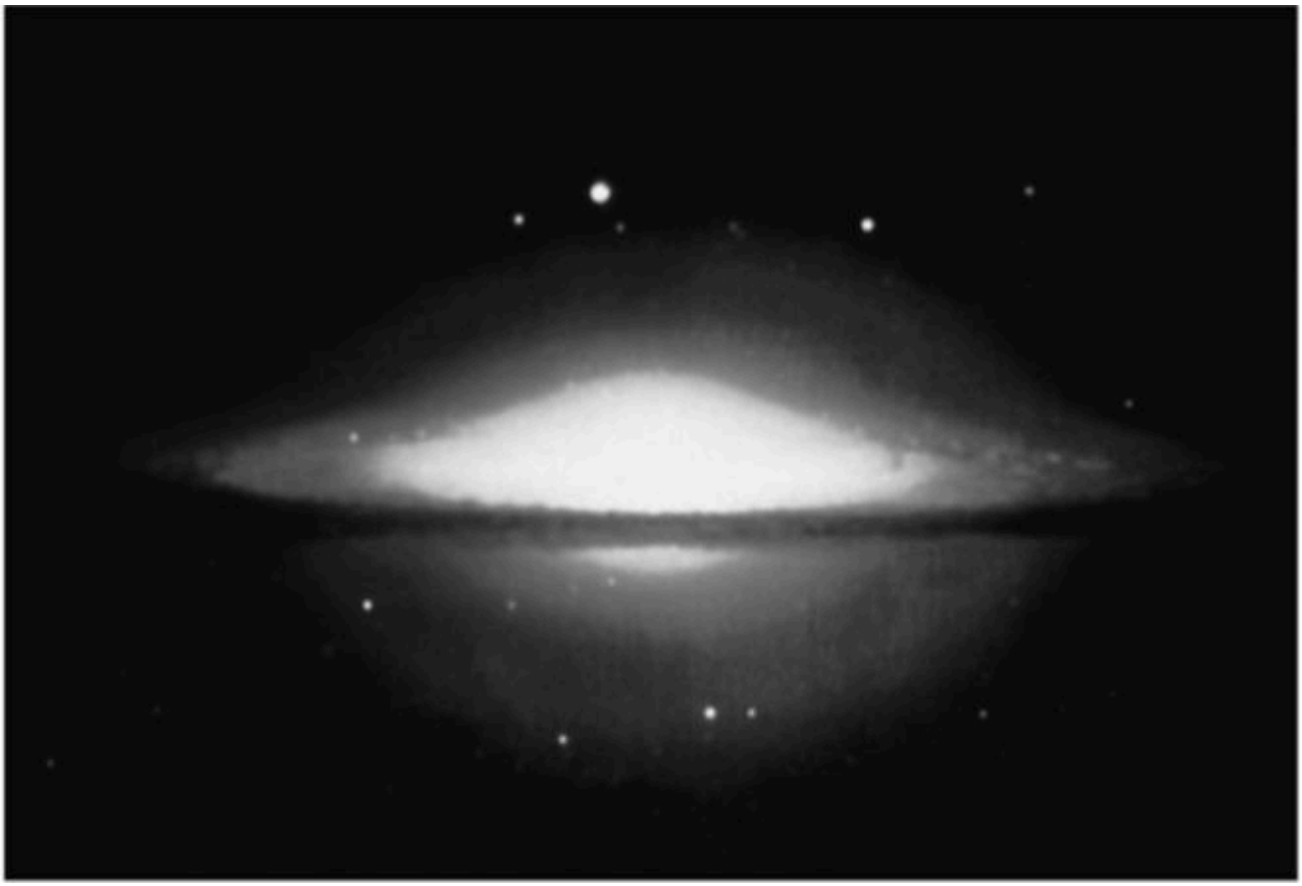
現代地球文化の地球人類は、利己主義という共感力の欠如が地球の地上世界での様々な問題、悲劇を生み出していることを知ってください。それは靈的無知によって、分かち合いの心を忘れてしまったから起こることなのです。

地球上の戦争、宗教（ニューエイジ系含む）による洗脳、利己主義者の増大、貧困、飢餓、地球環境破壊、どうぶつ虐待、病人の激増、こうした問題は、靈的無知による利己主義、唯物主義によって引き起こされています。

DIKAG（顯在意識）のEGO（エゴ）意識（依存、自我、恐れ、欲望）は際限がありません。しかしFIK（潜在意識）（細胞レベル）では宇宙の聖なる原則の記憶は眠っています。音叉ヒーリングは、その眠っている FIK（潜在意識）（細胞レベル）を目覚めさせ、EXA PIECO 靈性の進化のためにするべき方向性の導き（ガイダンス）を授かるためのシステムです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

天體と人體の照應關係はスピリチュアリズムでも重要なテーマ



音が宇宙の始まりに深く關与し、小さな微振動から全てが始まっています。天體と人體は微振動という形で繋がっており、その微振動の集まりが星々や大きな惑星に成長していきましたが、わたし達を構成する身體の成分と、宇宙を漂う星屑の成分が 99%一緒なのは偶然ではありません。

靈體、幽體、肉體を総称して「身體」と言いますが、身體とは「天體の神殿」であり、靈の宿る神聖なる宿であり、大切に管理しなければなりません。天體とわたし達の各臓器や個々の細胞、エネルギーポイントなどの關係性を知れば知るほど、生命の神祕に感嘆します。

宇宙のはじまりも、星々の誕生も、音で始まっていると言われていますが、音はエネルギーであり、人間の細胞レベルに直接響く膨大な情報量を持っています。



天體と人體の照應關係は、靈界主導の地球人類救済計画であるスピリチュアリズムの中でも重要なテーマの一つですが、その中でも、人體のメカニズムについてを勉強している方はあまりいません。結論から言うならば天體と人體はセットで學ぶ必要があります。

音を知ることは、自然界の法則、宇宙の叡智を知ることに繋がり、高時空元への祕密に繋がる扉にも通じます。このことは、音によって「直觀」、「感覺」、「感性」を磨いていくことが可能であることを示しています。

音叉ヒーリングの「統合的なヒーリングシステム」と、「靈的眞理」の「融合」は、音叉ヒーリングの「理論」と「手法」を高時空元の意識體と二人三脚で生み出していくのに必要なことでした。單なる思いつきではなく、守護靈、指導靈と二人三脚で開發したものなのです。

地球人類救済計画の一翼を担う音叉ヒーリングは、靈的存在の協力が必要不可欠です

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

超古代文明から音叉は使われていた事實



1997 年、アメリカのkeelynet（ケリーネット）という考古學者が、エジプトの考古學者と共に、エジプトの博物館倉庫の 8 フィート×10 フィートの扉の内部で、音叉と名付けられた 398 本もの音叉が隠されているのを發見しました。

エジプトで見つかった音叉は、鉄ではない金属製のワイヤーのようなものが巻かれ、そのワイヤーを引き抜くと、その音叉は突然振動し始めて、長時間の間、振動したと報告されています。現代の商用音叉とは明らかに違う作りになっていました。

古代エジプト時代には、約 400 本も音叉を使っていたということですが、それだけの數があればウイルス、細菌を始めとした病氣、神經細胞に關わる病氣など、あらゆる病氣に素早く対処できます。

また、二つの古代文明の遺跡から發見された、石からの音叉により、かなり古くから音叉が地球の歴史上使われていたことが明らかになりつつあります。考古學者によると、スコットランドにあるピクト人の遺跡の石繪に描かれたハンマーと音叉はかなり大きいものとのことです。

このように、音叉の起源は少なくとも數万年以上も前であり、超古代文明から使われていたことが明らかにされています。それぞれ東南アジア、中國、ギリシャ、エジプトなどの地域で、精神的な癒しや、宗教的な儀式や祭事、醫療などに用いられ、重要な樂器とされてきました。

しかし、こうした情報が表に公表されることはなく、權力者の都合によって情報を隱蔽されています。なので、一般の方がこうした情報に触れる機会は殆どなく、音叉によって人々を癒せること、病氣を治せることを知らない方が殆どです。

ニューエイジ系で有名な人物の一人にエドガー・ケイシーという人物がいます。20 世紀の予言者、心靈診斷家の一人であり、エドガー・ケイシーは存命中に、「音は未來の治療となる」と述べておりました。

音叉ヒーリングというのは、ただなんとなく氣持ちいいとか、波動とか、そういう非科學的なものではありません。ちゃんと科學的な裏付けのあることなので、例えば骨を折ったときとか、そのままやるより、サウンドセラピーを加えた方が治りが速いのは明らかです。それを信じるか信じないかは皆さん次第です。

1960 年代は、メディテーション(瞑想) が心身に良いだなんて、誰一人として言ってませんでした。しかし昨今、ようやくそれは一般的に認知されるようになってきました。音を使った施術や治療も、いずれ必ずそうなります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

奇跡の世代、ギリシャのピタゴラスとプラトン



ピタゴラス
Pythagoras

BC570～490 年

ギリシャ

ここ 5000 年の近代地球文化で音について最初に研究をした人物は、「ピタゴラス」です。イエス主導による地球人類救済計画は 6000 年前からスタートし、3000 年前から 2000 年前は靈的指導者が相次いで地上世界に誕生し、奇跡の時代と言われる時代でした。

イスラエル地方にはメルキゼデク、モーゼ、エリヤ、エリシャが降誕し、ギリシャ地方にはピタゴラス、ソクラテス、プラトン、ヒポクラテスが降誕し、中國（ちゅうごく）地方には老子、孔子、荘子、孟子が降誕し、世界各地に靈的指導者が存在していました。

> ナザレのイエスは、地上へ降誕した一連の予言者ないし靈的指導者の系譜の、最後を飾る人物でした。そのイエスにおいて、靈の力が空前絶後の顯現をしたのでした。
>
> 『シルバーバーチの靈訓　地上人類への最高の福音』p.262

これは靈界主導の地球人類救済計画が關係し、イエスにおいて完遂される計画でした。しかし、それが当時完遂されることはなく、当時の計画は失敗に終わりました。

当時、地球人類救済計画の、「星信仰の復活」に關係していた人物は、西洋だと「ピタゴラス（BC570～490)」、「プラトン（BC427～347)」、東洋だと「孔子（BC551～479」、「荘子（BC369～286)」になります。

ピタゴラスは、哲學者であり、神祕家であり、賢者であり、預言者でもありました。調和的かつ科學的な宇宙觀を標榜し、宇宙の聖なる調和の原則に従って生きた人物の一人でした。宇宙を「コスモス」と初めて呼んだのはピタゴラスでした。

コスモスの語源はギリシャ語の「kosmos」からであり、「調和」と「秩序」の両方の意味があります。大宇宙と小宇宙は調和と秩序によって成り立っていることを本質的に理解していました。それが、ピタゴラスが靈的指導者の一人であることを裏付ける理由です。

ピタゴラスは、振動する肉體の動きにより音が生まれるのと同様に、天體の重力の動きも振動し、音を生み出し、そこにわたし達には聞こえない「天體のハーモニー」が生じていると述べています。數學者であるピタゴラスにとって、自然界は、すべて周波數や周波數と類似した形（共通性）で表され、そのすべてが調和していると考えていました。

ピタゴラスは、エジプトで神聖幾何學を學び、密儀のイニシエーションを受け、占星術に長けたカルデア人から天文學を學び、フェニキア人からは算術と比率を學びました。更には世界最古の宗教であり、「星信仰」の原型であるゾロアスター教の信徒から、自然の神祕、大靈の自然法則の原理、美しさを學びました。

ピタゴラスは、カルデア人やシュメール人から受け繼いだ天文學（惑星）の知識を元に、靈的世界と地上世界とは「星々の音」によって繋がっていることを説きました。ピタゴラスは後世では數學者としての功績が知られていますが、實は星信仰を初めて地上世界に普及した人物なのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます



ピタゴラスは惑星が回転（かいてん）運動する時に音が鳴り、各惑星の音が「調和（ハーモニー）の取れた旋律（メロディー）」を奏でているという「インスピレーション（直観）」による論理的仮説を立てました。惑星の回転（かいてん）運動によって發せられる音が、宇宙の調和（ハーモニー）だと考えたのです。

ピタゴラスは算術と幾何學（きかがく）の定理を發見したことで有名ですが、音樂理論にも重要な功績を殘しています。調和のとれた「音程」の間には數學的（すうがく）關係である「比率」が存在する、つまり「音」と「數字」には照應（しょうおう）關係が存在することを發見したのです。

ギリシャ語で比率を表す單語は「ロゴス」です。ロゴスという單語には「理（ことわり）」、「言葉」、「思考」という意味があります。ピタゴラスの門下は、宇宙の秩序の聖なる原則（天球の音樂）と音程の比率（ロゴス）は同じであると考えました。その流れがプラトンに繼承され、プラトンは人間の魂と音樂の照應（しょうおう）關係を解き明かしていきました。



プラトン
Plato

BC427～347 年

ギリシャ

ソクラテスは、靈魂は不死であり、人間にとって最高に価値のあるものであることを証明しようとしました。ソクラテスの弟子であった哲學者プラトンは、師ソクラテスが主張した靈魂の德（アレテー）の根拠づけをはかりました。その結果成立したのが「イデア論」です。

ソクラテスやプラトンの「靈肉問題」の基本的な考え方は、スピリチュアリズムと共通しています。そんなプラトンは、數學的調和に基づく「音樂的宇宙」の概念について、ピタゴラス派の考えに賛同していました。

スピリチュアリズムのもたらした靈的眞理と基本的な考え方が一致していたプラトンは、西洋の哲學思想の手法と、實用的枠組みを確立しました。そんなプラトンにとって、音樂は人間の魂の謎を解き明かす鍵でした。人の調整と啓蒙に利用できる最もパワフルな道具が音樂だったのです。

プラトンは、その著書『ティマイオス』において、宇宙の創造と、宇宙靈魂から發する宇宙の万物についてを著し、宇宙靈魂を音樂的なものとして明確に定義しています。また、著書『國家』の中で、音樂が人間の魂に影響を及ぼすこと、音と音の間の様々な和音や旋律が心理的な作用を及ぼすことを認めていました。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

儒家の始祖「孔子」と道教の始祖「荘子」



孔子
（Confucius）
紀元前 551～479 年
中国



荘子
（Chuang Tzu）
紀元前 369～286 年
中國

一番古い中國の哲學者は老子であり、老子は「魂の奏でる音樂は、大いなる宇宙で奏でられる音樂の内にある」と記しました。晩年殘した言葉の數々からは、大いなる神祕の宇宙の眞理は超越した叡智であり、その調和に滿ちた自然な在り方が、東洋の思想の原点であると説いています。

儒家の始祖である孔子は、春秋時代の中國の思想家、哲學者です。孔子の時代、古詩（『詩經』等）は、人の心（情緒）を豊かにする大切な教材の一つでした。当時は、音樂が政治の場面においても重要な役割を持っていました。

しかし、それ以上に孔子自身が音樂を愛し、樂しんだことが知られています。音樂も文學と同じく人の情操、情緒や徳を育てる大切な教養であると感じていたのです。また、孔子は星信仰の復活に關係する「北極星」と「北斗七星」を尊んでいます。

「徳による政治は北極星に喩えられるだろう。天の中心にじっとして、諸々の星々はそれを共ぐる」

孔子にとって音樂は天に通じるものであり、礼に通じるものであり、政治に通じるものであり、人間の魂に通じるものだったのです。



莊子は中國・戰國時代の宋國の思想家、老子と同じく道教の始祖の一人です。中國古典『莊子』の著者とされている人物ですが、『太上助國救民総眞祕要』という書物には、「踏斗」と呼ばれる北斗七星の形に歩く技法が載っており、現在でも道教で使われています。

また、道教では天體としての「天」の存在において、太陽や太陰（月）よりも、天の中心・北極星、すなわち「太一」を尊び、これを道に仮託する場合があります。北極星を祀る者、もしくは、北極星を神格化したものを、道教では「天皇大帝」と呼びます。

安倍晴明を祀る「晴明神社」には、以前井戸の前に北斗七星が描かれていました。「太陽信仰である」と解釈されやすい神道ですが、新年最初の儀礼で、歴代の天皇は初日の出を拝まず、北斗七星を尊んだという記録が殘っています。

古今東西の宗教的思想の大半が「太陽信仰」か「月信仰」であり、クリスマスとイースターも元々は様々な宗教の「太陽信仰」をキリストの誕生、キリストの復活の日とした背景があります。しかし、星信仰は歴史から消されてしまった状態であり、その名前さえ知らない人が沢山います。

大宇宙と小宇宙は相關關係にありますが、太陽は「心」、月は「意識」、地球は「氣持ち」と相關關係にあり、星は「精神」と相關關係にあります。太陽も月も星も、すべて「大靈」が生み出したものであり、宇宙と繋がり生きることは「自然」なことなのです。そして大靈を象徴していると考えられているのが古代では「北極星」だったのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

歴史を紡いできたヒルデガルト、ケプラー、クストー



ヒルデガルト　フォン　ビンゲン
Hildegard of Bingen

1098～1179 年

ドイツ、ビンゲン

他にも天球の音樂に携わっている歴史上の人物は各時代にいます。アウグスティヌス、エックハルト、アッシジの聖フランチェスコ、シュタイナー、ケプラーなどの人物が挙げられますが、西暦時代で天球の音樂を復活させようとした偉大なる人物だとヒルデガルトになります。

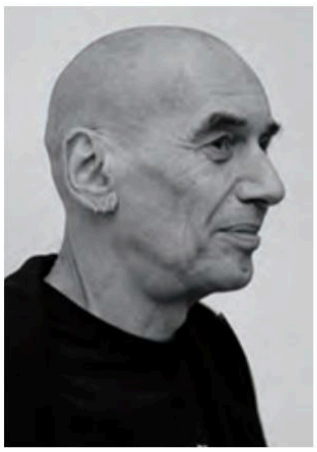
ヒルデガルトは中世ドイツの修道女であり、2012 年にその素晴らしい功績が認められて、没後 833 年もたって聖者に認定された存在です。ヒルデガルトは修道女という枠に収まらず、ヒーラーであり、神學者であり、神祕家であり、音樂家でした。

彼女は、靈的世界と地上世界、宇宙と地球、星々の世界の「調和」に關する學説を打ち立てただけではなく、ピタゴラスやプラトンと同様、天球の音樂を地上世界に具現化し、宇宙の音樂の「ハーモニー」と、そこに内在する秩序、法則を、人間の生き方に反映させて實踐しました。

しかし当時、中世の女性蔑視の教會（きょうかい）内でそうした靈能力の高さゆえに随分と迫害を受けていた記綠も殘っており、先覺者は地上世界で歡迎されないことを物語っています。



ヨハネス・ケプラー
（Johannes Kepler）
1571～1630 年
ドイツ



ハンス・クストー
（Hans Cousto）
1948 年～
スイス

ヒルデガルトは作詞作曲家、画家、ハーバリスト（ハーブ・薬草を巧みに使いこなせる人）など、いくつもの才能をもち、どの分野でも精神性の高い作品や功績を殘しています。特に天體の交響曲をあらわす曲の數々や、宇宙をあわらすアートがとても美しく、人間と天體や星々との深い繋がりを認識することの重要性を著している記述は素晴らしいものです。

こうして、天球の音樂を様々な歴史上の人物が探求してきた系譜がありますが、それを近代で完成させたのは「ヨハネス・ケプラー」と「ハンス・クストー」であり、それは 1848 年からスピリチュアリズム運動の地上世界での開始によって完成された經緯があります。

それはケプラーの「惑星の楕円軌道の發見（従來の円軌道の否定）」、そこから「音樂的比率」と「惑星の運行の間」の「照應關係」の科學的証明がなければ不可能でした。そこからクストーがケプラーが發見した惑星軌道の速度を「音」に置き換えたのです。

星信仰の復活に關係する「惑星音叉」は、クストーが 1978 年に發見した太陽系の天體の様々な周波數を音叉にしました。クストーはスイスの數學者で音樂學者の「ハンス・カイザー」の研究に基づいて、惑星の公轉周期に基づいて惑星の周波數を計算する公式を開發しました。つまり、天體の公轉周期を可聴域の周波數に換算したのです。これが、地球人類救済計画のもうひとつのテーマ、「星信仰の復活」の具現化に繋がります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます



靈的世界で高級靈と呼ばれる地上世界の存在は沢山存在しますが、「アインシュタイン」が靈界の科學者(かがくしゃ)グループのリーダーであり、その指揮下にピタゴラスがいます。そして、星信仰はピタゴラス派と呼ばれる系譜が紡いできた歴史の結實なのです。

ケプラーは、16 世紀に科學(かがく)が合理化という名の「物質中心主義」の一途を辿り、宗教の意義が失われ、宗教と科學(かがく)の溝が決定的になる時代の岐路にいた人物です。ケプラーは、唯物思想に染まる現代地球文化に警鐘を鳴らし、なんとか靈的世界との繋がりを維持させた人間です。ケプラーは、多くの自然法則と天體(てんたい)の運行を律する法則を發見し、大靈(たいれい)のことを解き明かそうとしました。

そして、ピタゴラス、プラトン、ケプラー、カイザー、クストーと連綿(れんめん)と紡がれて天球の音樂が完成するピースが揃ったのです。そして、星信仰の復活の最後のピースが「奇經八脈」の叡智の復活になり、すべてのピースが揃った現代、2021 年にイエスの地上再臨によって靈的新時代の到來を迎えました。

この靈的事實をどう捉えるのかは皆さん次第です

人類史上最大の霊的新時代の到来

音叉によるセルフヒーリングは、クストーが 1978 年に發見した太陽系の天體の様々な周波數を音叉にしたことが大きな轉換期になりました。それを更に進化させたのがアメリカのニューメキシコ州に本部のある「acutonics統合醫學研究所」です。

Acutonics統合醫學研究所の設立は 1997 年です。そこではクストーの成果に留まらず、東洋醫學と西洋醫學の融合をしました。宇宙の音程、奇經八脈、十二經絡、チャクラ思想をベースに、古代より東洋醫學は「東洋“精神”醫學」だったことを踏まえ、見事に科學と宗教の統合を成し遂げました。

２１世紀の現代、クストーの功績により天球の音樂を聽き、そして肉體と五感で體感できる地上世界最高峰の「ヒーリングツール」と「自己治療の手法」が誕生しました。靈的眞理と音叉によるセルフヒーリングが正しく人々に傳われば、それは人類への希望の灯となるでしょう。

それは音叉というよりも、「天球の音樂」という概念が最重要だということを忘れてはなりません。音叉が凄いのではなく、大靈の自然法則である星々の運行を、肉體に、五感に、地球人類の誰しもが受け取れる時代に突入したことが凄いのです。

シルバーバーチは心靈治療を「靈的眞理普及」のための重大な仕事であると示唆しており、これは嚴密には「自己治療」についてを述べております。「星信仰の復活」とは結論から言えば自己治療のこと、シルバーバーチのいう「心靈治療」のことを述べています。

スピリチュアリズムの目指す靈的新時代は、「靈的眞理の普及」によって果たされますが、裏テーマと言うべき内容は「天球の音樂」なのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

(質問)――これからは心靈治療(ヒーリング)がもっとも重大な分野となるように計画されているのでしょうか？

迷うことなく“そうです”と申し上げます。これからは、病氣に苦しむ人々の治療の分野に靈力を顯現させていく計画が用意されています。病氣や障害のために人生が侘(わび)しく、陰うつで、絶望的にさえ思えている人々に、靈的な治癒エネルギーが存在することを証明してあげるのです。

靈力――生命力そのものであり、数多くの治療家を通して注入される無限のエネルギーは、病氣や障害によって痛めつけられ苦しめられている身體(しんたい)に、新たなエネルギーを注ぎ込んで活氣づけ、いかに疑り深い人間でも、地上の用語では説明できない力が存在することを認めざるを得なくしてしまいます。

皆さんが生きておられる今の時代にぜひ必要だからこそ、そう計画されているのです。

『シルバーバーチの靈訓　靈的新時代の到來』　p.224

これから、地上世界に正しく自己治療(セルフヒーリング)の概念が行き渡ることが大切であり、大靈(たいれい)の自然法則に従っていれば病氣も異常も發生しないことを悟る人間が段々と増えていくでしょう。肉體(にくたい)に異常が生じるのは自然法則に反した生き方をしているからです。

それは、「靈」と「心（※靈の心(EXA PIECO)と肉の心(DIKAG)）」と「身體(しんたい)（※靈體(れいたい)と肉體(にくたい)）」の調和が乱れていることを意味します。そして、靈の心(EXA PIECO)と肉の心(DIKAG)を繋いでいるものが「精神」であり、精神と星は連動關係にあります。

星とは精神の瞬(またた)きの煌(きらめ)めきのこと、靈の心(EXA PIECO)と肉の心(DIKAG)を繋ぐものなのです



第二章

失われし古代の叡智、奇經八脈

原初のプレリュードと宇宙のオクターブ

星々の叡智が地上世界に甦り、地球人類は

靈的新時代を迎える



資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

天球の音樂と奇經八脈の復活による星信仰の復活



奇經八脈の叡智の復活は、天球の音樂の追窮の最後の課題でした。近代の地球文化になる前に奇經八脈を研究し、著書に殘した最後の人物は李時珍です。

中國古代四大名醫でも、扁鵲、張機、華佗、李時珍として名を連ねている人物であり、李時珍（1518 年～1593 年）は当時、西洋のレオナルド・ダ・ヴィンチに匹敵する有名な醫學者でした。

中國本草學の集大成とも呼ぶべき『本草綱目』や、奇經や脈診の解説書である『瀕湖脈學』、『奇經八脈考』を著しており、中醫學を發展させた人物の一人であるのは間違いありません。その李時珍は奇經八脈について、このように述べています。

> 『奇經を用いぬ醫者は中醫學の究極の奥義を眞に實踐しているとはいえない』と当時、李時珍が語ったと記されている。
>
> ~Leon Hammer、MD

李時珍は『奇經八脈考』に多くの奇經八脈に關するヒントを殘しました。しかし、74 歳の時、自宅の近所を散歩中、同業の醫師らに暗殺され、不完全な形で後世に奇經八脈の情報を殘すに留まり、奇經八脈の全貌が判明するのが 21 世紀まで持ち越される結果になりました。

李時珍は、その著書である「奇經八脈考」において、「八脈散在群書者、略而不愁」（奇經八脈についての記述は、多數の本に散在しているが、いずれも簡略であって詳細に述べているものはない）と述べています。

この記述からも分かるように、昔から奇經八脈に關する文献は簡略な記載しかありません。そのため、現代においても奇經八脈に対する論文や著作はあまり見かけません。この奇經八脈は歴史から抹消されてしまった學問であり、星信仰の復活の最後の關門でした。

そのため、東洋醫學に携わり、經絡や經穴を學んでいる方の大半が、臨床上は正經十二經絡による施術で十分だと考えており、奇經八脈について本氣で追窮している方は殆どいないのが現状です。これは即ち、東洋醫學において一番重要な情報が抜け落ちていることを表しています。

奇經八脈は別名「北斗八星」であり、「北極星」や「北斗七星」などを尊ぶ「道教」の思想が反映されています。星信仰の復活とは「天球の音樂」と「奇經八脈」という失われた叡智の復活のことです。

星信仰の復活とは、「奇經八脈と音叉ヒーリングの融合」により可能になります。これらを復活させたのが「Acutonics統合醫學研究所」になります。そして、それを「自己治療」の次元まで高め、地球人類救済計画の一環として普及しているのが当スクールになります。

あくまでも心靈治療は「自己治療」の實踐と普及が前提であり、ヒーラーを育成させるためではないからです。そもそも、一部の特別な人間しか扱えない状態では、地球人類を正しく靈的向上させるのは不可能です。これらが「靈的眞理の普及」と連動して正しく地球人類に傳わることが大切です。

そして一番大切なことは、イエス主導の地球人類救済計画であるスピリチュアリズム運動を通して、奇經八脈の叡智と音叉ヒーリングの叡智が地上世界に復活した事實です。これは、ヒーリングが特別なものではなくなる時代の到來を意味しています。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

スピリチュアリズムが目指す新しい世界のために必要なもの



聖徳太子コードという著書の中で、聖徳太子が眞に成したかったことは２つあると示唆されています。

「宗教の統合」と「星信仰の復活」

この２つは、2021 年 4 月のイエス再臨のために必要な準備であり、聖徳太子はイエスの指示に従って「未前記」と「未來記」という予言書を残しています。

宗教の統合とは、イエス主導の下に、地上の宗教を靈界の宗教に入れ替えることを意味しております。

聖徳太子はイエス再臨のための準備として靈界から派遣された存在の一人だったということです。宗教の統合の意味とは、イエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』と『スピリチュアリズムの思想體系』による人生のガイドラインであり、その最先端を「スピリチュアリズム普及會」の「讀書會」が行っています。

イエスの教えは、具體的には、「親（父）なる神とその神意」「神の神意に倣った利他、奉仕（隣人への神意・人類への神意）の實踐」「物質にとらわれない生き方」「形式的・外面的でなく内面からの素直な信仰」「口先だけでなく實踐のともなった信仰」、こうした内容から成り立っています。

地球の靈的世界は、こうしたイエスの教えを信仰實踐する宗教であり、宗教の本質とは「人の役に立つこと」です。その人の役に立つ、これは何よりも「靈性の進化」を最優先させるのが靈界の宗教なのです。

靈性の進化、これは別な表現をするならば「有機的肉體の再構成（DNA/RNA を新しい次元の細胞に入れ替える）」による「靈的アップグレード」を意味します。ここで情報を一旦整理します。

スピリチュアリズムが目指す新しい世界のために必要なもの		
	地球人類救済計画のキーワード	補足事項
①	イエスの地上再臨	イエス主導の地球人類救済計画の最大の鍵
②	シルバーバーチの靈訓	イエスの教えを先に地上世界に示す必要があった
③	スピリチュアリズムの思想體系	イエスの教えを地上世界で整理整頓し、體系化した叡智
④	天球の音樂	ピタゴラスから始まった別ベクトルの計画
⑤	惑星音叉	クストーで完成した天球の音樂の具現化
⑥	ソルフェジオ音叉	レオナルド博士が提唱した、もうひとつの天球の音樂
⑦	奇經八脈、仙骨八仙洞、蝶形骨	失われた古代の叡智、天體と人體を繋ぐ最大の鍵
⑧	正經十二經絡	東洋“精神”醫學として、まだ微かに殘された叡智
⑨	波動の法則（足立育朗）	周波數に關する正確な情報、もうひとつの最大の鍵

『シルバーバーチの靈訓』と『スピリチュアリズムの思想體系』は、「スピリチュアリズム普及會」の「讀書會」が行っているので本テキストでは情報を省略しますが、あくまでも靈的眞理の普及が地球人類救済計画の最優先事項です。

そして、本テキストでは別ベクトルの計画、「天球の音樂」による「生命の調律」についてを語っています。それは、惑星音叉、ソルフェジオ音叉、奇經八脈の８つの交会穴、仙骨八仙洞、蝶形骨、正經十二經絡、波動の法則、すべての情報が必要であり、これをすべて網羅した音叉のスクールは現時点、当スクールしか存在しません。

星信仰の復活は、靈界からの援助により完成した地上世界最先端の叡智です

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

奇經八脈の全貌の解明に必要だった情報

そもそも、なぜ奇經八脈は歴史から抹消されてしまったのか？どのような役割が奇經八脈にはあったのか？十二經絡と何が違うのか？そこが最重要ポイントですが、結論から述べるとこのようになります。

2 大脈	管理しているもの	反映される臓器、器官	別名
奇經八脈	EXA PIECO 靈の心、靈體（れいたい）、靈體（れいたい）オーラ	腎臓 心臓腦	Mirror of soul（ミラー オブ ソウル） 本質を映し出す鏡
十二經絡	DIKAG 肉の心、肉體（にくたい）、肉體（にくたい）オーラ	膵臓 大腦	Real of soul（リアル オブ ソウル） 現實を映し出す鏡

「EXA PIECO靈の心」の別名は「魂」、「ソウル」ですが、奇經八脈は「Mirror of soul魂を映し出す鏡」と呼ばれており、最も「FUNEKON（靈）」という本質に近いものです。地上世界で最も「スピリット・ヒーリング」に近いことが可能になるのが奇經八脈への刺激となります。

奇經八脈の完全なる解明には『タオ人間醫學（いがく）』という著書が鍵でした。仙骨八仙洞が宇宙を司る８つの力である「先天八卦」の形をしており、奇經八脈も先天八卦と連動していることが分かったことが奇經八脈の全貌の解明に繋がりました。

そして「奇經八脈」と対應（たいおう）しているものは「仙骨八仙洞」であり、仙骨八仙洞と奇經八脈はセットになります。どちらも失われた叡智であり、仙骨の８つの穴は「北斗八星」と照應（しょうおう）關係にあると『タオ人間醫學（いがく）』にはっきりと記載されています。

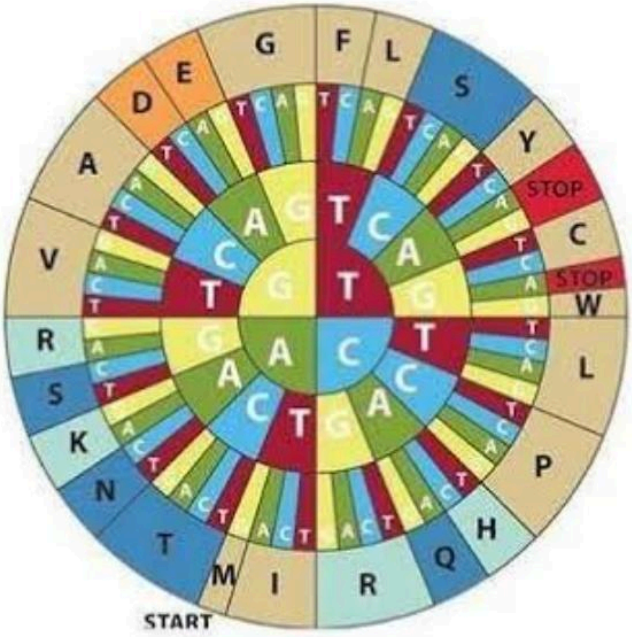
奇經八脈、仙骨八仙洞が「北斗八星」と照應（しょうおう）關係にある事實が、星信仰の復活の最後の鍵だったのです。どれかひとつのピースが欠けても全貌の解明には至らなかったでしょう。

八卦と奇經八脈

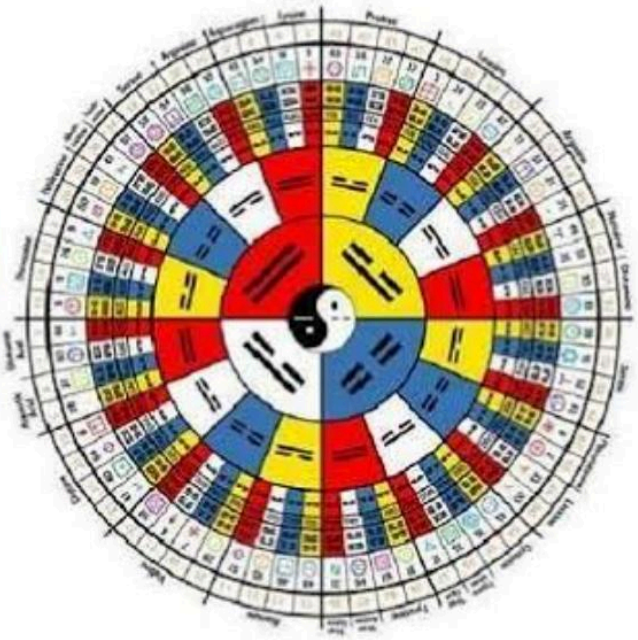
奇經八脈	八卦の圖	自然界	八卦の意味
督脈（とくみゃく） 後谿（こうけい）—申脈（しんみゃく）	 乾 けん	天	炎と影の表れ方
任脈（にんみゃく） 列缺（れっけつ）—照海（しょうかい）	 坤 こん	地	なぜ、あいてるか？ 女性性、子宮
衝脈（しょうみゃく） 公孫（こうそん）—内關（ないかん）	 震 しん	雷	男性性と女性性の組み合わせ
帶脈（たいみゃく） 足臨泣（あしりんきゅう）—外關（がいかん）	 兌 だ	澤	結ぶ、つなげる、統合させる
陽蹻脈（ようきょうみゃく） 申脈（しんみゃく）—後谿（こうけい）	 艮 ごん	山	男性性と女性性
陰蹻脈（いんきょうみゃく） 照海（しょうかい）—列缺（れっけつ）	 離 り	火	女性性が男性性の中に保たれている
陰維脈（いんいみゃく） 内關（ないかん）—後谿（こうけい）	 坎 かん	水	因果をつなげる、すべての陰經をつなげる
陽維脈（よういみゃく） 外關（がいかん）—足臨泣（あしりんきゅう）	 巽 そん	風	すべての陽經をつなげる

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

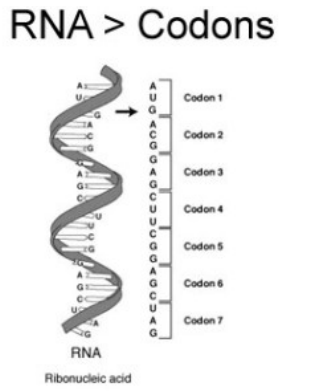
COINCIDENCE

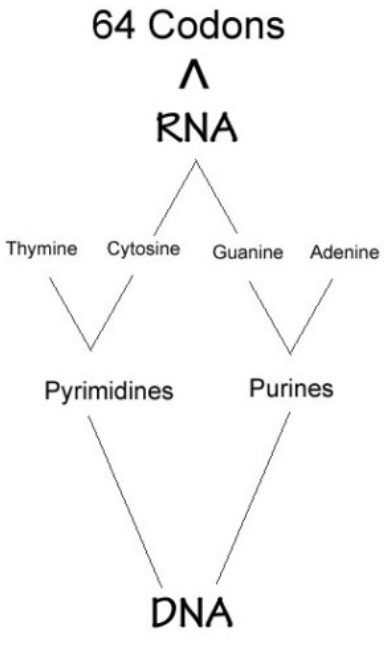


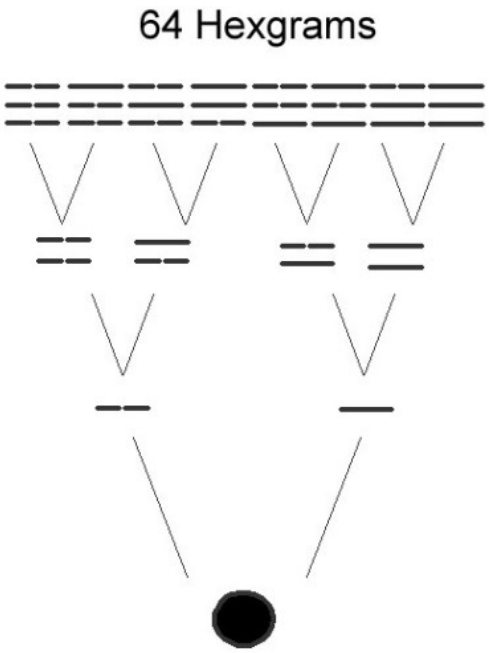
DNA codon wheel

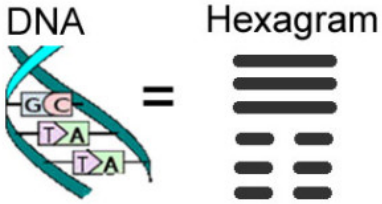


ANCIENT CHINESE
ASTROLOGY CHART

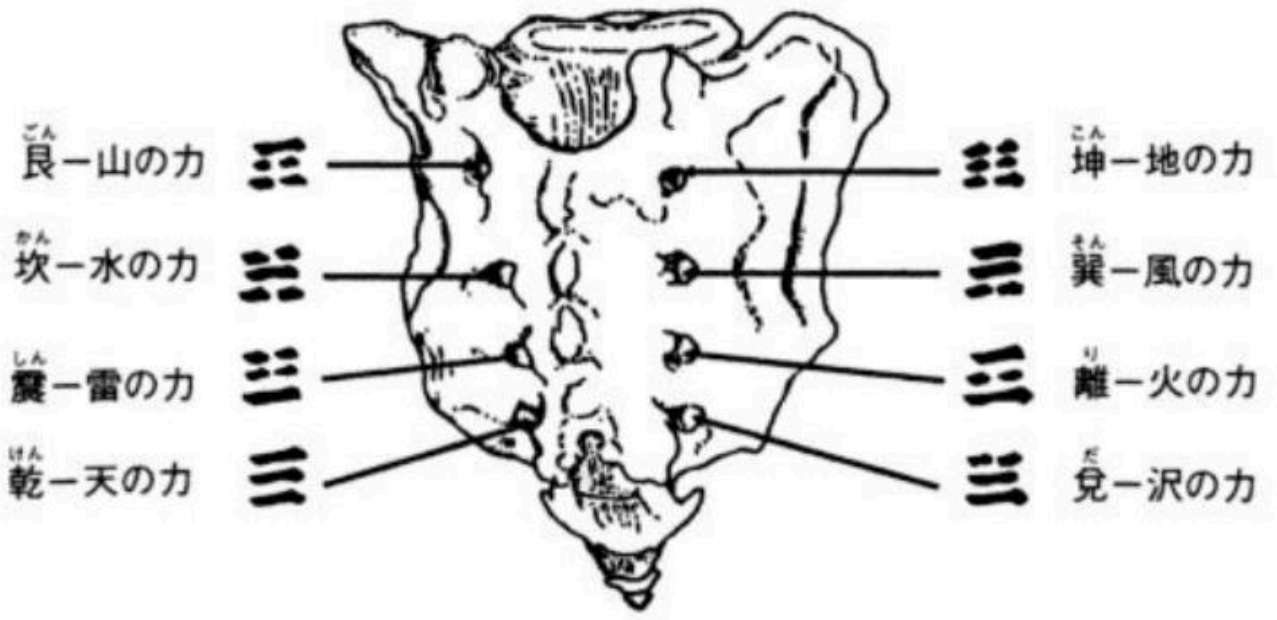








そして「先天八卦」と「遺傳暗号（コドン）」との相關關係の解明も大きな後押しになりました



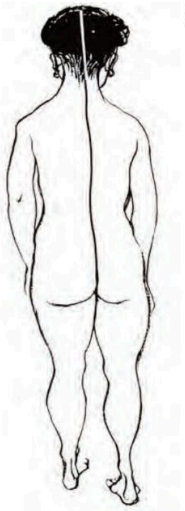
生命の暗号を「遺傳子」、「DNA/RNA」と呼びますが、これは「神の設計圖」、「生命の設計圖」であり、こうした遺傳子情報にアクセスするのが奇經八脈です。それは地上に誕生する前に、どのように生きるのかを決めてきた「人生の青写眞」にアクセスするという意味でもあります。

また、奇經八脈は「DNA を進化させる」ことが可能です。破壊と創造はセットであり、破壊を起こすのが「仙骨八仙洞」であり、創造を起こすのが「奇經八脈」です。「闇」と「光」はセットであり、「闇とは光を生む源泉」であり、「光とは闇の住人」です。

靈的世界と地上世界、この關係性に似ているかもしれません。仙骨八仙洞はスピリットを天に引き上げる役割に対し、奇經八脈はスピリットを地上に具現化する役割です。なので、今の現状を破壊し、新しい世界の創造のためには２つとも必要です。

星信仰の復活の最大最後の關門であった奇經八脈と仙骨八仙洞、これは先天八卦と遺傳暗号の情報により解明されるに至りました。「八卦」と「RNA」の圖が一緒なのは、天體と人體の照應關係の証明であり、これは現代科學の進歩による功績です。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます



督脈（Du Mai/Governing Vessel）

別名：陽経の海

ハーモニックキーノート：始める

乾

督：物事の始まり

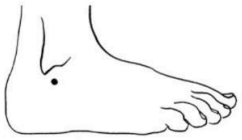
八卦：乾（Ch'ien）/天/南

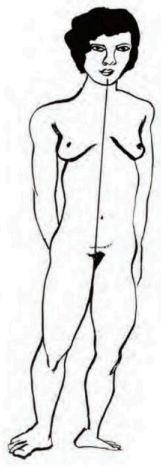
六十四卦：1. 乾（Ch'ien）— 物事の始まり

オープニングポイント：**SI 3** 後谿（Back Ravine）



バランスポイント：**UB 62** 申脈（Extending Vessel）





任脈（Ren Mai/Conception Vessel）

別名：陰経の海

ハーモニックキーノート：受け入れる、反応する

坤

任：受容

八卦：坤（K'un）/地/北

六十四卦：2. 坤（K'un）– 受容

オープニングポイント：**LU 7** 列缺（Broken Sequence）



バランスポイント：**KID 6** 照海（Shining Sea）





帯脈（Dai Mai、Girdle Vessel）

別名：横方向に流れる経脈（Horizontal vessel）

ハーモニックキーノート：つなげる、喜ばしい

兌

帯：喜ぶ

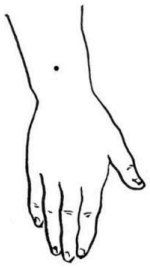
八卦：兌（Tui）/沢/南東

六十四卦：58. 兌（Tui）— 喜ぶ

オープニングポイント：**GB 41** 足臨泣（Near to Tears）



バランスポイント：**SJ 5** 外関（Outer Gate）





衝脈（Chong Mai、Penetrating Vessel）

別名：血海 、十二経の海

ハーモニックキーノート：震 わせる、衝撃を与える、すべてを包み込む

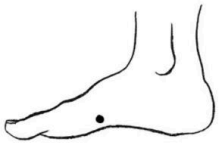
震

衝：（傷が残るほどの）ショック/トラウマ

八卦：震（Chen）/雷/北東

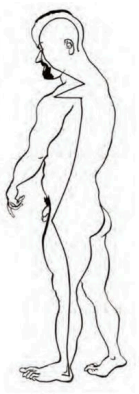
六十四卦：51. 震（Chen）—（傷が残るほどの）ショック/トラウマ

オープニングポイント：**SP 4** 公孫（Grandparents/Grandchild）



バランスポイント：**P 6** 内関（Inner Gate）





陽蹻脈（Yang Qiao Mai、Yang Heel Vessel/Yang Motility Vessel/Yang Supervising Channel）

別名：膀胱経の別脈

ハーモニックキーノート：上昇する、生命を吹き込む



陽蹻：静止

八卦：艮（Ken）/山/西北



六十四卦：52. 艮（Ken） — 静止

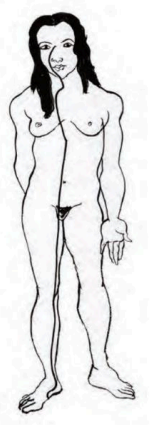


オープニングポイント：**UB 62** 申脈（Extending Vessel）



バランスポイント：**SI 3** 後谿（Back Ravine）





陰蹻脈（Yin Qiao Mai、Yin Motility Vessel/Yin Supervising Channel）

別名：腎経の別脈

ハーモニックキーノート：上昇する、輝かせる、天の意志に沿う



陰蹻：光

八卦：離（Li）/火/東



六十四卦：30. 離（Li） — 光

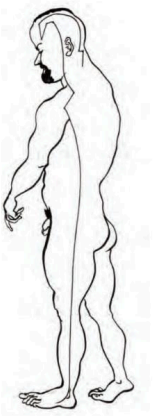


オープニングポイント：**KID 6** 照海（Shining Sea）



バランスポイント：**LU 7** 列缺（Broken Sequence）





陽維脈（Yang Wei Mai、Yang Linking Vessel/Yang Uniting Channel）

別名：諸陽の会

ハーモニックキーノート：ネットワーク化する、外側に出る



陽維：穏やかに進む

八卦：巽（Sun）/風/西南



六十四卦：57. 巽（Sun） — 穏やかに進む

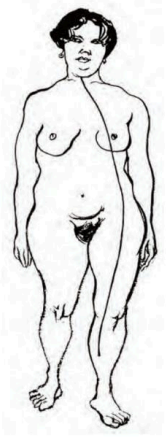


オープニングポイント：**SJ 5** 外関（Outer Gate）



バランスポイント：**GB 41** 足臨泣（Near to Tears）





陰維脈（Yin Wei Mai、Yin Linking Vessel/Yin Uniting Channel）

別名：諸陰の会

ハーモニックキーノート：ネットワーク化する、内側に入る



陰維：湿潤

八卦：坎（K'an）/水/西



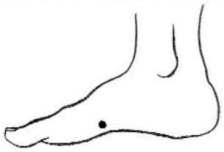
六十四卦：29. 坎（K'an） — 深部の湿潤



オープニングポイント：**P 6** 内関（Inner Gate）



バランスポイント：**SP 4** 公孫（Grandparents/Grandchild）



資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

マインド重視の生き方からハート重視の生き方へのシフト

奇經八脈の「交会穴（こうえけつ）」という、奇經八脈と十二經絡の交わる８つのツボ、これは靈（EXA PIECO）の心という魂という存在の最も奥深くにあるエッセンスが記憶されています。それは、輪廻再生という幾度もの地上への再生を經て受け繼がれた記憶のことです。

奇經八脈のエネルギーの源は「腎臟」であり、十二經絡のエネルギーの源は「膵臟」です。腎臟は「先天の氣」という、生まれる前の記憶であり、膵臟は「後天の氣」という、生まれた後の記憶を管理しています。

先天の氣は奇經八脈と仙骨八仙洞によって循環し、つながり、後天の氣と融合します。しかし、現代地球文化では奇經八脈と仙骨八仙洞は封印され、大靈（たいれい）と靈止（ひと）、大宇宙（マクロコスモス）と小宇宙（ミクロコスモス）を繋いでいた靈的な８本の川の流れが途絶えてしまっています。

それにより、顯在意識のEGO（ＤＩＫＡＧ　エゴ）意識、要するに肉の心（ＤＩＫＡＧ）が肥大していき、地球は大靈（たいれい）に感應（かんのう）する力を損ない、内なる直觀、良心、神意（あい）との繋がりの宇宙の普遍的法則に従って行動する力が奪われました。これが、現代地球文化のあらゆる問題に繋がってしまっているのです。

イエスの教えの眞髄は「FUNEKON（靈）優位、EXA PIECO（靈の心）優位の努力」と「DEVIK（デヴィック）の實踐」です。それによる「靈性の進化」こそが幸福であり、自分で自分を救済する考え方です。それにはFUNEKON（靈）優位による利他、奉仕の實踐が絶対条件です。

FUNEKON（靈）優位、EXA PIECO（靈の心）優位の努力のために眞の禱（いの）り、生命（いのち）の調律が存在します。それは「靈的眞理の學習」という方法以外だと「奇經八脈と音叉ヒーリングの融合による生命（いのち）の調律」という方法がFUNEKON（靈）優位の生き方を高める最高峰の方法論になります。

それにより創造的な源泉の世界、癒し、統合、バランスの世界への扉が開かれるのです

イギリスの詩人、画家、銅版画職人であった「ウィリアム・ブレイク（1757 年～1827 年)」は、人は「無垢」の状態から「經驗」の状態を經て、超越した「無垢」の状態に至り、より完全な叡智の状態に回帰すると考えました。

無垢とは奇經八脈であり、經驗とは十二經絡であり、超越した無垢とは奇經八脈と再び合流することを表しています。しかし地上人類は「靈の大海」、すなわち「大靈（たいれい）」に最も近い奇經八脈にアクセスすることが出來ないため、超越に至ることが出來ません。

地上世界で様々な經驗をしても靈的に進歩することが出來ないということです。人間は年齢を重ねても靈的に進化する訳ではないということです。實際のところ、顯在意識（ＤＩＫＡＧ）で知識を得れば得るほど、顯在意識（ＤＩＫＡＧ）で學べば學ぶほど、調和から遠ざかる可能性が高まります。

ブレイクは大靈（たいれい）の自然法則、宇宙のエネルギーと個々のスピリットのエネルギーを信じてました。そして、肉の心（ＤＩＫＡＧ）を脱して靈の心（EXA PIECO）にアクセスする方法を模索していました。要するに「顯在意識（マインド）」を脱して「心臟腦（ハート）」にアクセスできる方法を探していたのです。

地上人類は顯在意識（マインド）で理解してから行動するという習慣により、體驗（たいけん）をすればするほど無垢との繋がりを失っていきます。地上人類は體驗（たいけん）するだけで、靈的眞理、大靈（たいれい）の自然法則を學んでないのです。

わたし達は自然法則を學び、調和を實踐し、神意（あい）を成就することで靈性を進化させるために生まれてきたのに、それを顯在意識（ＤＩＫＡＧ）では完全に忘れています。しかし、心臟腦（EXA PIECO）は生まれる前に決めてきた人生を自覺しており、潛在意識（ＦＩＫ）では再び思い出されるのを待っています。

奇經八脈の交会穴（こうえけつ）および仙骨八仙洞に「天球の音樂」を取り入れると、靈の心（EXA PIECO）と身體（しんたい）は再び宇宙の音を思い出し始め、「無垢」との「合流」が促されます。その結果、顯在意識（マインド）でこうなりたいと思い込んでいた自分から離れ、「靈の心（EXA PIECO）」の自分へと人生がシフトしていきます。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

奇經八脈のエネルギー・システムの表

奇經八脈	チャクラ	エレメント	OP	BP	ソルフェジオ	惑星の周波數
衝脈	8	虛空	公孫	內關	174Hz、285Hz	ニビル
督脈	7	天空	後谿	申脈	963Hz	天王星
陽蹻脈	6	金	申脈	後谿	852Hz	海王星
陽維脈	5	土	外關	足臨泣	741Hz	水星
陰蹻脈	4	火	照海	列缺	639Hz	太陽、セドナ
帶脈	3	木	足臨泣	外關	528Hz	火星、木星
任脈	2	大地	列缺	照海	417Hz	冥王星、金星
陰維脈	1	水	內關	公孫	396Hz	土星

基本的な奇經八脈の選定基準

奇經八脈	OP　BP	奇經八脈を使用する意味
督脈 任脈	後谿 — 申脈 列缺 — 照海	オーソドックスな奇經八脈。幽體へのアプローチを通して靈體、肉體の双方のバランスを回復させる
陰蹻脈 陽蹻脈	照海 — 列缺 申脈 — 後谿	左右の靈體、肉體のアンバランスに使用し、左右のズレから生じる違和感を消し去る。また、DNA/RNA の再編成の時期にも用いる
陰維脈 陽維脈	內關 — 公孫 外關 — 足臨泣	自分自身との対話、他者との対話、コミュニケーション全般の問題に用いる
帶脈 衝脈	足臨泣 — 外關 公孫 — 內關	前世、胎内記憶、インナーチャイルドなど、スピリチュアル系全般の、魂や心の傷の問題に用いる

奇經八脈、十二經絡、チャクラ、惑星音叉、ソルフェジオ音叉の關係性はすべて解析しました。すべてが「連繫關係」にあります。この連繫關係を知り、日常生活に取り入れることがFUNEKON(靈)優位、EXA PIECO(靈の心)優位の努力、音叉による生命(いのち)の調律になります。

陰陽を統括するもの、「FUNEKON(靈)」		
2大脈	奇經八脈	十二經絡
隱された祕密	8つの原型細胞	12螺旋DNA
管理する部位	EXA PIECO 靈の心、靈體(れいたい)、靈體(れいたい)オーラ	DIKAG 肉の心、肉體(にくたい)、肉體(にくたい)オーラ
管理する臟器	腎臟	膵臟
管理する器官	心臟腦	大腦
管理する記憶	生まれる前の記憶	生まれた後の記憶
影響する周波數	ソルフェジオ音叉	惑星音叉
フィボナッチ	ウォーター・フィボナッチ音叉	オーム・フィボナッチ音叉

わたし達のEXA PIECO 靈の心、靈體(れいたい)、そして身體(しんたい)をコントロールしている潛在意識FIKは、奇經八脈のエネルギーの流れを覺えており、潛在意識FIKの深い部分で憧憬(どうけい)を抱いています。その流れが記憶されているのが、十二經絡の「原穴(げんけつ)」です。

奇經八脈と十二經絡は「スピリットと物質を繫げる一對(いっつい)の關係」であり、切り離して考えるのではなく、スピリットと物質、靈的世界と地上世界を再び統合するための「道」と捉えるのが正解です。

奇經八脈は「FUNEKON(靈)」に最も近いものであり、「原型細胞」という不死の細胞が眠っており、そこから原初のDNAの12本の螺旋構造を映し出す12本のDNAの流れが進化して正經(せいけい)十二經絡と呼ばれるエネルギーの通り道となりました。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

奇經八脈は 12 螺旋 DNA に DNA を進化させる鍵



靈體と肉體との間には、２つの異質の身體を結びつける接着剤のような部分があります。この部分を「幽體」、「結合體」、「中間體」と呼びます。幽體と呼ばれる結合體は「半物質・半幽質」によって形成され、その材質の特殊性によって２つの異質の身體を結びつけ、両者の間のエネルギーの交換を可能にしています。この結合部の別名を「チャクラ」と言います。

チャクラは、「シルバーコード」と「脊髄」を通して靈體と肉體を繋いでおり、脊髄を通して「DNA」のように「螺旋状」に靈體と肉體を結んでいます。ヒンドゥー教の傳統では、このカラダを流れる天のエネルギーを「クンダリーニ」と呼びます。

この靈體と肉體を繋いでいるシステムが「髄液」であり、髄液を正常に働かせるのが「ミネラル」であり、ミネラルにより「自律神經」を通して靈體と肉體を繋ぎます。これが人間の身體構造の秘密の一部です。

人間を構成する本質と、ネットワーク關係			
人間の身體(しんたい)構成	靈體(れいたい)	幽體(ゆうたい)	肉體(にくたい)
管理する器官	奇經八脈	チャクラ	十二經絡
分泌液	リンパ液	髓液	血液
分泌液の作用	靈體(れいたい)オーラ	自律神經	肉體(にくたい)オーラ
エネルギーの触媒	ホルモン	ミネラル	酵素
健康との關連	細胞、睡眠、休息	骨、食事、水	筋肉、運動、散歩

これらの上位が「FUNEKON(靈)」と「心（EXA PIECO靈の心とDIKAG肉の心）」です。要するに、靈と心が一番大切なものです。そして「魂」とは「EXA PIECO靈の心」のことであり、わたし達地上世界の人間は靈、魂に沿った生き方をする必要があります。

しかし、地上世界の人間はDIKAG顯在意識のEGHO(エゴ)意識に支配されています。これを「DIKAG肉の心」と呼びます。星信仰の復活とは、再び靈、魂の道に向かうための叡智を地上世界に復活させることです。

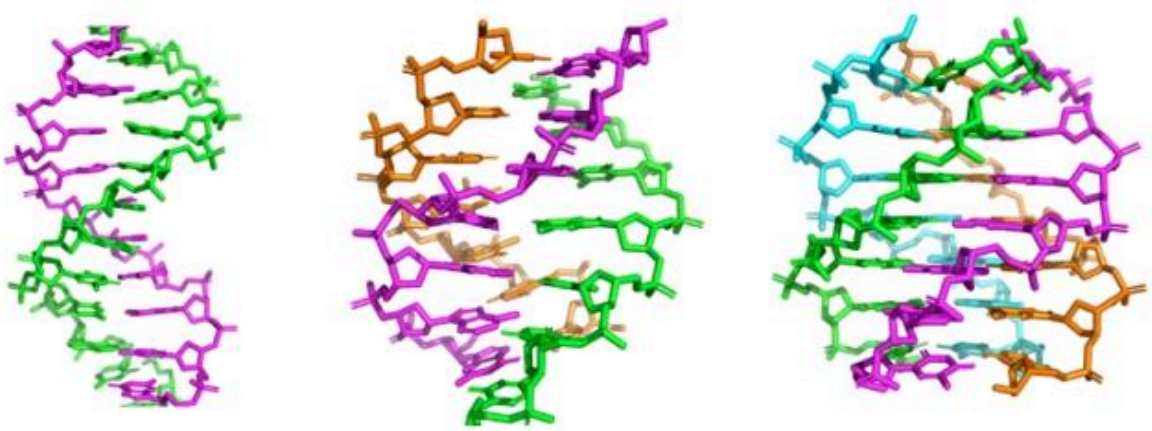
心を繋ぐのが「精神」であり、人間は「FUNEKON(靈)」という本質を見ず、心と心を繋ぐ精神を失うことでの心のアンバランスによりDIKAG顯在意識のEGHO(エゴ)増大、要するに利己主義、物質中心主義によりあらゆる地上世界の問題が生まれています。

現代地球文化では、EXA PIECO靈の心とDIKAG肉の心が分離しているのが当たり前の状態になっているからです。奇經八脈、仙骨八仙洞により入り口が開くと、ハート、細胞、骨、筋肉に蓄積している記憶が開放されます。

８本の川である奇經八脈に音が溢れ、その音は十二經絡を満たし、新たに奇經八脈と合流することで新しいパターンを形成します。それが DNA を進化させる鍵なのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

二重らせん　三重らせん　四重らせん



人間は、奇經八脈により「靈の心（EXA PIECO）、靈體（れいたい）、靈體（れいたい）オーラ」を管理、コントロールし、十二經絡により「肉の心（DIKAG）、肉體（にくたい）、肉體（にくたい）オーラ」を管理、コントロールしている。両方を繋ぐのが「チャクラ」であり、人間は靈と肉を同時に備えた存在です。

生まれる前の記憶は「８つの原型細胞」が有し、そのコピーとして「12 螺旋 DNA」が存在しています

奇經八脈、仙骨八仙洞にアクセスすると「有機的肉體（にくたい）の再構成（DNA/RNA を新しい次元の細胞に入れ替える）」という「遺傳子（いでんし）の構造變換（へんかん）」により、二重螺旋、三重螺旋という風に DNA の進化が始まります。

奇經八脈の８つの交会穴（こうえけつ）は、十二經絡上にあり、それぞれがいずれかの奇經と交わっています。あらゆるものに「靈的世界」と「物質世界」がありますが、それらを繋ぐのは「８」であり「∞（メビウス）」です。「∞（メビウス）回轉（かいてん）」は宇宙の普遍的なパターンであり、すべてを繋ぐものです。

原初靈である妖精、別名「ソマチッド」は、「∞（メビウスかいてん）回轉」により活性化し、宇宙からのエネルギーを取り入れることが科學（かがく）で解明されています。



第三章

432Hz と 528Hz とオーム

3つの「基音（ホームトーン）」が奏でる旋律（メロディー）が

自己改革の前奏曲（プレリュード）になる

始まりの音が、靈的人生をスタートさせる



資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

528Hz とオームの基音（ホームトーン）



音叉によるセルフヒーリング導入編セットは「528Hz 倍音トライアルセット」で「528Hz（※132Hz）」が基音（ホームトーン）になり、音叉によるセルフヒーリング入門編セットは「オーム倍音セット」で「136.1Hz」が基音（ホームトーン）になります。

「528Hz 倍音トライアルセット」と「オーム倍音セット」により、「奇經八脈プロセス ver」のセルフヒーリングをすることが、「FUNEKON（靈）優位」の努力の一つになります。

禱り（いの）とは「FUNEKON（靈）」と「EXA PIECO（靈の心）」と「DIKAG（肉の心）」を一致させ、「FUGEHUKON（大靈）」と繋がるための「EXA PIECO（靈の心）の所作」です。

そのためには早朝に『シルバーバーチの禱り（いの）』を讀（よ）み上げること、「音叉によるセルフヒーリング」を通した禱り（いの）で、禱り（いの）のレベルを強化することが理想です。

自然界は「調和（ハーモニー）」と「均衡（バランス）」で成り立っておりますが、これを音の理論に当てはめると、「基音（ホームトーン）」こそが「調和（ハーモニー）」であり、「和音」こそが「均衡（バランス）」になります。この「調和（ハーモニー）」と「均衡（バランス）」が崩れると、病氣、不快、異常というメッセージが始まるのです。

音によるヒーリングは、異なる周波数による和音や倍音を奏でることにより、魂心身（こんしんしん）のバランスを整え、潜在意識（FIK）の奥深くに隠された感情を浮かび上がらせ、成長や變容（へんよう）を刺激し、内なる自分自身の調和と、宇宙との繋がりをもたらします。

物質とエネルギーを繋げているのは「周波数」であり、日本語で「波動」や「振動」といわれるものになります。そして、その周波数との「Resonance（レゾナンス）」が「SYMPATHY（シンパシー）」の現象を生み出します。

「共鳴（Resonance）」と同じ原理に、「共感（SYMPATHY）」があります。共感能力とは、「靈性の進化」に比例して拡大していきます。共感とは、共鳴し合い、まるでひとつのものであるかのように關連し合い、照應（しょうおう）している状態です。共感能力とは、日本語で言うならば、思いやりであり、神意（あい）です。

宇宙のあらゆるものは波動を發しており、人の耳に聴こえるかどうか、感じられるかどうかは別として、万物は固有の共鳴周波数を持っています。

ミクロでいえば原子核、マクロでいえば銀河や惑星も波動を放っています。それらのミクロとマクロ、宇宙と人を繋げている周波数の中心は「528Hz」になります。

528Hz は「フィボナッチ数列」や「黄金比」とも繋がっており、生命の螺旋構造を表す美しい波長である 528Hz は、サウンドヒーリングの理論にとって外せない周波数です。528Hz が二つ以上の音（二つ～無限大∞）による和音や倍音を發する際、共鳴共感を生み出し、まるで一つのものであるかのように關連し合います。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます



また、「オーム」も重要な周波数であり、ヒンドゥー教の宇宙論では、最初の動きによってオームという音が自然發生するまで、宇宙の胎内にあるのは闇と靜寂だけであったとされています。

音叉によるセルフヒーリングで、オームはあらゆるヒーリングハーモニーを奏でるための基盤として使用されます。オームの音を聽くと、外部の騒音が氣にならなくなり、内部のバランスが整います。

スピリチュアリズムを通して、地上世界は「騒音の地上世界」と呼ばれており、靈的世界は「靜寂の靈的世界」と表現されておりますが、外部の騒音は高級靈にとって大敵であり、近づくことを不可能にさせます。

オームの音は、地球の１年のサイクル、「地球の公轉（こうてん）」のサイクルの周波數、地球の四季を通じて太陽の周りを公轉（こうてん）するのにかかる周期（365 日）の音として計算されています。オームの音とひとつになると、地球の周期とシンクロします。

「There's no place like Ohm」（オームにまさるところなし）

精神統一をなさることです。時には煩雑なこの世の喧騒を離れて魂の静寂の中へお入りになることです。静かで受身的で受容性のある心の状態こそ靈にとって最も近づき易い時です。静寂の時こそ背後靈が働きかける絶好機なのです。

片時も静寂を知らぬような魂は騒音のラッシュの中に置かれており、それが背後靈との通信を妨げ、近づくことを不可能にします。ですから、少しの間でいいのです。精神を静かに統一するよう工夫することです。すると次第に役に立つ良い考えが浮かんでくるようになります。

『シルバーバーチの靈訓（二）』p.18

オームは、地球を、さらには宇宙を誕生せしめた「原初の振動（バイブレーション）」と言われており、生命の根源的なマントラであり、聖なる音です。光（ひかり）がすべての色を含むように、オームはすべての色を含んでいます。

古代の人々は、瞑想、禱（いの）りを通して靈的世界と繋がり、「直觀」を通してオームの音を知りました。古代の人々は禱（いの）りによって靈界、他の星々、そして宇宙と繋がっていました。禱（いの）りは「FUNEKON（靈）優位」、「EXA PIECO（靈の心）優位」になるために必要な日常生活の實踐項目の一つであり、その禱（いの）りに必要な音が「オーム」だということです。

どうぶつ界も、オームの音と神秘的な繋がりを持っています。自然界に入って、鷲や鯨や狼の声を聽こうとした音樂家のポール・ウインターは、その鳴き声が「アオウム（オーム）」音で始まり、「アオウム（オーム）」音で終わることを發見しました。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

第３の基音（ホームトーン）「128Hz」と「432Hz」



音叉によるセルフヒーリング入門編セットには「128Hz」がありますが、これは「C（ド）=128Hz」という音であり、Aの音階（ラ）だと「A（ラ）=432Hz」になります。基音（ホームトーン）の違いを簡潔にまとめると、以下のような違いになります。

【音叉によるセルフヒーリング導入編、入門編の基音（ホームトーン）】		
第１の基音（ホームトーン）	136.1Hz（地球の四季のサイクル）	DIKAG（にくたい）肉の心、肉體に作用する
第２の基音（ホームトーン）	132Hz（528Hz の２オクターブ下）	幽體（ゆうたい）（靈肉両方）に作用する
第３の基音（ホームトーン）	128Hz（432Hz の音階違い）	EXA PIECO（れいたい）靈の心、靈體に作用する

※厳密には色々な作用がありますが、敢えて基音（ホームトーン）の違いを明確化するために、このように違いを簡潔に説明にしていることに留意してください

128Hz は、「宇宙のリズムと一體化する 432Hz」の「音階違い」であり、區分として「432Hz」の周波數と思ってもらって構いません。128Hz はシュタイナーが言った言葉でも有名かもしれません。

「C=128hz（A=432hz での C 調）に基づいた音樂は、靈的自由へ人々を支援するでしょう。人間の内耳は C=128hz に基づき構築されます」　　ルドルフ・シュタイナー

128Hz の倍音も非常に重要な意味を持ちますが、128Hz の 16 倍の周波數「2048Hz」は「Flower of Life」の周波數であり、128Hz の 32 倍の周波數「4096Hz」は「CRYSTAL TUNER」の周波數になります。どちらもニューエイジ系には馴染みの深い周波數になります。

赤ちゃんが地上世界に誕生する際、「オギャー」と泣きますが、その声は 432Hz であり、この宇宙と繋がったAの音、432Hz は、星々の周波數を全部受け取れるようにする周波數とも言われてます。

要するに、太陽系の天體であるマーキュリー、ヴィーナス、マーズ、ジュピター、サターン、ウラナス、ネプチューン、プルートなどの惑星の音を「靈體」に全部取り込めるのです。これはCの音である 128Hz でも理論上は同じです。

星と繋がり、星とともに生きる、宇宙の大靈の自然法則に適った生き方にシフトするための周波數が「128Hz」と「432Hz」であり、「432Hz エナジーバー」は音叉によるセルフヒーリング初級編セットに含まれます。

432Hz エナジーバーを鳴らすと、星々が共振共鳴し、身體に星のエネルギーの振動波を更に受け取れるようになり、禱りの靈的次元が更に高まります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

すべての基音（ホームトーン）を通した大靈（たいれい）、宇宙、靈的世界との繋がり



音叉によるセルフヒーリングは、このように３つの「基音（ホームトーン）」を基準に構築されています。敢えて表現するならば、「132Hz」は「銀河（ギャラクシー）」、「128Hz」は「惑星（プラネット）」、「136.1Hz」は「地球（アース）」と表現してもいいかもしれません。

これらの基音（ホームトーン）を通して、各音の和音や倍音を奏で、宇宙、地球の星々の振動（バイブレーション）を人體（じんたい）に取り入れると、各音の深みと情感が絡み合い、互いに響きを映し合い、單音をただ足しただけではない、靈の大海、すなわち大靈（たいれい）と再び融合する道がスタートします。

３つの基音（ホームトーン）からなる「音程（インターバル）」を通して、地上人類の生活は「自然法則」に適った世界へ導かれ、「自己」との關係、「他人」との關係、「靈界」との關係、「大靈（たいれい）」との關係が變（か）わり始めます。

聖なる音は、宇宙の起源、大靈（たいれい）と自己の靈的關係、感情的關係を表現するのに役立ちます

宇宙を管理、維持、運營する永遠不變の自然法則は、人間ひとりひとりにも正確に働きます。スピリチュアリズムを通した靈的眞理では、身體が何かの影響を受けた場合、その源を辿れば大靈と宇宙に辿り着くことを教えてくれました。

身體を癒す方法を知るには、大靈と自然法則、そして「周波數」に答えを求めなければなりません。すべては「振　動」であることをスピリチュアリズムでも明言しており、わたし達は大靈の周波數と一致させることが大切なのです。

靈の大海を「神智學」で表現すると「Devachan」と表現します。純粋なる音の世界、靈の眞の故郷と呼ばれています。毎晩、眠りにつき顯在意識が記憶を失うたびに、わたし達は靈界を訪れています。その靈的な痕跡は、顯在意識が再び目覺めても靈の心には殘ります。

３つの基音から發する音と音程は、靈の大海であるDevachanの世界に橋を架けます。そして、聖なる叡智が再び甦るのです。

そうした意味で、音叉セルフヒーリングは「ヒーリング法」という枠を超えた「聖なる錬金術」であり、「音」と「振　動」によって「FUNEKON」と「EXA PIECO」に根本的な變容を起こす地上世界最先端の「方法論」です。

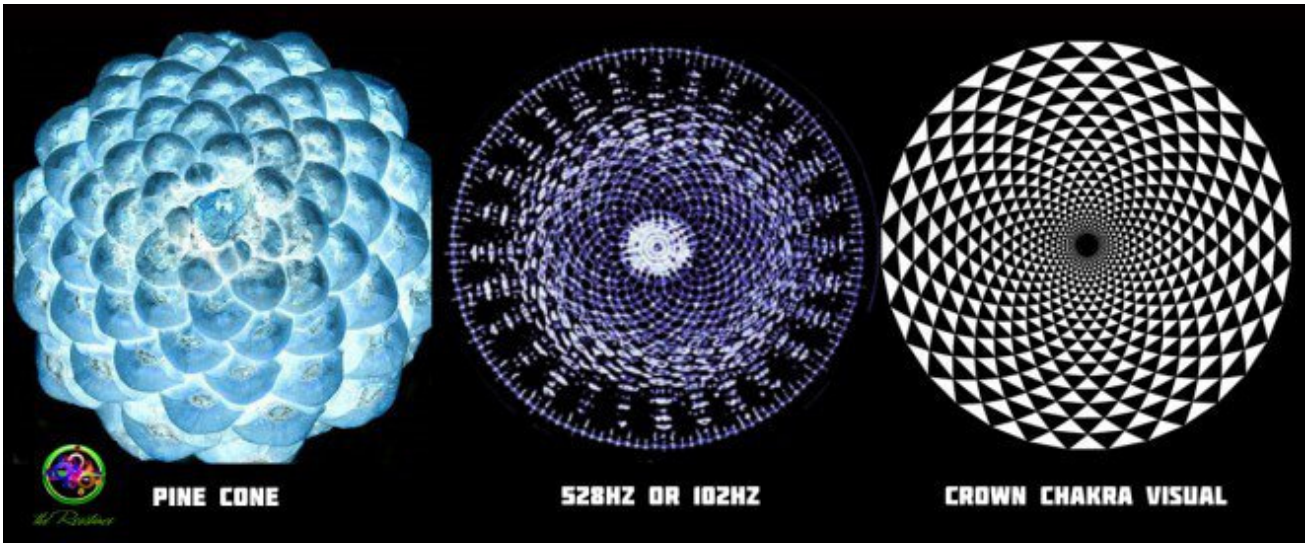
靈的眞理（シルバーバーチの靈訓とスピリチュアリズムの思想體系）による「在り方」に、音叉によるセルフヒーリングという「やり方」がマッチすることにより、FUNEKONを生まれる前に決めてきた「人生の青写眞」に再会させ、地上天國を實現させるための力になります。

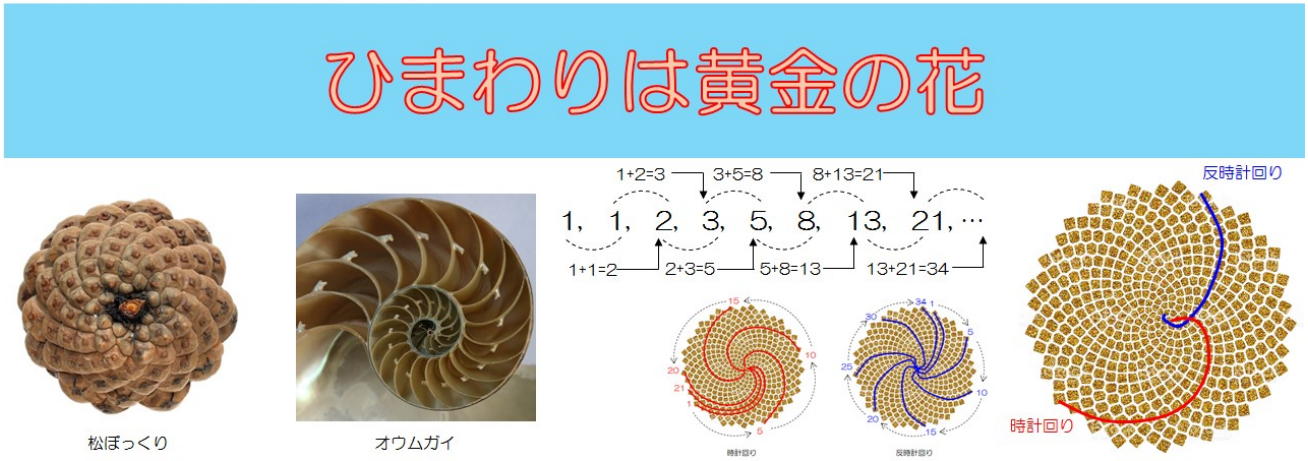
わたし達のFUNEKON、EXA PIECOが「調和」と共鳴し、利他、奉仕を實行しようとする時、それと似たFUNEKONが相互に引き合い、相互に助け合い、奉仕し合います。その共振共鳴により、人間は存在の意味を顯在意識で自覺し、さらなる靈性の進化が可能となるのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

フィボナッチ数列と黄金比について

一番の基本の周波数である 528Hz の周波数の波長は、「渦巻き」の波形を表し、フィボナッチ数列とも繋がってきます。自然界は面白いことに、数字と密接な關係がある植物がたくさんあります。自然界で生活する植物は、宇宙の仕組みを非常に美しく再現しています。





528Hz の特性に、人間が本來持っている神意（あい）の力を呼び覺まし、さらに高め、洗脳からの解放（情報氾濫（はんらん）する社會（しゃかい）の中で、正しい情報を選択する“判斷力”を身に付ける）を促し、損傷した DNA の修復します。また、物質とスピリットを繋げる周波數ともいわれ、見えている世界と、見えない世界を結ぶ振動波でもあります。

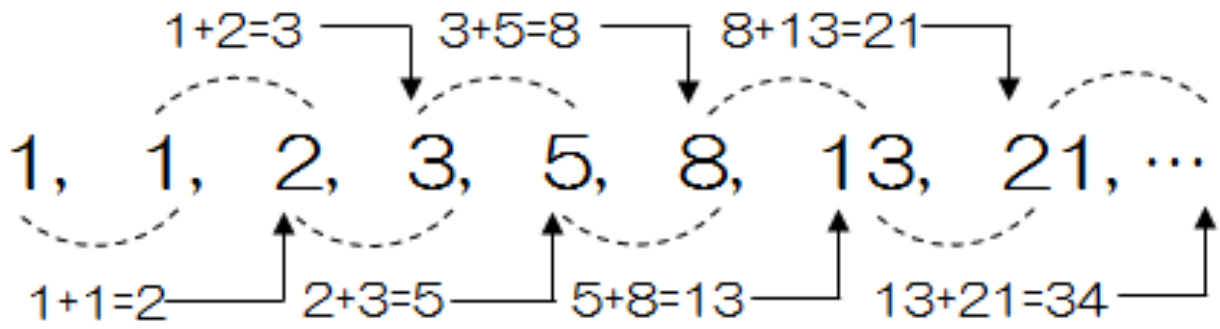
フィボナッチ数列を簡単にご紹介

Φ = 1.6180339...

(フィボナッチ数列)

目的の数	前の数	割り算	比率
1	1	1 / 1	1.0
2	1	2 / 1	2.0
3	2	3 / 2	1.5
5	3	5 / 3	1.6666
8	5	8 / 5	1.600
13	8	13 / 8	1.625
21	13	21 / 13	1.615384
34	21	34 / 21	1.619048
55	34	55 / 34	1.617647
89	55	89 / 55	1.618182
144	89	144 / 89	1.617978
233	144	233 / 144	1.618056

フィボナッチ数列とは、「1, 1」から始まり、前の二つの数字を足したものをドンドン並べていったものです。実際に書いてみると、1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, …となります。下の圖のように、どの数字も前の二つの数字を足したものになっています。



例えば 8 に注目すると、その前二つの数字は 3 と 5 ですので、足すと 8 になります。これが、フィボナッチ数列のもっとも基本的な性質です。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

隠された黄金比

そして、もう一つ重要な性質があります。数列（すうれつ）の隣り合った数字（すうじ）の比をとって並べてみましょう。つまり、二つの並んだ数字で右の数字から左の数字を割るのです。すると、

$$\frac{1}{1}\quad\frac{2}{1}\quad\frac{3}{2}\quad\frac{5}{3}\quad\frac{8}{5}\quad\frac{13}{8}\quad\frac{21}{13}$$

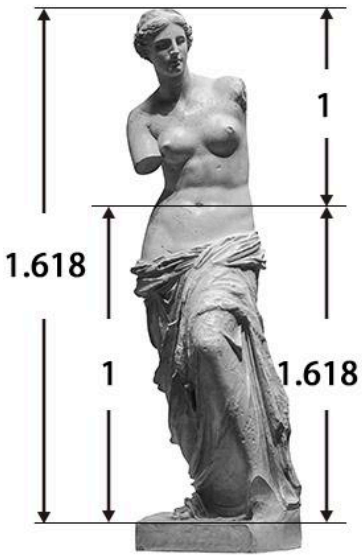
となり、これを計算して小数で表示すると、

1，　2，　1.5，　1.66…，　　1.6，　1.625，　1.6153…，　…

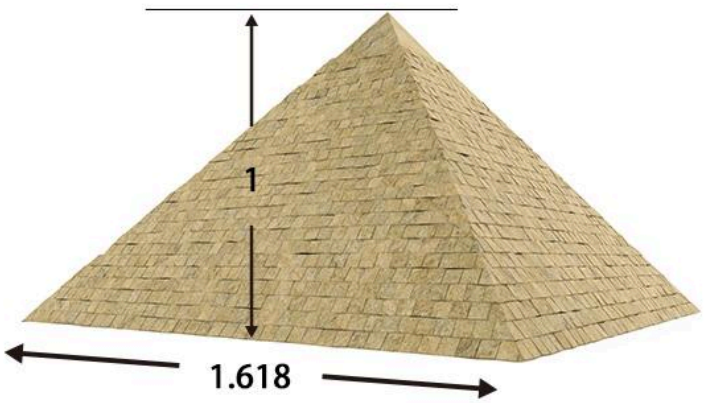
となります。これは、右にいくほど何かある数に近づいていっているような感じがしますね。實は、これはフィボナッチ数列と繋がっています。

フィボナッチ数列の隣り合う比をとっていくと、黄金比(1.61803)に近づいていきます。

黄金比とは、この世の中で最も美しいと言われている比になります。



ー黄金比と呼ばれる建造物ー



黄金比は「Φ（ファイ）比率」とも言われる、非常に重要なものです

$$\frac{b}{a} = \frac{b+a}{b} = \frac{c}{b}$$

$$b^2 = a^2 + 1^2 = (½)^2 + 1 = ¼ + 1 = \frac{5}{4}$$

$$b = \frac{\sqrt{5}}{2}$$

$$c = a + b = ½ + \frac{\sqrt{5}}{2} = \Phi$$

$$\Phi = 1.6180339...$$

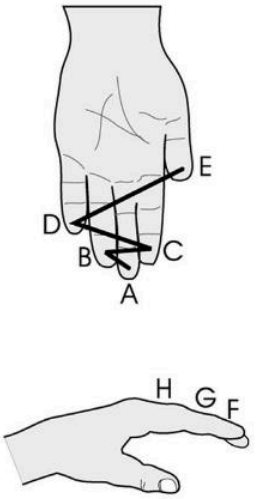
ファイ比率の方程式

$$\frac{BC}{AB} = \frac{AB + BC}{BC} = \Phi$$

$$\frac{DC}{BC} = \frac{BC + DC}{DC} = \Phi$$

$$\frac{DE}{DC} = \frac{DC + DE}{DE} = \Phi$$

$$\frac{GH}{FG} = \frac{FG + GH}{GH} = \Phi$$



人体に見られるファイ比率の例

ファイ比率の數學（すうがく）は、人間の一生に關わっているだけでなく、わたし達の知るありとあらゆる有機體（ゆうきたい）組織において見られるものです。どんな種であろうとも、いったん１つのサイズが特定されれば、その種における他のどの部分もファイ比率に従って割り出されます。そのファイ比率は「528Hz」によって生み出されています。

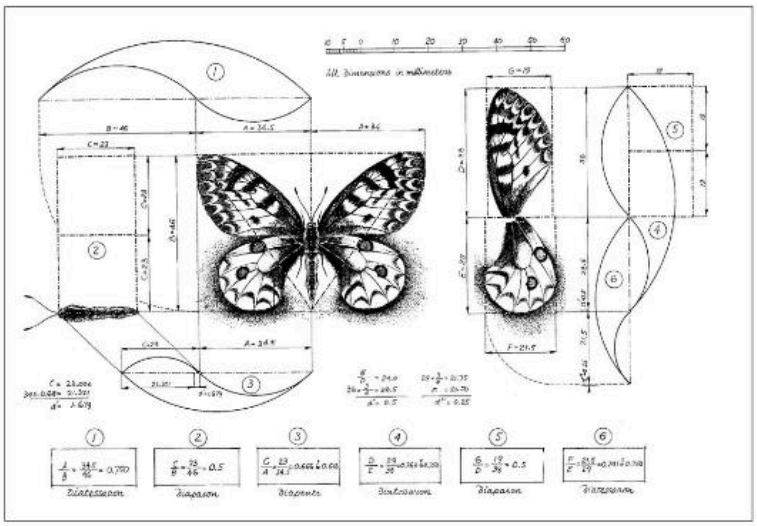
もう１つ、わたし達の生命が持っている神聖幾何學（きかがく）形状として「螺旋（スパイラル）」があります。みなさんはそれは一體（いったい）どこからやって來たものだろうと思うかもしれませんが、生命は全て螺旋（スパイラル）の中で生きています。

銀河の腕は渦巻つまり螺旋状ですし、人間の耳の中には小さな螺旋状の器官があって、その螺旋を使ってまわりの音を聞いているのです。自然界には螺旋がたくさん存在しています。探せばどんどん見つかります。松ぼっくり、ヒマワリ、どうぶつ達の角、鹿の角や貝殻や、デイジーその他多くの植物などの中に螺旋が見られます。

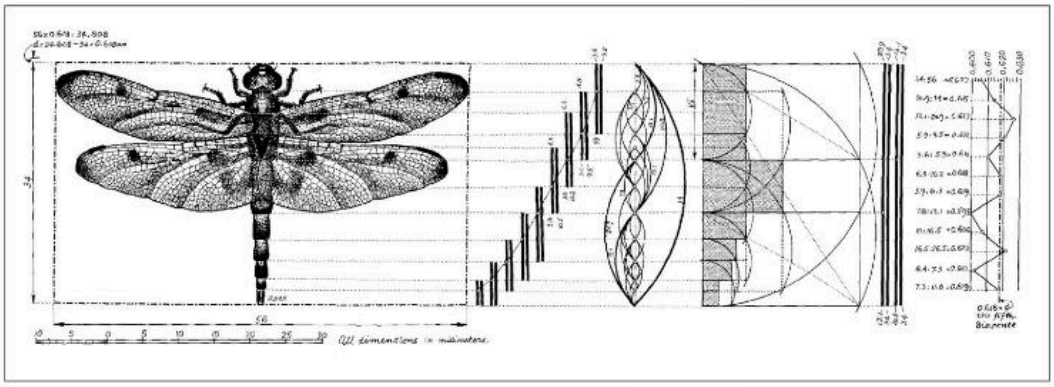
手のひらを開いたまま眞っ直ぐ前に突き出して、親指が自分のほうを向くようにしてください。そのまま握りこぶしを作ると、その最初の動きは小指から始まります。それらはフィボナッチ螺旋を描いて動きます。そのフィボナッチ螺旋も「528Hz」が元になっています。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

生命の中に見られる黄金比



蝶に見られるファイ比率

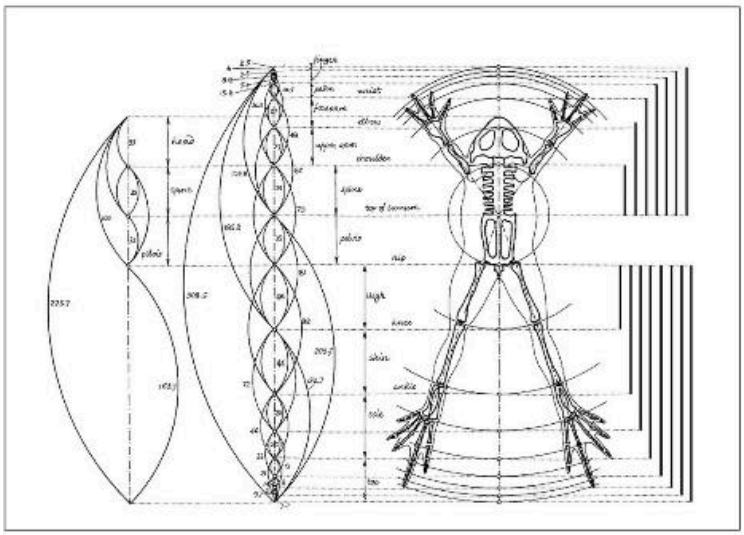


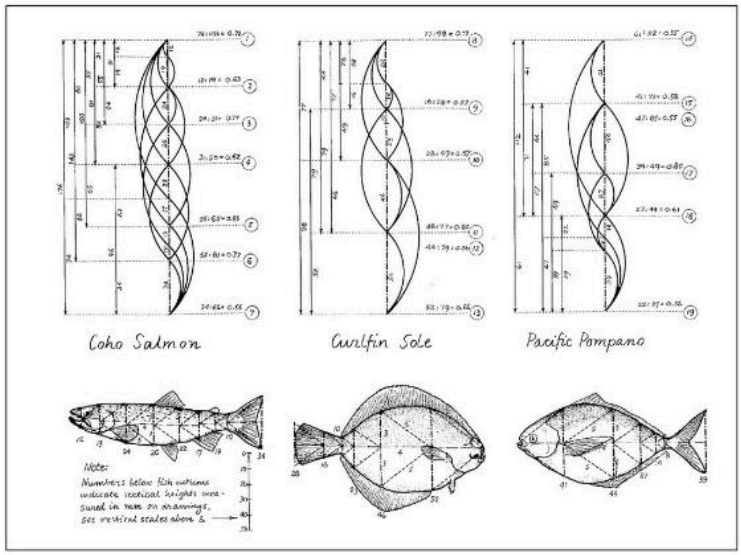
トンボに見られるファイ比率

蝶やトンボの尻尾の各部にもすべて「ファイ比率」を見出すことができます。トンボの尻尾の一關節ずつが「ファイ比率」なのです。同時に脚の小さな關節それぞれや、羽の長さと幅、頭の幅と長さの対比など、いたるところに見受けられます。

カエルの骨格を見ると、いかにそれらすべてが人體同様に「ファイ比率」で構成されているかがわかります。魚には本当に驚かされます。なぜなら魚は一見、「ファイ比率」とはまったく無關係のように見えるからです。ほかにもそうした類のものは山ほどあります。けれどもよく調べてみると、あらゆる存在物に「ファイ比率」は存在しています。

フィボナッチ數列、黄金比は「生命設計圖」の根幹とも言えます

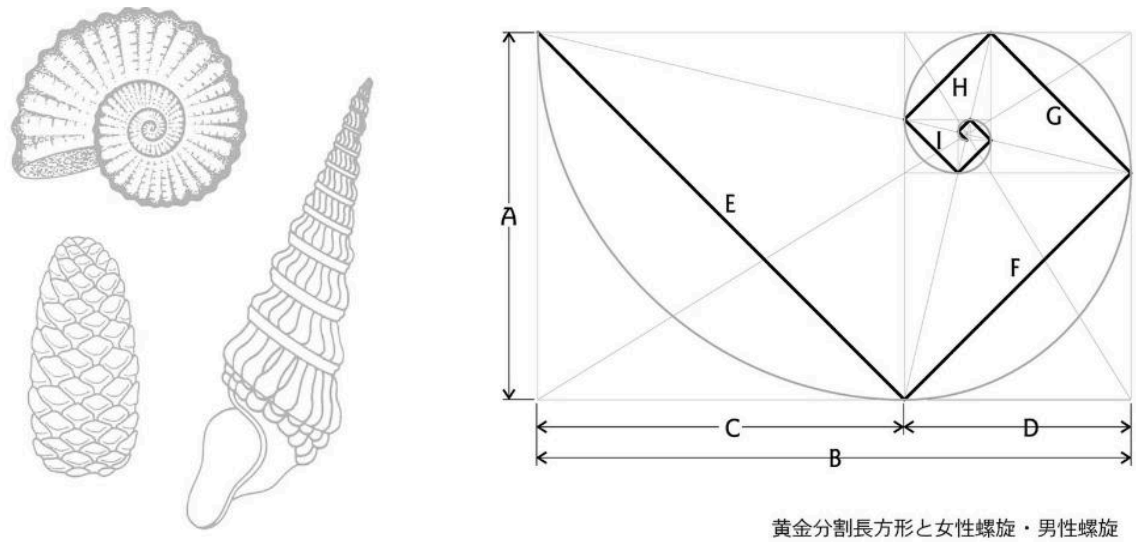




528Hz 倍音トライアルセットは、こうした生命の中に見られる「黄金比」に働きかけます。

EXA PIECO
靈の心（心臓脳）と肉の心（大脳）を一致させ、靈體と肉體にアプローチする 528Hz は、すべての周波数の基本であると言えます。EXA PIECO 靈の心（心臓脳）と DIKAG 肉の心（大脳）を一致させ、靈體と肉體にアプローチする 528Hz は、すべての周波数の基本であると言えます。

万物とのコミュニケーションの鍵は「EXA PIECO 靈の心（心臓脳）」であり、どれだけ 528Hz で心臓脳を活性化させられるかが大事です。



黄金分割長方形と女性螺旋・男性螺旋

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

地球の音「オーム」の重要性について

それとは變わり、オームは「地球」の１年のサイクルであり、地面の音、根っこの音、どっしりした地球の音です。木がすくすくと育つためには根っこが必要なように、人には「地球（オーム）」が必要なのです。

「地球（オーム）」の音は、他の周波數との音程（インターバル）により、「靈的巡礼（スピリチュアルジャーニー）への旅」への支度を整えます。地球（オーム）の音は「バランス」を表し、肉の心（ＤＩＫＡＧ）、肉體（にくたい）のエネルギー的なバランスの崩れを調和しようとします。すなわち、十二經絡に大きく影響するということです。

宇宙の深奥（しんおう）とも言われるエネルギーを持つため、心身のバランスを整え、免疫機能を高め、肉體（にくたい）の不調和と緊張を取り除く波動を持っています。肉體（にくたい）において地球は、仙骨、臀部、肝臓、足全般を司ります。

音叉によるセルフヒーリングによる生命（いのち）の調律は、「星々」と「地球」の關係性から生まれる美しい音程（インターバル）を、イエス再臨後という靈的新時代に復活させました。その響きによって、わたし達地上世界の人間は、宇宙や自然のサイクルと再び同調することが出來るのです。

ヒンドゥー教の教典には、オームは「神祕のパワーの貯藏庫」であると書かれています。インドの聖者は、インドの音階（ラーガ）でいうところの「サ」の音が、オームの振動（バイブレーション）と共鳴すると信じられています。

オームの音は瞑想を深め、悟りと覺醒へと導くためのサポートの振動（バイブレーション）を持っており、シタールなどのインド樂器は、この音に調律することで瞑想状態を作り出します。

古代タントラ佛教（ぶっきょう）の經典には、オームは「最も強力な振動（バイブレーション）である」と書かれています。オームの音に關する太古の記述が世界各地にあることがオームの重要性を物語っています。



第四章

チャクラエナジーバー

半霊半物質である幽體（ゆうたい）

形而上（霊的世界）と形而下（地上世界）を繋げる接合点

現實と本質を繋げる画期的ツール



資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

各エナジーバーの種類と意味について



音叉セルフヒーリング導入編～音叉セルフヒーリング上級編まで、必ず使うサウンドツールは「各エナジーバー」になります。エナジーとは、「エネルギー」、「活力」、「元氣」という意味であり、各ステージの違いはこのようになります。

音叉セルフヒーリング　各ステージのエナジーバーについて		
ステージ	使用するエナジーバー	意味
導入編	528Hz エナジーバー	528Hz の倍音による心身の調律
入門編	チャクラ・エナジーバー（レギュラー）	チャクラ活性
初級編	チャクラ・エナジーバー（ハーモニック） 432 Hz エナジーバー オーム・ロングエナジーバー	チャクラ活性を更にレベルアップ 星々の周波数を身體（しんたい）に取り入れる オームの効果を更に高める
中級編	ソルフェジオ・エナジーバー	聖なるソルフェジオ音階のレベルアップ
上級編	プラネタリー・エナジーバー	チャクラバー＋プラネタリーバーによる チャクラ活性の更なるレベルアップを促す

エナジーバーというサウンドツールは、日本ではあまり普及していないタイプものですが、ただ鳴らすだけで外側からの刺激により靈體と肉體を活性化させてくれるものであり、非常に便利なサウンドツールになります。

エナジーバーは様々なタイプが存在しますが、導入編と入門編では「528Hz エナジーバー」と「チャクラ・エナジーバー（レギュラータイプ）」が使用するエナジーバーになり、ステージが上がるごとに「倍音」や「和音」が追加されていくようになります。

エナジーバーを單體で使用するよりも二つ同時での使用のほうが數倍の効果を得ることができます。なので、レギュラータイプも基本的に二つを同時に使用する方法により、生命の調律の効果を數倍以上にしていきます。

エナジーバーを二個同時に鳴らすことで、二つの音の間に存在する立體的で振幅の大きな深い振動と、耳には聞こえない「超音波」が發生し、より心身の深部にまで「振動」が届くようになり、體内の歪みも調整します。

チャクラ・エナジーバー（レギュラータイプ）七個セットは、音叉によるセルフケアでも必須のツールです。チャクラを活性化していき、靈の心と肉の心が一致することがセルフヒーリングの目的の一つになりますが、そのためには誰でも簡單にセルフケアが出來るチャクラバーが効果的になります。

エナジーバーは、「各周波數ごと」に存在し、「フォークタイプ」か「ヘヴィーフォークタイプ」のみを音叉と認識している人間にとって画期的なサウンドツールであると言えます。このサウンドツールを活用している音叉のスクールは、實は世界中を調べても殆どありません。

音叉によるセルフヒーリングは、「フォークタイプ」、「ヘヴィーフォークタイプ」、「エナジーバータイプ」をどれだけ融合調和するかで、効果がまったく變わってきます。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

各チャクラバーの使い方の一例

チャクラバーによるチャクラの活性化は、音叉セルフケアの基本になります。チャクラバーの使用方法は何通りかあります。どれも正解でも、自由に使うことが基本になります。その中での基本的な使い方をお傳えするので、参考にしていただきたいと思います。



① C（1）＋ D（2） チャクラバー
② D（2）＋ E（3） チャクラバー
③ E（3）＋ F（4） チャクラバー
④ F（4）＋ G（5） チャクラバー
⑤ G（5）＋ A（6） チャクラバー
⑥ A（6）＋ B（7） チャクラバー

まず、チャクラバーを耳元の近くで左耳に三回、右耳に三回、前回しで鳴らします。左右の耳に音を近づけることとで、脳内を周波数でダイレクトにクリアリングしていきます。

脳の 90%は水分になり、水分は「振動波」の媒體になります。
なので、脳の 90%は「水分＝振動波」になり、脳の營養素は「音」になります。



複数の音叉やサウンドツールを同時に奏でることで、異なる周波数はもちろん、同じ周波数でも多重波が生まれ、複雑に入り組んだ古い情報や思考習慣を粉砕、突破できるようになります。

写眞のようにバータイプのサウンドツールを耳元に用い、脳内をチャクラバーの和音や倍音で刺激することで、ダイレクトに心身を調整していきます。この際、重要になるのは「回轉」の方向になります。

片耳ずつ、基本的にチャクラバーで刺激していく。

※應用（おうよう）テクニックに、左右の耳にチャクラバーを鳴らす方法もあります

① 左耳を、三回チャクラバーで刺激する(※前側に回す)

② 右耳を、三回チャクラバーで刺激する(※前側に回す)

【チャクラバーを鳴らす基本的な順番】

① C（1） ＋ D（2） チャクラバー

② D（2） ＋ E（3） チャクラバー

③ E（3） ＋ F（4） チャクラバー

④ F（4） ＋ G（5） チャクラバー

⑤ G（5） ＋ A（6） チャクラバー

⑥ A（6） ＋ B（7） チャクラバー

所要時間は人それぞれ異なりますが、だいたい 5～10 分程度になります。まずは焦らないこと、音の余韻を残すこと、自分自身の心地よいリズムで音を鳴らし、リラックスすることが大切になります。

朝の起床時にチャクラ活性をすることで、その一日の心身の安定を促します。一日、チャクラバーを鳴らすのが何回までとか決まりはないので、時間が空いたらチャクラバーを鳴らし、音の余韻を樂しむという使い方もアリです。

夜の就寝前に、その日の疲れ、カルマを浄化するために使用し、ストレスなどをリセットすることも出來ます。なので、朝でも夜でも自分自身のタイミングに沿ってチャクラバーを使用してほしいと思います。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

音叉フェイシャルならば、6 チャクラバーは脳下垂體、7 チャクラバーは松果體を刺激します。なので、二つを鳴らすことで顯在意識のクリアリングを更に促します。

後頭部のツボである天柱、風池、完骨、天牖、翳風、盧息のボを刺激する場合は、5 チャクラバーと共に、6 チャクラバーがツボや部位の位置的にも効果を最大限に引き出せます。

腸セラピーとして、音叉でお腹を刺激する場合は 2 チャクラバーと 3 チャクラバーにより、お腹全體を柔らかくするのを加速させ、心とカラダの調律を促します。

下半身は全部、1 チャクラバー＋2 チャクラバーの組み合わせです。1 チャクラバーのレギュラータイプは湧泉のエリアの刺激、2 チャクラバーは關元のエリアの刺激だからです。

この組み合わせ以外で、例えば「腰愈」のツボと「風府」のツボを刺激したい場合、チャクラバーのエリア的に 1 チャクラバーと 5 チャクラバーが適切になります。なので、この二つを鳴らすか、1 チャクラバーと 6 チャクラバーを鳴らすなど、好きな方を選ぶことです。

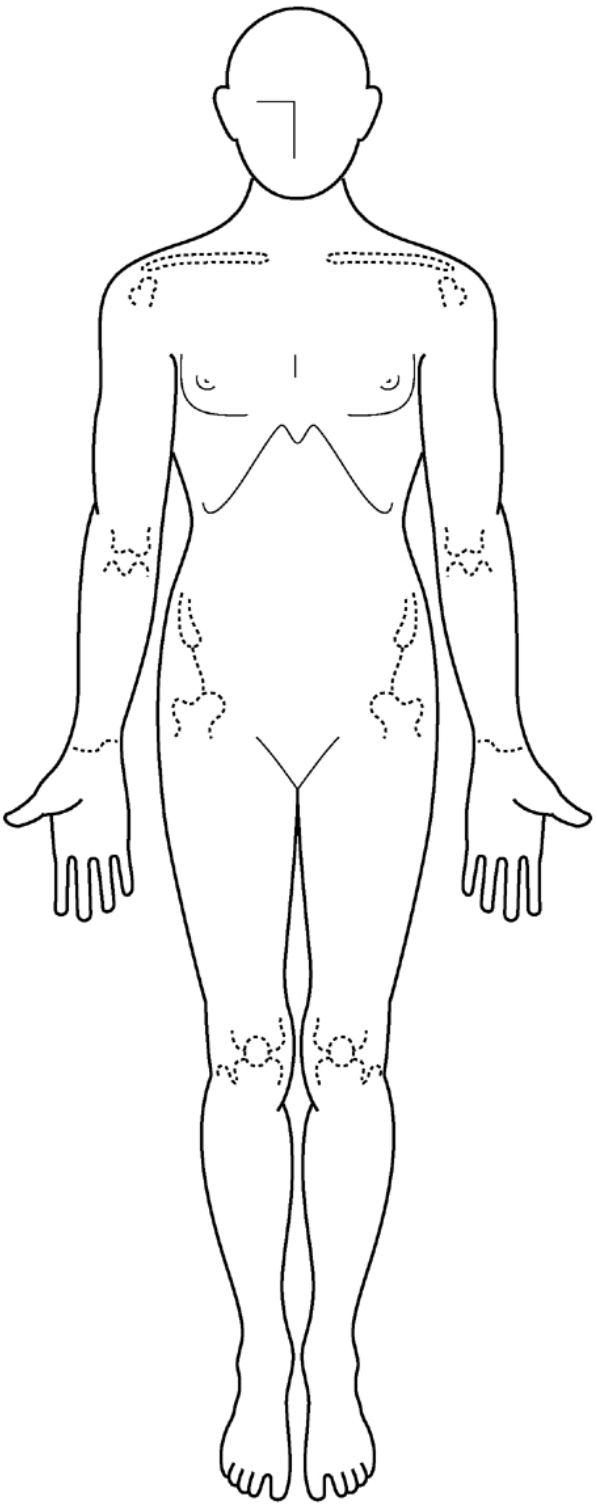
これをしては駄目という組み合わせはないので、様々な組み合わせを工夫し、自分なりのセルフヒーリングを開發することも可能です。

初級編になるとチャクラバー（レギュラータイプ）とチャクラバー（ハーモニックタイプ）の組み合わせで「超音波」を發生させ、カラダの内臓の調律に用いたり、中級はソルフェジオ音階エナジーバーとの組み合わせで靈體のアプローチに用いたり、上級は惑星エナジーバーとの組み合わせで、より立體的に身體すべてにアプローチします。

チャクラバーは、どのステージでも必ず使うツールになります

すべてのステージでの基礎であるエナジーバー大切に扱いましょう

カラダの部位別にチャクラバーを使用する一例



1チャクラバー ＋ 7チャクラバー

6チャクラバー ＋ 7チャクラバー

5チャクラバー ＋ 6チャクラバー

4チャクラバー ＋ 5チャクラバー

3チャクラバー ＋ 4チャクラバー

2チャクラバー ＋ 3チャクラバー

1チャクラバー ＋ 2チャクラバー

※各部位に關連するチャクラバーを鳴らしながら、オットーチューナーとオームチューナーを当てることで、ヒーリングの効果を数倍以上に高めます。

チャクラは振動波のアンテナの役割も果たしています。組み合わせは、これはあくまでも一例なので、様々なことを試してみて下さい。

色々と試してみることで、新たなる發見、氣づきがあると思います。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

スピリチュアリズムが明らかにしたチャクラの本質

そもそも、チャクラとは何でしょうか？

皆さんは、チャクラについて正確に説明できますか？

この質問にきちんと答えられる人は、あまりいません。チャクラという言葉は聞いたことある方が多いのですが、チャクラの意味を正確に知っている方は少ないのが現状です。では、なぜチャクラを活性化させる必要があるのでしょうか？

本来、チャクラを活性化させることは不自然な行爲とも言えます。「靈性の進化」を目指して決心實行していたならば、必ず自然にチャクラが開いていき、様々な能力が顯現されていくからです。

> **足立育郎と語る**
>
> 人間の構造、仕組みというのは、みんな同じ状態になっていますけれども、氣づいてシフトして實行していくと、肉體（にくたい）の構造が、さっきの構造變換（へんかん）と同時に變（か）わっていくんです。そしてチャクラが開いていく。で、チャクラが役割に應（おう）じて、全部開いてしまう。
>
> チャクラは無理に開くものではないんです。自然に開いて、いろいろな能力が出てきてしまう。自然に全部開いて、いろいろな能力が出てきてしまう。
>
> 足立育郎と語る　P225 より抜粋

チャクラは、古代インド思想（ウパニシャッド）や、それを踏襲する神智學（しんちがく）における重要な概念です。精神世界や神祕主義、あるいはニューエイジでは、チャクラの存在は常識のように思われています。しかし、結論から言うならば、殆どのチャクラ思想が間違っています。

チャクラは現在のスピリチュアリストの中に大きな影響を及ぼしています。チャクラの存在を無条件に正しいものとして受け入れるような傾向が見られ、スピリチュアリズム關連の書物には、たびたびチャクラの解説が掲載されます。

また海外のスピリチュアリズム關連機關での靈能開發セミナーでも、チャクラの存在が当たり前のこととして取り上げられ、チャクラについて學び、チャクラを意識した瞑想が取り入れられています。

現在の多くのスピリチュアリストは、「チャクラ思想」に洗脳されていると言えるでしょう。しかし、チャクラは本來、「靈性の進化」を通して開くものであり、無理に開くと非常に危険であることに氣づいている方は殆どいません。

危険なこと

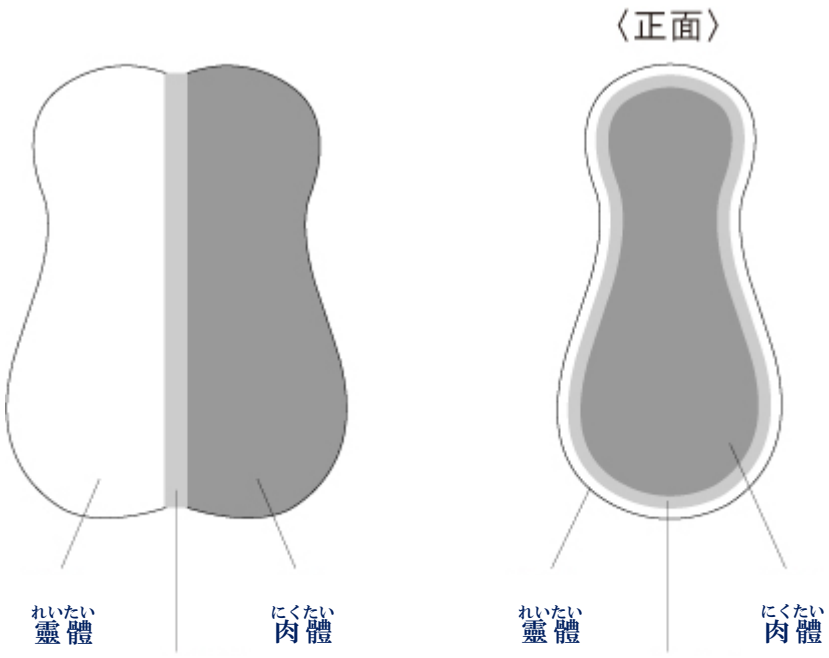
「宇宙の仕組み」を自我の強い顯在意識（DIKAG）で理解したり、知識だけが増えますと、かえってその方の行動が不調和な方向に進み、その方の想像の及ばない広範囲の時空間にとりかえしのつかないマイナスの影響を及ぼす事態が發生します。

人間のエネルギー・センター(チャクラ)についても、そのセンターの調和がとれ、成長過程において自然に開いていくのが本來であり、無理に開くような行爲をとると自我の歪んだ振動波がEXA PIECO（エハ ピーコ）にまで影響し、EXA PIECO自體（エハ ピーコじたい）を歪める大變（たいへん）危険な状態となります。

宇宙に學ぶ　P143 より抜粋

人間觀で必要なのは「靈」を上位に、「靈の心（心臟腦）」が「靈體（れいたい）」をつくり、「肉の心（DIKAG）（大腦）」が「肉體（にくたい）」をつくり、人間は靈體（れいたい）と肉體（にくたい）の「二重構造」で成り立っている事實です。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

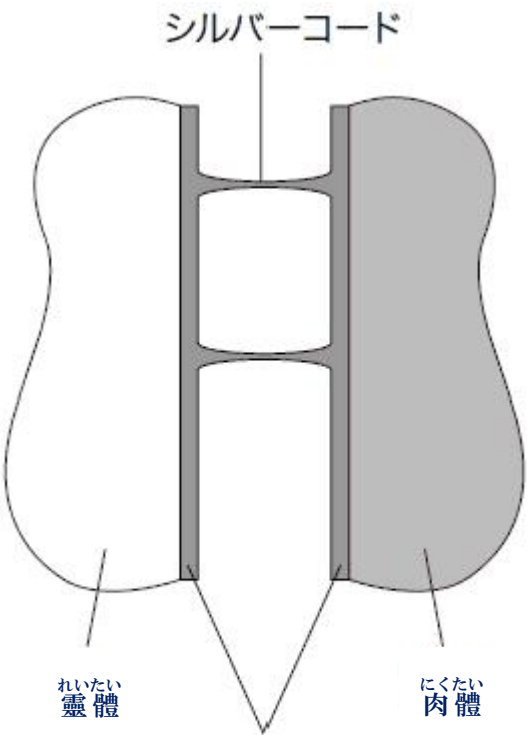


スピリチュアリズムの基本的な身體観は、靈體と肉體の二重構造ですが、靈體と肉體との間には、２つの異質の身體を結びつける接着剤のような部分があります。この部分を「幽體」とか「結合體」とか「中間體」と呼びます。

幽體と呼ばれる結合體は「半物質・半幽質」によって形成され、その材質の特殊性によって２つの異質の身體を結びつけ、両者の間のエネルギーの交換を可能にしています。この結合部の別名を「チャクラ」と言います。

これは、「脊髄」を通して靈體と肉體を繋いでおり、脊髄を通して「DNA」のように「螺旋状」に靈體と肉體を結んでいます。ヒンドゥー教の傳統では、このカラダを流れる天のエネルギーを「クンダリーニ」と呼びます。

この靈體と肉體を繋いでいるシステムが「髄液」であり、髄液を正常に働かせるのが「ミネラル」であり、ミネラルにより「自律神經」を通して靈體と肉體を繋ぎます。



（チャクラ）

そもそもチャクラよりも重要なのは「シルバーコード」の存在です。シルバーコードは蜘蛛の巣のように細かいものが沢山ありますが、その中で特別太い２本のシルバーコードがあります。

しょうかたい
松果體のシルバーコードは「EXA PIECO靈の心」と「ＤＩＫＡＧ肉の心」を繋ぐコードであり、太陽しんけいそう神經叢のシルバーコードは「れいたい靈體」と「にくたい肉體」を繋ぐコードになります。これらを統括するのが「靈」であり、生命をコントロールしている根本です。

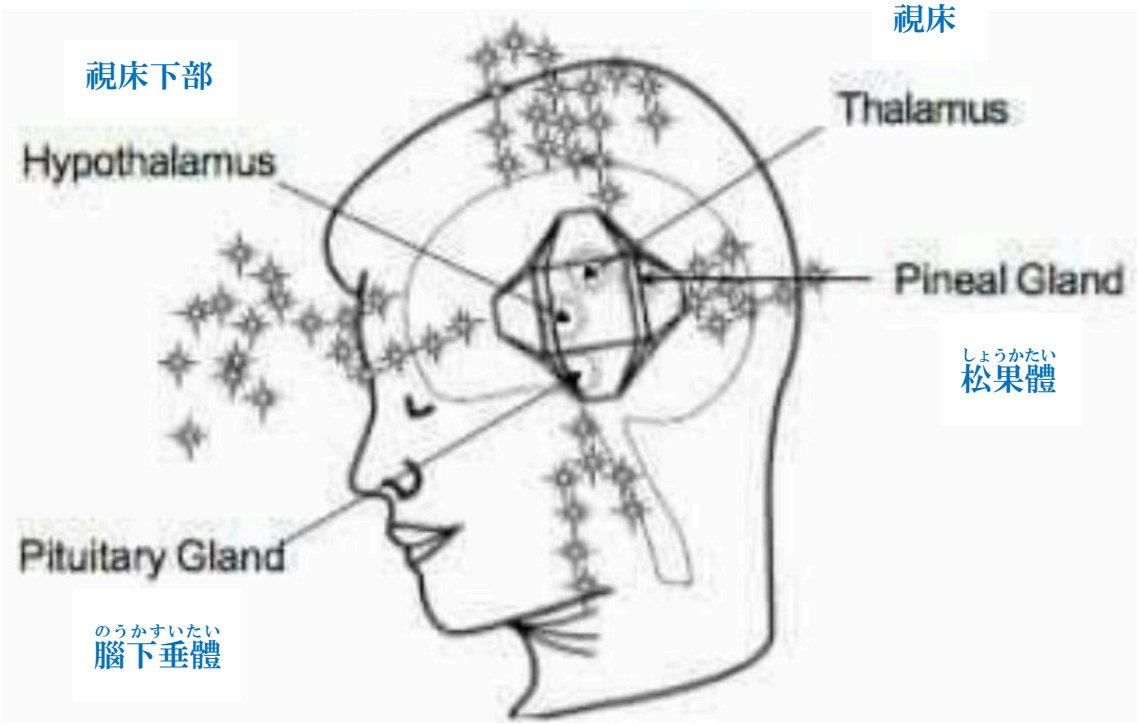
しんけいそう
太陽神經叢のシルバーコードは、にくたい肉體の器官だと「膵臓」になり、膵臓は「せいけい正經十二經絡」を管理、維持しています。

しょうかたい
松果體のシルバーコードは、厳密には３つのコントロール器官が存在しますが、統括している器官は「腎臓」であり、腎臓は「奇經八脈」を管理、維持しています。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

クリスタルパレス
水晶宮

-



松果體のシルバーコードをコントロールする器官は「子宮」、「心臓」、「視床下部」であり、すべてチャクラの位置にあるのは偶然ではありません。そもそもシルバーコードを通して靈體と肉體を繋ぐ器官がチャクラなので、すべてのチャクラは「連繋關係」にあります。

道教では、松果體を中心に、視床、視床下部、腦下垂體と４つになり、４つのチャクラで分類しますが、これは「EXA PIECO靈の心」と「DIKAG肉の心」の「接合点」について述べられたものです。EXA PIECO靈の心とDIKAG肉の心が一致すると、頭部が水晶のように光輝いているように靈視能力者には見えたのでしょう。

チャクラは一部分だけを無理やり活性化させると、低級靈の格好の餌食になる危険性がありますが、万遍なくチャクラを活性化させると、EXA PIECO靈の心とDIKAG肉の心が一致し始め、靈體のオーラと肉體のオーラが一體化することで、エネルギーが輝いていきます。



第五章

聖なるソルフェジオ音階

星々と人々を繋げる音

恒星（スター）と惑星（プラネット）の音が「銀河の音」を奏でる

霊の大海、Devachan（デヴァチャン）への鍵になる聖なる音階



資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

聖なるソルフェジオ音階９本セット



音叉によるセルフヒーリング入門編の最重要のセットである「聖なるソルフェジオ音階９本セット」は非常に強力な効果があります。聖グレゴリオ聖歌で使用されたスケールの音階であり、現代では失われてしまった音階でもあるソルフェジオ音階は、現代音階とは違ったものになります。

音叉によるセルフヒーリング中級編では、「ソルフェジオ音階シリーズ」を學びます。「ソルフェジオ音階エナジーバー9本セット」、「ソルフェジオ音階2オクターブ下重りつき9本セット」、「エンジェル・ソルフェジオ音階9本セット」をもとに、ソルフェジオ音階の「倍音」を奇經八脈や十二經絡、チャクラに使用していきます。

また、音叉によるセルフヒーリングマスター編では、「ソルフェジオ音階」と「惑星音階」の組み合わせを學んでいくコースになり、チャクラバーと同じで全コースに渡り使用していくサウンドツールです。ソルフェジオ音階は「恒星（スター）」を表し、「惑星（プラネット）」と組み合わせることで、銀河の音を奏でることが可能になります。



ソルフェジオ音階の「174Hz」は「ソウルスター」と呼ばれており、「285Hz」は「アーススター」と呼ばれていることからも、「恒星（スター）」に關係する周波數であることは間違いありません。「恒星（スター）」は「中性子」に作用し、「惑星（プラネット）」は「陽子」に作用します。

2つを掛け合わせると「原子」に作用します。原子に作用するということは、あらゆる万物に作用するということであり、靈體（れいたい）、幽體（ゆうたい）、肉體（にくたい）という身體（しんたい）に立體的（りったいてき）に作用を及ぼします。そして、「原子核」や、原子核を構成している「元素」が、「EXA PIECO（靈の心）」と「FUNEKON（靈）」に最も影響を与えます。

ソルフェジオ周波數と呼ばれる特定の周波數は、人の心とカラダによい効果を働きかけると話題になっています。ヒーリングミュージックや自然療法に興味のある方は、この「ソルフェジオ周波數」や「528Hz」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。

ソルフェジオはフランス語で「ソルフェージュ＝音階」を意味し、ソルフェジオ周波數とは、528Hz をはじめとした特定の周波數の音階を指します。ソルフェジオ周波數がもたらす良い効果は、研究者のレオナルド・G・ホロウィッツが提唱したことで、一躍話題になりました。近年ではソルフェジオ周波數の知名度が高くなりつつあります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

癒しの音楽として知られる『グレゴリオ聖歌』をはじめ、古くからある聖歌などにも含まれていることがわかっています。現在は海外を中心に、ヒーリングや治療の一部にソルフェジオ周波数が取り入れているところが水面下で広がってきています。

ソルフェジオ音階について			
周波数	ソルフェジオ音階	現代音階	ソルフェジオ音階の効果
174Hz	ソウルスター	ファ F	意識の拡大と進化のための基礎を整える
285Hz	アーススター	ド C＃	多次元領域を知覚する意識の拡大と促進
396Hz	ド UT（or ド DO）	ソ G	罪悪感や恐れからの開放
417Hz	レ RE	ソ G＃	内なるガイドを目覚めさせる
528Hz	ミ MI	ド C	根源と繋がる神意（あい）と、記憶を呼び覚ます。DNA の修復
639Hz	ファ FA	レ D＃	分離を統合し、集合意識に繋がり、心を静けさと調和で満たす
741Hz	ソ SOL	ファ F＃	意識の組織化と強化、自由意識の拡大
852Hz	ラ LA	ラ A	内なる透明なる声が響き、直感と感情の拡大と統合
963Hz	シ TI	シ B	松果體（しょうかたい）を活性化し高次元意識の響きにより神聖化へと導かれる

ソルフェジオの神秘的でパワーのある周波数を取り込むことで、わたし達の魂の根源への帰化を促します。最初は一つ一つの音「ド UT」～「シ TI」を静かに聴いていき、精神の深い部分に作用させていきます。

ソルフェジオ音階のエネルギーが心身に染み渡ってきたと感じられるようになってきたら、ソルフェジオ周波数の音叉を組み合わせ、和音を活用していきます。個々の音叉でも効果が高いのですが、組み合わせて和音を發生させることにより、更なる効果が期待できます。

ソルフェジオ周波数は、様々な組み合わせで使うことで眞価を發揮していきます

安定の周波数「174Hz」

174Hz はソルフェジオ周波数のうち、1 番低い周波数です。意識の拡大と進化の基礎となる 174Hz の周波数が、人の内面に働きかけ、心を安定に導くといわれています。音に合わせて声を出して音階と共鳴することで、落ち着いた氣分が広がります。心が安定すると自分の軸や存在をしっかりと認めることができ、一歩踏みだす勇氣を抱くことができます。また、ソウルスターチャクラと呼ばれる頭頂から 20cm～30cm 上のチャクラを刺激し、宇宙からメッセージを受けいれる準備を促します。

促進の周波数「285Hz」

285Hz は多次元領域からの意識の拡大を促すという、ソルフェジオ周波数の中でもスピリチュアル性の高い周波数です。心の安定をより強固なものにするために、自然治癒力を促し心身を整えるといわれています。また、アーススターチャクラと呼ばれる足下から 20cm～30cm 下のチャクラを刺激し、地球へのグラウンディングを促します。身體（靈體、幽體、肉體）すべてに關連しており、宇宙の各情報層にアクセスするための周波数でもあります。

解放の周波数「396Hz」

396Hz は基本となる癒しの周波数 528Hz とともに、ソルフェジオ周波数の中でも重要視されている周波数です。罪の意識や、トラウマ、恐怖心、不安の感情を緩和させるといわれています。生殖器、仙骨のチャクラと關連しており、285Hz と合わせることで、前世の記憶のアクセスと共に、前世から引き繼いだカルマの淨化を促します。また、396Hz と 528Hz は音階の違い（GとC）であり、和音として奏でることで美しい旋律を奏でます。その旋律に魅了される人も沢山います。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

變化（へんか）の周波数「417Hz」

417Hz は變容（へんよう）を促す周波数です。417Hz の周波数があなたの意識と無意識に働きかけ、回復力を高める助けとなります。ストレスを生み出し状況をより悪化させる原因にもなるマイナス思考やマイナスな状況からの回復を促すといわれています。また、顯在意識（マインド）の強い思い込み、執着を手放し、新しい状況に適應（てきおう）したり、變化（へんか）を恐れずに受け入れたりする上でも役立ちます。417Hz は第２チャクラと關連しており、お腹の痛みの緩和などにも有効です。

修復の周波数「528Hz」

ソルフェジオ周波数の中で最も基本となる癒しの周波数。過度のストレスや環境などで傷ついたり壊れたりした細胞の DNA を修復します。ガン細胞が死滅し、正常な細胞に戻します。また、心臓の上部、ハイハート・チャクラと呼ばれる位置にある「心臓腦」と呼ばれる器官を刺激し、靈の心（EXA PIECO）と肉の心（ＤＩＫＡＧ）を一致させるように促します。そのため、顯在意識（マインド）の洗腦からの脱却、開放をしてくれる周波数とも言われており、純粋で清々しい音が心身をクリーニングしてくれます。

調和の周波数「639Hz」

639Hz は人との繋がりをもたらす調和の周波数です。対立するものを統合し緩和させることから、人間關係の向上が期待できるといわれています。チャクラの位置的に心臓と肺に対應（たいおう）しておりますが、心臓は「歡（よろこ）び」を司り、肺は「悲しみ」を司ります。この二つは感情ではなく、實は宇宙の神意（あい）との同調度をはかる目安になり、相反する性質の二つを融合することで、協調性を身に付けさせ、利他性を高める効果が期待できます。そして、調和の實踐という本質的な生き方にシフトすること促します。

自由の周波数「741Hz」

741Hz は意識を自由に羽ばたかせて、表現力を開花させる周波数と言われており、コミュニケーション能力の向上をはかり、自己表現を促す効果があります。自分自身の心を偽って生きている人に最も有効な周波数であり、741Hz の音に合わせて声を出すと効果が高まります。第５チャクラと關連しており、甲状腺の不調を改善する周波数でもあります。また、腦幹にも効くことから、實は様々な情報をキャッチする力を高めたり、記憶力の改善にも有効になります。

直感の周波数「852Hz」

852Hz は直感力を覺醒させる周波数です。腦の奥に位置する「松果體（しょうかたい）」を活性化し、洞察力、直感力を高めるといわれています。思考がクリアになったかのように雜念が取り払われ、自分の内なる声に氣づきリフレッシュ感が得られます。顯在意識（ＤＩＫＡＧ）と潜在意識（Ｆ　Ｉ　Ｋ）を繋げるための周波数でもあり、本質を見抜く能力を高めます。また、万物との繋がりを感じるように促す周波数でもあります。

活性の周波数「963Hz」

963Hz はソルフェジオ周波数の中でも 1 番高い周波数です。頭のてっぺんと天井がつながったかのようなスピリチュアルなイメージを持ち、高次元の意識とつながることで腦神經系が活性化します。瞑想を行い呼吸を整えることで、すっきりした氣分に導きます。靈的世界と地上世界を繋ぐために必要な周波数の一つであり、大靈（たいれい）や自然法則（FUGEHEKIN）をリアルに實感することを促します。奇經八脈を使用したヒーリング、ソルフェジオ・プロセスでも最も微細な振動ながら、パワフルな力を持つ周波数です。

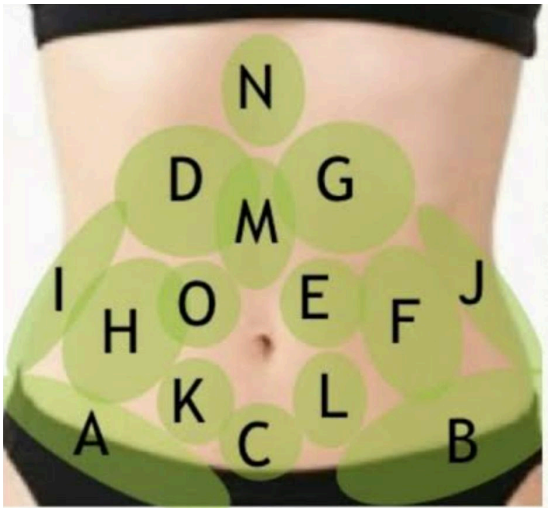
資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

ソルフェジオ音階の組み合わせによる効果

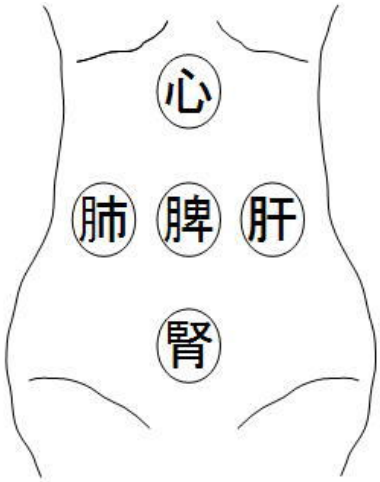
聖なるソルフェジオ音階同士の組み合わせ		
組み合わせ（ソルフェジオ）	腸心（マップ）	ソルフェジオ音叉の組み合わせの意味
① 174Hz ＋ 285Hz	J	肉體（にくたい）から靈體（れいたい）へのエネルギーのシフトを行う
② 285Hz ＋ 396Hz	F	前世療法、過去世と今世のいらない情報のクリアリング、カルマの浄化
③ 396Hz ＋ 417Hz	H	胎内記憶、インナーチャイルドなど、無意識の悲しみを癒す
④ 417Hz ＋ 528Hz	D	DIKAG 肉の心の思い込み、執着、行動の制限を外し、EXA PIECO 靈の心の自由を促す
⑤ 528Hz ＋ 639Hz	A	赦し、慈悲の周波数により、自己否定から自己受容を促す
⑥ 639Hz ＋ 741Hz	E	靈、EXA PIECO 靈の心、DIKAG 肉の心の一致、魂心身（こんしんしん）の統合した状態を促す
⑦ 741Hz ＋ 852Hz	K	地球圏靈界と地球圏地上世界を繋ぎ、靈界と地上世界の協調關係を促す
⑧ 852Hz ＋ 963Hz	M	大靈（たいれい）と自然法則FUGEHEKINと一致し、宇宙、星々と調和した生き方にシフトする
⑨ 174Hz ＋ 417Hz	C	EXA PIECO 靈の心とDIKAG 肉の心の間の葛藤、優柔不斷を解消し、魂の声に従わせる
⑩ 417Hz ＋ 741Hz	B	嘘つきの状態から、本質と本音で生きられるように人生を導く
⑪ 285Hz ＋ 528Hz	I	生命全般、鉱物、植物、どうぶつへの神意（あい）の思いを拡大させる
⑫ 528Hz ＋ 852Hz	L	精靈（微生物）、妖精（ソマチッド）との繋がりを強める
⑬ 396Hz ＋ 528Hz	O	被害者意識を取り除き、人を責めるEGHO（エゴ）意識を改めさせる
⑭ 396Hz ＋ 639Hz	N	前世、今世の人間關係、コミュニケーション全般の心の傷を癒す
⑮ 639Hz ＋ 963Hz	G	SEPQUW 背後靈（守護靈、指導靈）との一體化（いったいか）を促し、直觀力を高める

2025 年時点で、ソルフェジオ音叉同士の組み合わせ、ソルフェジオ音叉と惑星音叉の組み合わせの意味の教えているスクールは地球の地上世界にはまだ存在しません。何故なら、現代科學（かがく）は周波数の組み合わせの實驗を行っている機関があまり存在しないからです。

なので、この情報は、地上世界最先端の情報であり、靈界の奥義というレベルの内容になります。これは、地球の自然界（鉱物界、植物界、どうぶつ界）、人間界を蘇生するための情報になりますが、くれぐれも安易に外に公表しないようにしてください。







記号	奇經八脈	ソルフェジオ周波数	どのような感情が眠っているか
A	任脈	528Hz＋639Hz	感情のコントロールが出来ない、低い自尊心、自己否定
B	帯脈	417Hz＋741Hz	他責、依存心、慾求不満、慾望、対立
C	任脈	174Hz＋417Hz	自信、無力感、頑固さ、誇り
D	陰維脈	417Hz＋528Hz	心配、受け入れられない、見捨てられ感、非難
E	陰維脈	639Hz＋741Hz	自分への怒り、失敗、喜びすぎ、苛立ち
F	帯脈	285Hz＋396Hz	怒り全般、憎しみ、憤り、落胆
G	陽維脈	639Hz＋963Hz	不安、焦燥、絶望、無力感、混乱、パニック
H	陽蹻脈	396Hz＋417Hz	悲しみ全般、裏切り、蔑ろな扱い、悲痛、拒絶
I	督脈	285Hz＋528Hz	最近のストレス、三ヶ月以内の生活習慣など
J	衝脈	174Hz＋285Hz	慢性的ストレス、継続的な生活習慣
K	陰蹻脈	741Hz＋852Hz	悲しみ、罪悪感、実らない愛、傷つきやすさ、無価値
L	陽蹻脈	528Hz＋852Hz	罪悪感、嫌悪、神経質
M	陽維脈	852Hz＋963Hz	決断力、実らない努力、決められない、創造性の欠如
N	陰蹻脈	396Hz＋639Hz	緊張をともなうストレス
O	衝脈	396Hz＋528Hz	孤独、屈辱、心痛、対立、支援なし

基本的には、腸心マッピングで自分自身の「カラダの声（潜在意識）」(F I K)を聴く、感じる、そしてそれに対応(たいおう)したソルフェジオ音叉の組み合わせを耳元で鳴らしていくことで感情を解放していきます。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

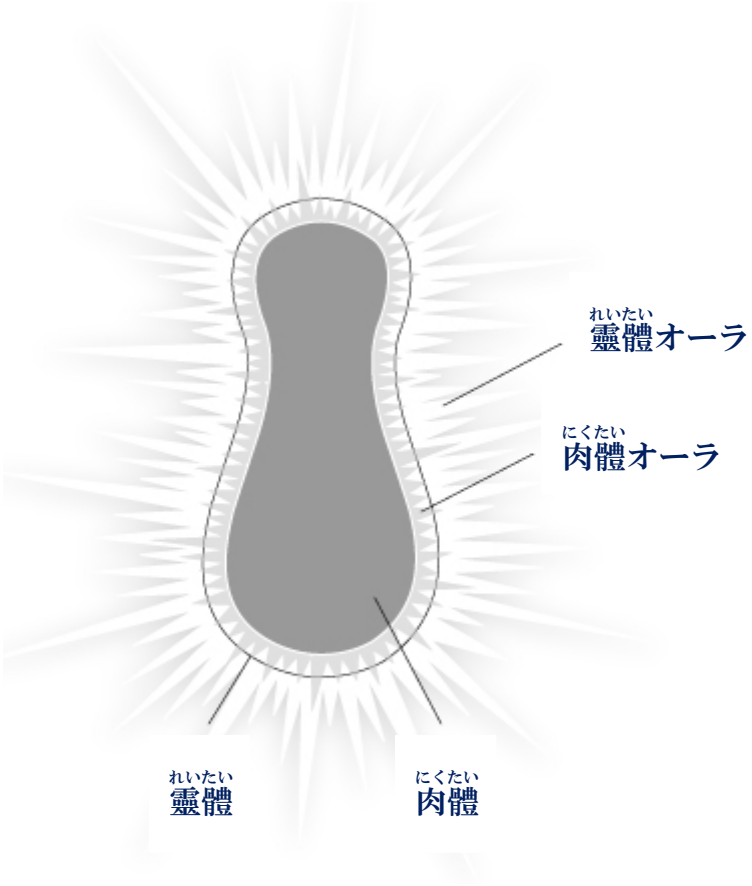
ソルフェジオ音叉の基本的な使い方について



音叉の使い方、可能性は無限に近いほどあります。人體で自分自身の内側の世界を調律するという基本はもちろんですが、食物のエネルギーの調整、水のエネルギーの調整、空間のエネルギーの調整、その他あらゆる分野に應用が効きます。

植物の育成を始め、農業、ワイン生産に使うこともアメリカ、ニューメキシコ州にあるacutonics統合醫學研究所ではしており、どうぶつ達への醫療にも取り入れられており、音叉という道具の使用は多岐に渡ります。

また、靈體のオーラ、肉體のオーラなどの「エネルギー層」へのアプローチが「フォークタイプ」の基本になり、「エネルギーフィールド」についての理論を知ることが大切です。しかし、最終的にヒーリングは感覺、直觀によるプロトコルというステージになり、理論を超えた世界になります。



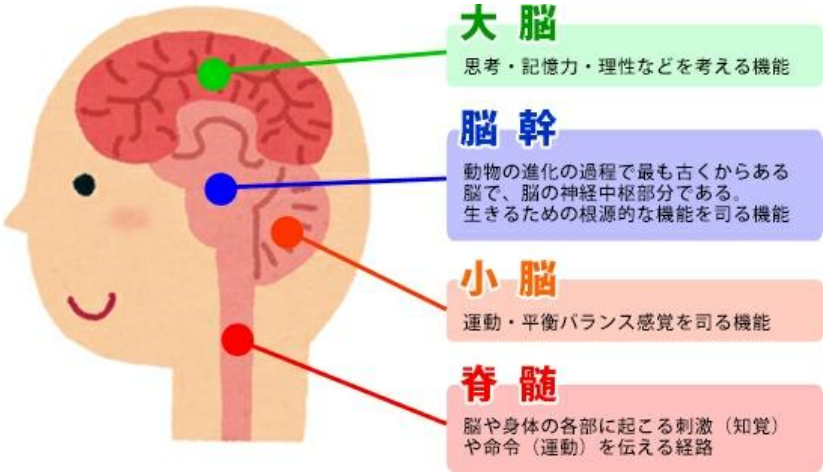
人間は「靈」を根本に靈體と肉體の二重構造になっておりますが、もう少し補足すると「靈の心、靈體、靈體オーラ」と「肉の心、肉體、肉體オーラ」に分かれており、靈體オーラに働きかけるタイプを「エネルギーワーク」、肉體オーラに働きかけるタイプを「ボディーワーク」に分類します。

ソルフェジオ音叉は基本的に「エネルギーワーク」に属しますが、基音となる「128Hz」、「132Hz」、「136.1Hz」とソルフェジオ音叉を合わせて經絡、經穴にアプローチし、「ボディーワーク」のような使い方をすることも可能です。

音叉によるエネルギーワークの使い方も、音叉を教えているスクールによって様々であり、統一された手法というのは現時点、地上世界には存在しません。ですが、デタラメにヒーリングをやればいい訳ではなく、靈體オーラと肉體オーラという「エネルギー層」への理解が施術の鍵になります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます





ちなみに、スピリチュアリズムが明らかにした靈的眞理から、ホリスティック健康學では、「心」を健康學の中心に、靈體（れいたい）の健康に必須なのが「睡眠の質」、肉體（にくたい）の健康に必須なのが「適度な運動」、幽體（ゆうたい）の健康學に必須なのが「少食」を基本とした「玄米菜食」と唱えております。そして、「心」を健康學の最重要に位置づけています。

その心は、心臓脳を通したEXA PIECO靈の心、大脳を通したD I K A G肉の心に分かれております。肉體（にくたい）の營養素（えいようそ）は、太陽光線（こうせん）、食事、水になりますが、心の營養素（えいようそ）は「振　動（バイブレーション）」であり、振　動（バイブレーション）は「音」、「光（ひかり）」、「色」、「言葉」、「文字」と種類がありますが、一番は「星々の音」がEXA PIECO靈の心の營養素（えいようそ）なのは間違いありません。

基本的には、「ソルフェジオ音叉同士で和音を組み合わせて使う方法」が入門編の主流になりますが、音叉の扱いに慣れてきたならば「３つの基音（ホームトーン）と、ソルフェジオ音叉を組み合わせて使う方法」も後々可能になりますし、マスター編ならば「ソルフェジオ音叉と、惑星音叉を組み合わせて使う方法」も可能になります。

ソルフェジオ音叉の組み合わせは、「直觀力」次第で無限大に等しいのです

飲食物にソルフェジオ音叉を使う

その中で、基本的になるべく習慣にしてほしいことの一つに、「飲み物のエネルギーの調整」が挙げられます。これらを個人レベルのみならず、家族でも共有することで、確實にエネルギー的な變化(へんか)を促していけるからです。



※ソルフェジオ音叉は 15 パターン、どのような組み合わせでも構いません。細かい味の違いを感じてみてください

飲み物に 528Hz と 639Hz の音叉を使う

528Hz は、生物學者(がくしゃ)が傷付いた DNA を修復するのに用い、癌細胞が正常な細胞に戻るのも確認されている周波數です。

農薬、添加物、化學物質などの「農添化」の害を 528Hz により經減することも、そのことから可能だと推測できます。

それと、様々な効果のある 639Hz と組み合わせることで、自然本來の振動波に戻すのを促します。

1　コップ、ペットボトルに、直接音叉の柄(え)を当てて、振動をダイレクトに傳(つた)える

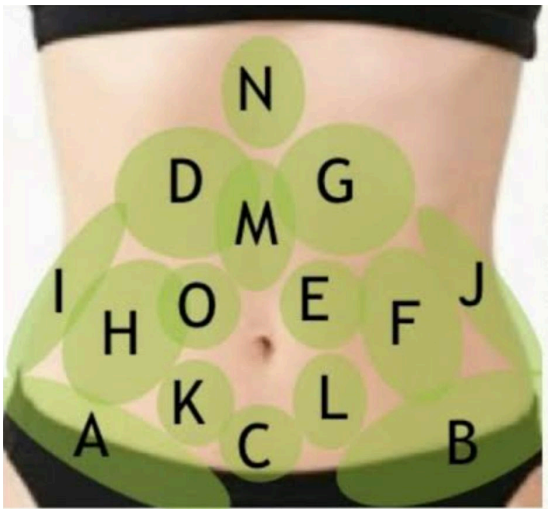
2　音叉の先端を飲み物に近づけて、「振　動(バイブレーション)」を更に浸透させていく

3　振動波による味の違いを確かめる(※ソルフェジオ音叉を色々試すこと)

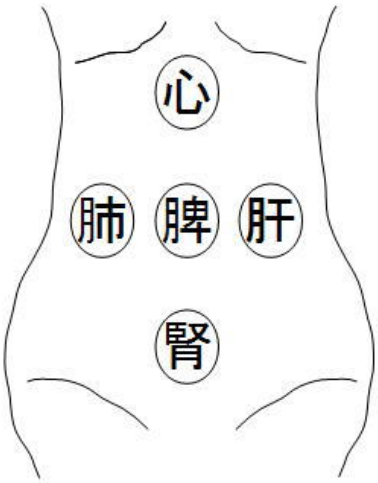
だいたい、ワインや日本酒、コーヒーやハーブティーは味の違いが皆さん分かります。水は、味の違いを感じる方が少ない傾向にあります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

腸心セラピーにおける感情のマッピング







A　感情のコントロールが出来ない、低い自尊心、自己否定

自己否定に繋がる感情が溜まりやすい場所。528Hz+639Hz にて、自己否定から自己受容を促し、自分自身への赦しの感情の促進をすることで、自分のことが好きになっていき、より自分らしく振る舞えるようになります。

B　他責、依存心、欲求不満、慾望、対立

依存心や他責に繋がる感情が溜まりやすい場所。417Hz+741Hz にて、自己犠牲や建前などで生きてきた傾向から、本音で生きることを促し、自立を促していくことで、他者を責める氣持ちや依存心が薄れ、毎日のイライラが減っていきます。

C　自信、無力感、頑固さ、誇り

アイデンティティーに直結する場所。ここは腎臓のエネルギーを光（ひかり）に變（か）えるポイントであり、前世の記憶も有しています。自分に自信がなく、思いきった行動を起こせないといった人は、174Hz+417Hz にて、勇氣、決斷力を回復させ、自信を取り戻させ、開放させていくことで、もっと自信を持って生きていけるようになります。

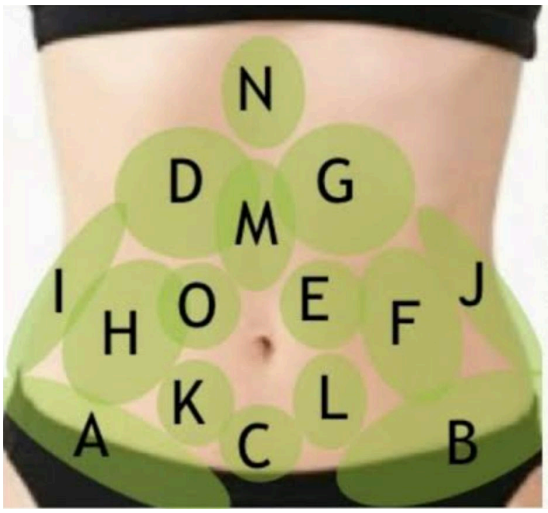
D　心配、受け入れられない、見捨てられ感、非難

人から受け入れられなかった、愛されなかったという思いや、自分を否定された經驗によるトラウマが溜まりやすい場所。417Hz+528Hz など思い込み、感情の執着から抜け出すことで、モヤモヤした氣持ちが薄れ、精神面が安定し、行動を起こす氣力が戻ってきます。

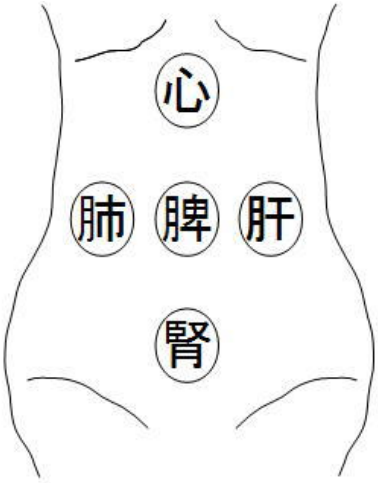
E　自分への怒り、失敗、喜びすぎ、苛立ち

自分に対する怒りの感情やトラウマが溜まりやすい場所。自分を許せない氣持ちが強く、自分を罰しようとする傾向があります。639Hz+741Hz などで魂を統合していき、自由意識を拡大させ開放していくと、自由に好きなことが出来るようになります。

腸心セラピーにおける感情のマッピング







F　怒り全般、憎しみ、憤り、落胆

怒りの感情やトラウマが溜まりやすい場所。他者への怒り、自己への怒りなど、すべての怒りが含まれます。285Hz+396Hz などで過去世含む、いらない情報のクリアリング、カルマの浄化で怒りを解放していくと、心が穏やかになっていきます。

G　不安、焦燥、絶望、無力感、混乱、パニック

不安や焦燥に關わる感情が溜まりやすい場所。大きな失敗や、親から過剰に期待されて育ったなどのトラウマを抱えている場合も。639Hz+963Hz などで内なる大いなる存在と繋げさせ、心の平安を感じさせることで、失敗を恐れずチャレンジ出來るようになります。

H　悲しみ全般、裏切り、蔑ろな扱い、悲痛、拒絶

悲しみの感情が溜まりやすい場所。自分の感情と向き合うのが得意ではない人が多く、死別、裏切り、失戀（しつれん）、大切なものを失った經驗などのトラウマが潜んでいます 396Hz+417Hz で無意識に殘る怒りや悲しみなどのインナーチャイルド全般を浄化することで、それらの經驗を冷靜に見つめることが可能になります。

I　最近のストレス、三ヶ月以内の生活習慣など

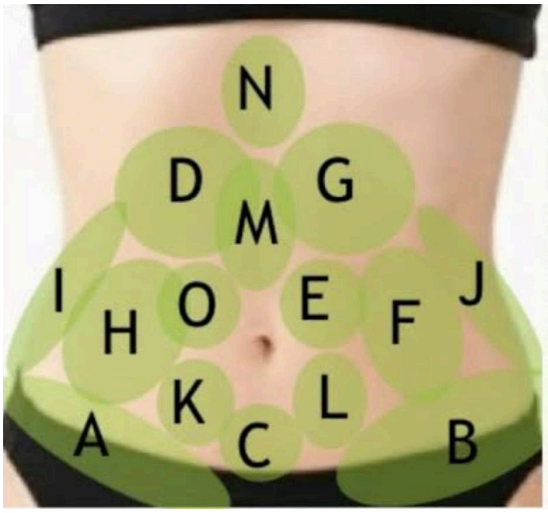
悪性の電磁波や音、食習慣などの乱れなどによる最近の無意識のストレスが溜まっている場所。285Hz+528Hz でエネルギーを浄化し、DNA の修復を促すことによってそれらのストレスが解消し、氣分やカラダが樂になっていきます。

J　慢性的ストレス、継續的な生活習慣など

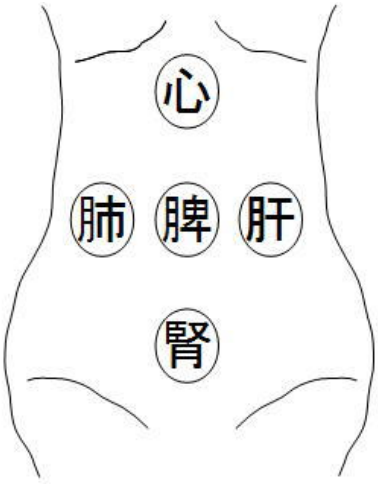
様々な原因での慢性的、長期的なストレスが溜まりやすい場所。174Hz+285Hz にて、肉體（にくたい）と精神を同時に浄化し、エネルギーフィールドを整えることにより、日々の生活全般や人間關係でのストレスを感じることが減り、心の疲勞も解消していきます。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

腸心セラピーにおける感情のマッピング







K　悲しみ、罪悪感、実らない愛、傷つきやすさ、無価値

悲しみを伴う罪悪感の感情が溜まりやすい場所。自分より他人を優先し、苦しんでいる可能性があります。741Hz+852Hz などで自由意識に目覚め、神聖なる直感で生きることを促すことにより、自己犠牲しがちだった部分が解消されていきます。

L　罪悪感、嫌悪、神經質

怒りを伴う罪悪感に關する感情が溜まりやすい場所。必要以上に自分を戒める傾向があります。528Hz+852Hz などで過去の囚われ、しがらみから解放されていき、母なる地球の神意(あい)を感じることにより、昔のことを後悔することが減り、今を大切にできるようになっていきます。

M　決斷力、実らない努力、決められない、創造性の欠如

決斷力の欠如に繋がる感情が溜まりやすい場所。852Hz+963Hz などで宇宙や高次との繋がりを強化し開放していくことで、本來の自分自身への扉(ゲート)が開き、意志や思考が明確になり、決斷力がついてきます。

N　緊張をともなうストレス

緊張によるストレスが溜まりやすい場所で、プレッシャーに弱い人などが反應(はんのう)します。396Hz+639Hz などで緊張をほぐすことで、心身ともに非常にリラックスした状態でいることが可能になり、今の瞬間を大切に生きられるようになっていきます。受驗、試合、大事な仕事の場面で、本來の自分の力を發揮できることにも繋がります。

O　孤独、屈辱、心痛、対立、支援なし

被害者意識が溜まりやすい場所。396Hz+528Hz で完全なる受容を促すことで、孤独感を癒すことで、他者のコントロールから脱却し、自分の人生に責任が持てるようになり、周りに影響されにくくなり、自由に自分の感情を表現したり行動できるようになっていきます。



第六章

FUNEKON 靈　優位の努力、眞のいのり

スピリチュアリズムの信仰實踐の中核

眞のいのりは背後靈(SEPOUW)との關係を深め

人生の青写眞(ブループリント)の生き方への導き(ガイダンス)を得る手段

「調和の實踐」を通して「靈的成長」をする



資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

アメリカインディアンの神聖なる禱(いの)り



アメリカンインディアンの民族であるスー族（ラコタ族）の言語に「Mitakuye Oyasin(ミタクエ　オヤシン)」という言葉があります。この言葉の意味は、わたし達はみんな繋がっているということで、山、空、どうぶつ達、人、水、万物が關わり合って成り立っているという意味です。

地球上のあらゆる生命、宇宙すべてがお互いに繋がっているという思想です

地球人類は、普段の生活と直接關わっていないものを忘れがちですが、見えない声たちに耳を傾けることが大切です。

万物に宿る微生物は、光、空氣、土、水という生命素の元であり、大靈に最も近いものですが、土の中にすむ微生物、ミミズやモグラは土作りに役立ってくれ、空の鳥、ミツバチや大地に住むリス、イノシシ、クマ達は、森や植物から自然界の恵みを受け取ると同時に、種子や花粉を運び、代謝物を土地に与えることで互いに支え合っています。

アメリカインディアンのナホバ族は、禱りや様々な祭祀が多く、ホピ族にとって「禱り」とは食べることよりも大切であり、日々の禱り、豊作、雨乞いの禱り、太陽、星々、月の満ち欠けに合わせての多くの日々の犠式が生活の原点です。

また、ネイティブの人達は、「私」という固有名詞を使いません。西洋の文化というのは、「私が」という、EGHOを全面に出します。英語で「I」という主語がないと成り立たないような感じの文化にまで、EGHOを増大させてしまっています。しかし、本來は「私」とか「I」とかは自然の仕組みに反しています。

そして、本來の日本語は「私」という主語がなくて、「自然が」、「宇宙が」という言葉が成り立ちます。ネイティブの人達のルーツは牡牛座やカシオペア座など、日本人のルーツと共通しており、「私」といわず、常に「我々」という單語を使い、大地、空、自分の身の回りのものさえ大靈の所有物であり、「すべてはみんなのもので、人間は何一つ所有していない」という思想が根底にあります。

そして、必要なものは、必要な人のところに必要な時だけあればいいと考えており、何か足りない人がいれば仲間はもちろん、知らない人にさえも惜しみなく何でも分け与え、困っている人がいれば、皆で助け合います。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

「分かち合うことは、創造主と分かち合うこととおなじ」だという、自然法則に適った思想が殘されています。ネイティブの傳統的セレモニーには、しっかりと自然法則に基づいたスピリットが繼承されています。

季節ごとに巡る日本の祭りのようなセレモニーに加えて、祖先、太陽、母なる地球、月、星、大地、水、石、作物などの大自然や創造主への感謝の禱りを基本として、大地の淨化、人類平和への禱り、多くの苦しんでいる者、病んでいる者への禱りを頻繁に捧げています。

ナホバのシャーマンは、「部族の一人の病氣は一族の病氣であり、社會、環境、地球の病氣と全て繋がっていて、自然と一體になっていないことに根源がある」と述べており、日々長い時間、禱りをしております。

飢餓や命を脅かされる苦しみを知る人達は、今日も生きる糧が与えられ、命が繋がっていること、素晴らしい一日をいただいたということに日々感謝して禱るのです。そこに、禱りという本質があります。

自分が生まれる前に決めてきた、この地球という天體を少しでもより良い世界にすることを實現させることをやらずに終え、死後に後悔する生き方はしたくありません。そのためにも、日々の禱りを通した「生命の調律」をすることは誰しも必要であり、人間は禱りを通してFUNEKON優位という眞の生き方に向かうのです

> 生命のあるところには必ず靈が存在します。なぜならば靈とは生命そのものであり、生命とはすなわち靈だからです。最も原始的なものから最高の組織體へ、つまり單純なものから複雑なものに至るあらゆる發達過程と生命形態を通じて靈が顯現していると言えます。
>
> 『シルバーバーチの靈訓（八）』p. 44

眞の「いのり」のことを「生命(いのち)の調律」という



3000 年前に地上世界にいたインディアンの古代靈シルバーバーチも、靈界通信を通して同様のことを述べており、「Mitakuye Oyasin(ミタクエ オヤシン)」という思想はスピリチュアリズムが明らかにした靈的眞理と一致しています。

そして、アメリカインディアンの民族は「禱(いの)り」とは「食事」よりも大切であることが一番のポイントであり、日々の禱(いの)り、豊作、雨乞いの禱(いの)り、太陽、星々、月の満ち欠けに合わせての多くの日々の犠式が生活の原点です。

そして、「分かち合うことは、創造主と分かち合うこととおなじ」だという、大靈(たいれい)、自然法則への感謝という本質をアメリカインディアンは突いています。この分かち合いのスピリットを取り戻すために、日々大靈(たいれい)という創造主に感謝を捧げ、万物を尊び、人類すべてが大靈(たいれい)の子どもという思想が行き渡ることが「靈的眞理の普及」の眞髄とも言えます。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

シルバーバーチが言うように「靈が生命であり、生命が靈である」という原則に従うならば眞の禱りとは「生命の調律」と表現するのが的確でしょう。生命の調律は、ひとつひとつの物事を丁寧に選択しなおし、日々の暮らしを大切にすることが基本です。

【日々の生命の調律の要約】

①　「FUGEHUKON」の「FUGEHEKIN」に従って生きること

わたし達を支え續けてくれている、生命の創造主である大靈、それが生み出した自然法則の素晴らしさ、万物の生命を尊び、感謝し、敬うこと

② FUNEKON、EXA PIECOで判断する力を養うこと

物事すべての判斷基準を、大靈と自然法則に適っているかどうかに置き、情報化社會という名の洗腦社會の溢れる情報誘導に惑わされずに、靈の心で日々の暮らしを選択し暮らすこと

③ 星々の音によって様々な歪みを調律できることを知り、活用すること

大靈という大宇宙と、大宇宙の一部であるミニチュアの小宇宙である人間は、その宇宙に満ちている「振　動」によって「生命の調律」が可能であること。宇宙と靈止、大靈と万物を繋げるのは「生命の音」であることを知ること

④　「調和の實踐」を通した「靈的成長」をするため、背後靈の導きを得るために禱る

本物のインスピレーションは、靈と靈のコミュニケーションであり、背後靈と二人三脚で問題を解決するためのヒントを得るために生命の調律を欠かさないこと

⑤ 心を正し、自然法則に適った生活習慣を身につける

肉の心優位から脱却し、健康の原則である「食事」、「運動」、「休息」のバランスを保つ。特に重要なのは、どうぶつ達を犠牲にしない穀物、菜食に切り替えること

EXA PIECO 靈の心優位で生きる大切さを理解しよう

スピリチュアリズムの靈的實踐論の最初の實踐項目である「FUNEKON優位」、「EXA PIECO優位」で生きること、そのための「禱り」と「生命の調律」は同じ意味であり、音叉によるセルフヒーリングは「生命の調律」という名の「禱り」です。

宇宙語で調律を「TUNING」と發音しますが、音叉は英語で「TUNING FORK」であり、音が違うだけで文字は一緒です。生命は英語で「LIFE」であり、「生命」を「調律」するのが音叉によるセルフヒーリングの本質です。

その生命は靈であり、靈が生命である、なので「肉の心優位から、靈の心優位に調律する」という意味も音叉での日々の調律にはあります。この本質を理解するだけでも、なぜ日々の禱りが大切なのかが分かります。

日々の生活を「靈の心優位」の状態と「肉の心優位」の状態を比較した場合、靈の心優位にする大切さが更に理解できます。心の状態はそのまま人格にも反映されます。

「靈主肉従」と「肉主靈従」の相關關係				
パターン反應	EXA PIECO 靈の心優位の場合	対義語	DIKAG 肉の心優位の場合	補足説明
心境	リラックス 靜寂	⇔	ストレス 緊張	ストレス 緊張は EXA PIECO 靈の心とかけ離れた心境
意識の状態	感謝	⇔	エゴ	感謝とは、靈、EXA PIECO 靈の心優位の状態の反映である
行動パターン	積極的	⇔	消極的	消極的な人間は人生を台無しにする
實踐パターン	素直	⇔	頑固	頑固者は、人のアドバイスを取り入れない
感情パターン	信頼（安心感）	⇔	疑い（恐怖心）	恐怖心は人類最大の敵である
思考パターン	シンプル 單純明確	⇔	カオス 複雑怪奇	DIKAG 肉の心に支配された人間の思考は意味不明
精神パターン	深い	⇔	淺い	DIKAG 肉の心に支配されてる人間の言動は薄っぺらい
称賛された時	謙虚	⇔	傲慢	傲慢な人間とは、自分の力を過信している状態

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

通常、人間は子どもから肉體（にくたい）の成長とともに靈的成長も促され、やがて靈的に独り立ちして直接、社會（しゃかい）で積極的に活動し、その中で純粋なる利他、奉仕の活動を通して靈的成長をしていき、大靈（たいれい）に近づいていきます。これが「EXA PIECO靈の心優位」になっていた場合の成長のプロセスです。

人間は靈優位、EXA PIECO靈の心優位による「自律」にともなって、心の拠りどころと考え方の中心を、地上世界の両親や家族、この世の人間から「大靈（たいれい）」に移行させるようになります。「大靈（たいれい）」を中心とした意識世界を形成するようになります。自律とは「自己コントロール」のことであり、自己コントロールをすることが靈優位の本質です。

こうして靈的に自律していくには、大靈（たいれい）への禱（いの）りはきわめて重要な要素となります。人間は禱（いの）りを通して、大靈（たいれい）と自然法則を通して交わりを持ち、その關係を深めることになるからです。禱（いの）りとは、大靈（たいれい）に近づこうとするEXA PIECO靈の心の願望なのです。

この事實は「禱（いの）りによって大靈（たいれい）と触れ合うすべを知らない人間は、いつまでも靈的に自律を果たすことができず、靈的大人になれない」ということを意味しています。

それは、現代地球文化の問題である「精神の墜落、退廃」という、「利己主義者の増大」、「物質中心主義の横行」からも明らかです。DIKAG肉の心の最も低い精神状態は「依存」と「甘え」という幼児の精神状態です。EXA PIECO靈の心の最も高い精神状態は「自律」と「厳しさ」という大人の精神状態です。

また、禱（いの）りは、EXA PIECO靈の心が地球上で「調和」という「理想」の「成就」に向けての「決心」であり、その人間の理想を求める「意志」と「決心」の強さが示されます。その振　動（バイブレーション）によって靈的世界からの協力者（イエス、高級天使、高級靈、天使、指導靈、守護靈）を引き寄せます。

禱(いの)りは、靈的世界からの導(ガイダンス)きを受け取る手段



禱(いの)りは、靈界からわたし達地上人を指導し援助しようと待機している多くの靈達との靈的繋がりを強化します。靈的世界と地上世界の繋がりは、禱(いの)れば禱(いの)るほど強化され、交われば交わるほど親密度を増すことになります。こうした禱(いの)りの「靈的効用」を知れば、誰もが禱(いの)りの重要性を認めざるをえなくなります。

靈的世界の存在からすれば、最も近づきやすい地上世界の存在とは、日頃から多く禱(いの)り、靈的交わりを重ねている人間です。こうした地上人には、靈界人は必要に應(おう)じて救いと導きの手を差し伸べることができます。そして最終的に「奉仕(サービス)」というものが、「靈性を進化させる鍵」になります。

> 禱(いの)りの本質は、人のためのサービスという行爲へ向けて魂を整えることです。より高度なエネルギーと調和するための手段です。
>
> 『シルバーバーチは語る』p.133

無償の奉仕(サービス)の實踐、これが地上世界を救い、自分自身をも救う生き方なのです

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

しかし、地上世界の肉の心（DIKAG）で考えた奉仕（サービス）と、靈的世界の靈の心（EXA PIECO）を基準にした奉仕（サービス）は次元がまったく異なります。この奉仕（サービス）の方法というのが、「靈的眞理」に沿った「靈的視野」に基づいた判断か、「靈の心（EXA PIECO）」に基づいた「直觀」による判断でなければ、結局、奉仕（サービス）の大半は失敗に終わります。これは大靈（たいれい）の自然法則の要点の一つになります。

禱（いの）りの言葉はたった一言しかありません。「何とぞわたしを人のために役立てる方法を教え給え」――これです。

「大靈（たいれい）のため、そして大靈（たいれい）の子等のために一身を捧げたい」――この願いより崇高なもの、これ以上の神意（あい）、これに勝る宗教、これより深い哲學（てつがく）はありません。

『シルバーバーチは語る』p.134

誠心誠意、魂の底からの禱（いの）り、神の御心と一體（いったい）となり、神の道具として有意義な存在でありたいと願う心は、その波動そのものが、その人を神の僕（しもべ）としてより相應（ふさわ）しく、そしてより逞しくします。禱（いの）るということ、眞實（しんじつ）の自分を顯現すること、心を開くこと、これが背後靈との一體化（いったいか）を促進するのです。

『シルバーバーチの靈訓（十ニ）』p.124

靈的世界の奉仕（サービス）とは、「靈的成長」であり、眞の幸福、眞の救済も「靈的成長」であり、無償の奉仕（サービス）、滅私奉公の心が地上世界を救い、自分自身をも救うのです。「Mitakuye Oyasin（ミタクエ オヤシン）」の思想、地球上のあらゆる生命、宇宙すべてがお互いに繋がっているという思想は、人に施したことは自分自身に必ず返ってくるということを表しています。だからこそ、人の役に立つ方法を知るために古代の人々は日々、「禱（いの）り」を大切にしていました。

人の役に立つとは、人の靈性の進化のために役に立つことが本質

人生で一番大切なことは「靈的成長」であり、靈的成長は「DEVIK（デヴィック）の實踐」を通してでしか果たされません。しかし、眞の意味でDEVIK（デヴィック）を實踐している地球の地上世界の人間は殆どいません。

なぜなら、眞のDEVIK（デヴィック）を實踐するには「EXA（靈） PIECO（の 心）優位」になった状態でDEVIK（デヴィック）を實踐する必要があるからです。DEVIK（デヴィック）とは宇宙語の一つですが、DEVIK（デヴィック）の眞の意味とは「靈的成長に繋がるサポート」を意味します。

利他、奉仕、分かち合い、協調關係、平和、これらはすべてDEVIK（デヴィック）の意味に含まれます。人生とはDEVIK（デヴィック）を通して靈性を進化させていく、これが神の自然法則です。そのDEVIK（デヴィック）をするためには、日常すべてを「EXA（靈） PIECO（の 心）優位」で生きることが必須条件になります。

人間は、「FUNEKON（靈）」という「FUGEHUKON（大 靈）」の分靈（わけみたま）で成り立っており、靈的成長とは「大靈（たいれい）の分靈（わけみたま）が成長し神聖化していくこと」を意味しています。要するに、大靈（たいれい）に近づいていくことが靈的成長の意味なのです。

これが禱（いの）りをする最大の理由です。その答えは「靈性の進化」というひと言で片付きます。靈的成長をしていなければ、生きているとは言えません。禱（いの）りとは「調和」を實踐するために必要な「魂（EXA（靈） PIECO（の 心））の願い」です。

眞の禱（いの）りとは、靈の心（EXA PIECO）優位で「調和を實踐することでの靈性の進化」であり、地上世界の人間の間違った禱（いの）りとは、肉の心（DIKAG）優位の願望による「不調和を實踐することでの靈性の退化」です。禱（いの）りは地球人類への無償の利他、奉仕を實踐するための準備運動であり、それが靈性を高めるための「日々の心構え」の確立なのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

そして、忘れてならないのが、禱(いの)りとは「DEVIK(デヴィック)」の實踐を通した靈性の進化のためにやる日々の心の在り方の調律だということです。地球にはDEVIK(デヴィック)の類似語がありません。ですが、対義語ならば沢山あります。

「DEVIK(デヴィック)」、サポートとヘルプの違いについて				
パターン反應(はんのう)	EXA PIECO 靈の心優位の場合	対義語	DIKAG 肉の心優位の場合	補足説明
原点	直觀、閃き	⇔	戰略、策略	殆どの人間がDIKAG顯在意識で戰略を練ってから行動
行動	自由、アドリブ	⇔	支配、マニュアル	戰略を練る理由は、思い通りに支配したいから
思想	分かち合い	⇔	奪い合い	現代地球文化は奪い合いの文化になっている
対話	意見交換	⇔	主義主張	DIKAG肉の心優位でなければ、相手を知ろうと努力する
印象	改革、變革(へんかく)	⇔	現状維持	現状を壊されることを保守派は極端に嫌う
現場	臨機應變(おうへん)	⇔	融通が利かない	有難と無難で、殆どの人間が無難を選択する
思考	冷徹	⇔	親切	冷徹は理性、親切は感情、人間は感情を優先する
根本思想	天上天下	⇔	唯我独尊	自分を唯一無二と勘違いした人間は愚か極まる
協調關係	チームプレー	⇔	個人プレー	チームプレーが出來ない人間の音は雜音である
優先順位	相手の立場	⇔	自分の立場	自分の立場しか考えない人間になるな

「素晴らしい情報を工夫して傳(つた)える」、サポートの原点、利他、奉仕の原点である直觀や閃きを繰り返しキャッチしたら、その情報を現代地球文化、地球人類がどのように受け止めてくれて、どのように實際に氣づいて還現して、そして調和のとれる方向に向かってくれるかを工夫しなければ靈的成長には繋がりません。

しかし、地上世界の人間は「如何に人間にとって都合良く便利」かが何事に置いても基準になっています。自然法則に適って調和がとれて、尚且つ人間にも役立つ、そういう氣づきを起こす具現、還現することが創造です。その工夫、これが重要なのですが、この工夫という言葉は地球の言葉にはありません。

調和の實踐は、EXA PIECO靈の心優位によるSEPOUW背後靈との「インスピレーション」による二人三脚に基づいた、他人の靈性の進化に繋がるサポートをさせていただくことが原点です。そして、サポートとは「ヒント」であり、氣づきのチャンスを奪う行爲が「答えを教える」という行爲です。

しかし、人間がとかく知りたがるのは「答え」です。この傾向がそもそもの間違えを生んでいます。世の中に溢れている自己啓發書は「方法論」しか書かれていませんが、それがそもそもビジネスとして成立するのは、人間が性急（せっかち）に「方法論」を知りたがるからです。

しかし、自己啓發書を讀んで生き方を新生させている人間は殆どいません。「やり方」ばかり語っても、「心の在り方」が伴ってなければ意味がないからです。そもそも人の靈的向上に繋がるサポートにマニュアルなど存在しません。

常にSEPOUW背後靈、自分、他人の「直觀（SEPOUW背後靈）、アクション（自分）、リアクション（他人）による即興演奏」だからです。事前に策を練って、相手を思い通りにコントロールしようとしても、大概の作戰は失敗に終わる理由です。

靈的眞理普及、相手の靈性の進化のためのサポートの原則

① SEPOUW背後靈のメッセージをインスピレーションで受け取る（リラックスが条件）
② とにかく自己流にアレンジしないで工夫して實行してみる（素直、決心が条件）
③ 相手が何かしらのリアクションを起こす（直觀、感覺を驅使すること）

DEVIK（デヴィック）は「SEPOUW背後靈への道具意識」、「時期（タイミング）の來た人のみDEVIK（デヴィック）する」、「コミュニケーション能力の向上」という理由がこれでお分かりになるはずです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

正しい動機での「いのり」が眞のスピリチュアル能力を開花させる



日々の禱(いの)り、生命(いのち)の調律を毎日の習慣にすることで、背後靈(SEPOUW)の存在を正しく感じることが段々可能になっていきます。靈的眞理と生命(いのち)の調律のセットにより、本來は謙虚になり、余分な緊張をしたり自力主義に陥らないようになります。

もしも自力主義になるとしたら、それは靈的無知ゆえでしょう。靈的世界の存在のサポートを信じてない未熟な精神も關係してくるでしょう。それほど靈的世界からの協力者（イエス、高級天使、高級靈、天使、指導靈、守護靈）のサポートは絶大です。背後の見えない存在たちの導きを信じ委ねることで心の底から安心し、ゆったりとリラックスして人生を歩めるようになります。

自分をよりいっそう役立てたいという眞摯(しんし)な願いから、改めるべき自己の欠点、克服すべき弱点、超えるべき限界を見つめるための禱(いの)りであれば、その時の高められた波長を通して靈的世界から力と励ましと決意を授かり、禱(いの)りが本來の効用を發揮したことになります。

あなた方を悩ます全ての問題と困難に対して、正直に、正々堂々と、眞正面から取り組んだとき――解決のためにありたけの能力を驅使して、しかもなお力が及ばないと悟ったとき、その時こそ、何らかの力、自分より大きな力をもつ存在に対して、問題解決のための光(ひかり)を求めて禱(いの)る資格ができたと言えましょう。

『古代靈シルバーバーチ　不滅の眞理』（ハート出版）p.152

わたし達はDIKAG顯在意識で本氣で調和と神意(あい)に向かう靈優位の決心、利他、奉仕の實行をしている限り、必ず見えない存在たちからサポートされます。そのサポートは「直觀」という形の靈と靈の「テレパシー通信」に従うことで強化されていきます。

すべては「振動(バイブレーション)」であり、「音」はあらゆる時代、あらゆる國(くに)の、あらゆる民族の文化において、禱(いの)り、禱拜(れいはい)、賛美として、聖なる宇宙と繋がるために使われていました。古代人は「音」を通して靈的世界と繋がることを直觀的に理解していました。

そして禱(いの)りが正しく結果になるか、結果が出ないかは、禱(いの)りの「動機」と「靈格」によって決まります。靈格の高い人は「無私無欲」で奉仕性に富み、常に地球人類の幸福を優先して求めます。そうした人は、自分自身の利益を求めるような願いごとはしません。

物質的な利益を求める利己的な願い事を決して靈格の高い人間はしません。靈的世界の高級靈と同じように、より多くの人々の靈的成長による眞の幸福を眞っ先に願います。そうした禱(いの)りによって靈的世界から導いている存在達との關係が密接になり、さらなる援助がもたらされるようになります。これが、正しい動機、正しい心構えでの禱(いの)りです。

そして靈的世界の人々の道具として、より多くの奉仕のチャンスが与えられるようになります。それを決心、實行するにつれ「眞のスピリチュアル能力」が發現することになります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

日々の生命（いのち）の調律をすることでの効果、恩恵

世の中の大半の靈能者、ヒーラーは、個人的な範囲で「サイキック能力」を發揮しています。サイキック能力は誰しもが潜在的に備えている能力であり、特別な能力ではありません。そして、サイキック能力では次元の低い仕事しかできません。

多くの靈的世界の存在達の援助、協力を得ないかぎり、次元の高い仕事をすることは不可能です。そうした靈的世界の高級靈達の援助を受ける能力が「スピリチュアル能力」です。利他的で眞摯な禱（いの）りは、靈的世界の人々を惹きつけ、莫大な援助を引き出すことになります。

正しい禱（いの）りによって靈的世界から導いている存在との關係が密接になり、さらなる援助がもたらされるようなる、その結果、一人の人間のサイキック能力による活動とは比べものにならない、何十倍～何百倍もの地上世界への貢献が可能となります。

また、禱（いの）りの直接的な効用は「靈的エネルギーを取り入れて靈的意識のレベルを引き上げ、より神に近づくことができる」という言葉に集約されます。シルバーバーチは禱（いの）りをこのように述べている時がありました。

> 「禱（いの）りとは本來、波長を普段より高めるための靈的な行爲です」
>
> 『シルバーバーチの靈訓　靈的新時代の到來』p.173

波長とは「振動（バイブレーション）」のことを表し、想い、音、言葉も「振動（バイブレーション）」です。禱（いの）りとは靈的エネルギー、生命エネルギーを人體（じんたい）に取り入れ、顯在意識（ＤＩＫＡＧ）を靈（ＥＸＡ ＰＩＥＣＯ）の心優位にすることです。人々は生命（いのち）の調律によって地上人は、大氣中から靈的エネルギーを補充して「靈主肉従」の状態をつくり、靈的存在としての基本ラインに立つことができるようになります。

そして靈的エネルギー、生命エネルギーが取り入れられることで「FUNEKON」、「EXA PIECO」が活性化し、「調和（利他、奉仕）の實踐」をする意欲が湧いてくるようになります。副産物として、病氣、不快、異常が回復し、全身に活力が生まれてきます。

禱りは、靈的實踐論である「靈の心優位の努力」、「調和（DEVIK、神意、奉仕、利他、分かち合い、協調）の實踐」、「靈的眞理に適った苦しみへの正しい対処」、自然法則に適った正しい生活習慣を身につける」という靈的人生の實踐を推し進めることになります。

この意味で禱りは、靈性の進化を目的とする「靈的巡礼の旅」の人生をスムーズに歩むための強力な補助手段です。そして正しい禱りは、「靈的視野」「犠牲精神」「道具意識」というスピリチュアリズム精神を深めることにもなります。

禱りは人間の靈的成長にとってきわめて重要な靈的手段です。高級靈インペレーターは「禱りというものがどれほど豊かな靈的恵みをもたらすかを知れば、あなたもより多く禱るようになることでしょう」（『靈訓（完訳・上）』p.166）と述べています。

> そういう人は、身は地上にありながら、きわめて高い靈性を發揮します。何となれば、日頃から靈と交わることを知り、靈的營養を攝取しつつあるからです。彼らには、物的生活に埋もれている者には閉ざされている靈的眞理の秘密の扉が開かれていることになります。そして不斷の禱りによって、少なくとも、地上生活においては苦しみも悲しみも魂の成長にとって必要不可欠であることを悟りつつ、なおそれに超然とした生活を送ることができるのです。
>
> 『靈訓（完訳・上）』p.169

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

人間とはそもそもインスピレーションの媒體（ばいたい）である

そもそも「人間」とはどのような存在なのでしょう？地上世界の様々な靈界通信の情報を精査した結果、靈的世界の存在を「靈止（ひと）」、地上世界の存在を「人間」と定義しますが、ここである存在の言葉の一部を引用します。

知的生命體（せいめいたい）「MANAKA（マナカ）」の宇宙觀	
人間とは？	宇宙の入れ籠である
人とは？	宇宙エネルギーそのものである
身體（しんたい）とは？	天體（てんたい）の神殿である
女性とは？	創造主である
男性とは？	神である
太陽とは？	心の反映である
宇宙とは？	あなたのすべての振動である
宇宙の本質とは？	あなたの内側にあるすべての世界である
宇宙意識とは？	神意（あい）の響き合いである
神意（あい）とは？	すべてである
命とは？	星からの贈り物である
魂とは？	星の生みの元である

この情報は、スピリチュアリズムが明らかにした靈的眞理と一致している情報が多くあります。この宇宙觀では、宇宙を「振　動（バイブレーション）」といい、神意（あい）を「すべて」といい、宇宙意識を「神意（あい）の振　動（バイブレーション）の響き合い」と述べていることが大きなポイントです。

そして靈止（ひと）と人間を明確に區別していることもポイントです。ここで、シルバーバーチは人間とは何かの答えを述べている箇所をピックアップします。

人間とは何か。人間とは所詮はインスピレーションの媒體にすぎません。地上で崇められているいかに立派な人物も、神がその叡智のうち、人間にとって適切とみたごくわずかな一部を傳達するための道具にすぎません。そのなすところのものは、偉大なるものも、氣高きものもすべて守護靈の影響でないものはありません。

靈媒が特別の能力ゆえに選ばれることは事實ですが、その能力とて、取り立てて崇めるべき性質のものではありません。ある啓示のための適切な道具として選ばれ、その啓示が託されたというにすぎません。靈媒自身の功績とすべきものではないということです。また眞に忠實な僕としての心得のある者ならば、そうは思わないものです。

ただの媒體、神の啓示の榮誉ある道具に過ぎません。その榮誉も靈界側から見ての榮誉であり、世俗的な意味での榮誉ではありません。神の僕――神のメッセージの受け皿として選ばれたという意味において、われわれの側にとって有難い存在ということです。

その任務を忠實に遂行するにつれて靈媒も恩恵を受け、地上を去ってのち、こんどは自分が神のメッセンジャーとして地上の靈媒にメッセージを届ける役目にふさわしい人物として成長していきます。その受け皿はおのずと氣高い芳香に満ちております。

その神の僕として仕えれば仕えるほど、その氣高さを増していきます。神の眞理という名の宝石箱として、人間と天使の双方から敬意を受けるに足る存在となってまいります。

『シルバーバーチの靈訓（十一）』p.39～40

シルバーバーチは、人間とは「インスピレーションを受け取る媒體」と斷言しています。これは、靈的世界が靈止であり「メッセンジャー」、地上世界が人間であり「實踐者」という關係性をそのまま表している的確な表現です。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

人生の青写眞（ブループリント）に導かれるために日々の生命（いのち）の調律をする



先ほどのシルバーバーチの言葉を正しく受け取るならば、「直観」という名のメッセージは全て背後靈（SEPOUW）が影響しており、直観という形でわたし達にアドバイスを送っています。

わたし達地球人は、顯在意識（DIKAG）では、地球に何のために生まれ、何のために生きるのかを理解できません。把握しているのは自分自身の靈の心（EXA PIECO）、および背後靈（SEPOUW）です。わたし達の誰もが地上世界に生まれてから今日に至るまでずっと背後靈（SEPOUW）によって守り導かれているのです。

> わたしはいつも思うのですが、地上の人々、中でも特に靈的知識を手にされた方が背後靈の存在を實感を持って認識してくだされば、どんなにありがたいことでしょう。地上の神意（あい）する者へ無益な害が及ばないようにかばい、守り、導いている靈の姿を一目ご覧になることができれば、と思うのです。
>
> 『シルバーバーチの靈訓（十）』p.65

今この時も背後靈（SEPOUW）は常にわたし達に密着し、氣づきと學びのために働きかけています。さらには背後靈（SEPOUW）は、守護し指導する人間の性格、氣質、前世の姿、靈的な因緣（いんねん）、さらには今後の人生行路から寿命に至るまで、当人に關するありとあらゆることを知り尽くしています。

そして、可能な限り背後靈（SEPOUW）は、地上人を守り、導こうと努力しています。それは、調和を實踐することでの靈性の進化のためです。それを地上人は背後靈（SEPOUW）にサポートをお願いしており、必死にひたすらにわたし達に無償の神意（あい）を實踐してくれています。

しかし、その背後靈（SEPOUW）は何でもかんでもサポートしてくれるかと問われたら、答えは「NO」です。なぜなら背後靈（SEPOUW）が地上人をサポートするためには「条件」が必要だからです。その条件を満たさない場合、背後靈（SEPOUW）はわたし達を手助けすることは出來ません。

各自に守護靈がいることは事實ですが、その事實を本当に自覺している人が何人いるでしょうか？（顯在意識（DIKAG）での）自覺がなければ、無意識の心靈能力を持ち合わせていない限り守護靈は働きけることはできません。

靈の地上への働きかけは、それに必要な条件を（地上サイドの）人間が用意するかしないかに掛かっています。靈の世界と連絡の取れる条件を用意してくれれば、身近な關係にある靈が働きかけることができます。

よく聞かされる不思議な體驗（たいけん）、奇跡的救出の話はみなそれなりの条件が整った時のことです。条件を提供するのは（靈界サイドではなく）人間のほうです。人間のほうから手を差しのべてくれなければ、わたし達は人間界に働きかけることはできないのです。

『シルバーバーチの靈訓（二）』p.209

その条件は、どれだけ背後靈（SEPOUW）の指示を實行するかによって決まります

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

SEPOUW
背後靈が地上人をサポートする条件のひとつが、「直観」で入ってきた情報を「裏づけ根拠なしで決心して實行する」ことです。

自分の人生に關わるとか、命に關わるとか、會社（かいしゃ）の大きな信用に關わるとかいうときに、直觀で入ってきたものを裏づける根拠を調べようとすればするほど、サポートはなくなってきます。

「裏づけ根拠を求めない」で、決心して實行するときに初めてサポートが起きるんですね。裏づけ根拠を求め始めると、結局、（DIKAG
顯在意識の自我と欲望で）ブレーキをかけていって、DIKAG
顯在意識でわかっている範囲にしてしまう、修正してしまいます。それは、もうすでに直觀ではありません。

『波動の法則　實踐體驗（たいけん）報告』p.144

直觀という名のメッセージは全てSEPOUW
背後靈が影響しており、直觀という形でわたし達にSEPOUW
背後靈はアドバイスを送っています。しかし、シルバーバーチは直觀についてをこのようにも述べています。

精神統一中に示唆を受けた時、たとえそれが何かのお告げのようなものであっても、あなたの良識が許さない時は實行に移してはなりません。統一中に浮かぶアイディアの中から“これぞ本物のインスピレーション”と直觀できるのは、ある一定の靈格を身につけた人だけです。

『シルバーバーチの靈訓　スピリチュアリズムによる靈性進化の道しるべ』p.221

精神統一とは「禱（いの）り」のことですが、そこから本物の直觀を見極めるのは極めて難しいです

では、どうしたらいいのか、それは「直観の正確性を確認」することです。そして直観が正確か確認できた場合、「自分に現時点できる最善を尽くす」ことです。

わたし自身もそれを繰り返し體驗してきて、なるほどという體驗を繰り返したなかで、決斷する勇氣がだんだん變わってきました。

命に關わる場合でも、正確な情報かどうかを確認するだけです。正確に情報が入っているとわかったら、あとは今できる最善を尽くします。

どうしても命に關わるものは、顯在意識で余分な心配をするわけです。でも、それをやっている暇があったら、今できる最善を尽くして、それが實現するにはどうするかに專念してください、というメッセージがきます。

もう少し突っ込めば、１００％信頼しなかったら、疑っているのです。それで、裏づけ根拠を求めるのです。正確に情報が入るようになってきたら、「時空の仕組み」のサポートしてくれている意識體を、１００％、こちらが信頼する。

そうしたら不安も心配も起きません。疑うことはあり得ないです。疑うというのは、サポートしてくれている時空を疑っていることになります。

『波動の法則　實踐體驗法則』p.145

案ずることはありません。あなた方は自分なりの最善を尽くせばよいのです。もうこれ以上はできないというところまで努力したら、それ以上はムキにならず、あとはわたし達に任せる氣持ちにおなりなさい。人間は自分にできるかぎりの努力をしていればよいのです。それ以上のことは要求しません。

『シルバーバーチの靈訓（九）』p.160

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

SEPOUW
背後靈は、自分自身が決めてきた人生の青写眞（ブループリント）に導くため、想像を絶する困難な状況から地上人を導こうとしています。そして、靈的成長のための試練、厳しい道を用意します。そして、その困難を乗り越えて靈的成長ができるように、影からサポートをしてくれています。

> 地上に生を享（う）ける時、地上で何を爲（な）すべきかは魂自身はちゃんと自覺しております。何も知らずに誕生してくるのではありません。自分にとって必要な向上進化を促進するにはこういう環境でこういう身體（しんたい）に宿るのが効果的であると判斷して、魂自らが選ぶのです。ただ、實際に肉體（にくたい）の鈍重さのために誕生前の自覺が魂の奥に潜んだまま、通常意識に上がってこないだけの話です。
>
> 『シルバーバーチの靈訓（一）』p.38

ヒーリングの目的は、「人生の青写眞（ブループリント）」に従った生き方に導くためにあります。誰しもが生まれる前に人生の目的を決めてきていますが、DIKAG顯在意識では自覺できません。だから地上人の誰しもに「守護靈」がいます。

守護靈と指導靈を総称して「SEPOUW背後靈」と呼びますが、わたし達を導こうとする靈的世界のサポーターの存在を信じ、日々の禱（いの）りを通してSEPOUW背後靈から「直觀」を受け取り、そのメッセージを實行することで、徐々に人生の目的を達成していくのです。

インスピレーション（※メッセージ）の大まかなステップ

① 日常生活の靈優位の決心と努力（※靈的眞理の學習、禱（いの）り）
② 靜寂、受容性（※ゆったり、おおらか、リラックス）でSEPOUW背後靈から直觀を受け取る
③ SEPOUW背後靈の直觀の正確性（※精度）を高める条件は、信仰心、素直、謙虚、感謝
④ 直觀、決心、實行した體驗（たいけん）から「氣づき」と「學び」と「改善」を繰り返す

精神統一をなさることです。時には煩雑なこの世の喧騒を離れて魂の靜寂の中にお入りになることです。靜かで受身的で受容性のある心の状態こそ靈にとって最も近づき易い時です。靜寂の時こそ背後靈が働きかける絶好機なのです。片時も靜寂を知らぬような魂は騒音のラッシュの中に置かれており、それが背後靈との通信を妨げ、近づくことを不可能にします。

ですから少しの間でいいのです。精神を靜かに統一するよう工夫することです。すると次第に役に立つよい考えが浮かんでくるようになります。背後靈のオーラとあなたのオーラとが融合する機會が多いほど、それだけ高度なインスピレーションが入ってきます。どれほど多くの神意があなたのまわりを包んでいるか、それが判っていただけないのが殘念です。

『シルバーバーチの靈訓（二）』p.18～p.19

地上世界の日常生活にあくせくとし、次から次へと生じる家庭や仕事のゴタゴタに係わっていると人間は人生の基本である永遠の靈的原理を忘れがちになります。だからこそ靈的眞理の學習を通して本質を忘れないようにしなければなりません。

また、日々の音叉による生命の調律を通してEXA PIECO靈の心の焦点を回復し、靈優位という調和を取り戻す必要があります。そして毎日の生命の調律をし、「SEPOUW背後靈のオーラ」と「自分自身のオーラ」が融合すればするほど、「人の役に立つよいアイデア」が浮かんできて、一段と大きな奉仕に励むことができるわけです。

シルバーバーチは「どれほど多くの神意があなたのまわりを包んでいるか、それが判っていただけないのが殘念です」と述べていますが、わたし達は禱りをすればするほど、こうした神意を受け取れるようになります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

科學者の手によって物質界の原理の多くが發見されました。が、その探求の手はまだまだ靈的な分野にまでは及んでおりません。人生を物的尺度でもって判斷し理解し考察しようとするのは愚かです。小さな一部分にのみ關心を集中し、肝心な大きなものを見落としているからです。

わたし達の仕事は、その大きな世界、靈の宝庫に目を向けさせ、暗闇と無知の中で道を見失っている數知れない人々に、靈的眞理を知ることによって得られる導きと慰めと確信をもたらしてあげることです。

それとても實はわたしの望んでいるところの一部にすぎません。肉親を失った人を慰めてあげること、悲しみに暮れる人の涙を拭ってあげること、こうしたことは實に大切なことです。確かにこれもわたし達の使命の一部ではあります。

しかし、もっと大切なことは、そうした體驗を通じて自分とは何か、本当の自分とは何なのか、何のためにこの地球という惑星に生を享けたのか、より一層の向上のためには何を爲すべきか――こうしたことについての正しい認識を得させてあげることです。それが一番大切なことです。

『シルバーバーチの靈訓（二）』p.173

スピリチュアリズムという地球人類救済計画というプランは靈的世界で出來上がっており、わたし達はこの惑星地球で、「調和の實踐」による「靈的成長」をすることが地上世界に生まれてきた意味です。

地上世界は混乱が絶えなく、喧騒と怒号が鳴りやむ時がありません。そうした地上世界を少しでも改善し、自分自身が靈的成長をするために必要なことが「眞の禱り」なのです。日々の生活に生命の調律を取り入れることの大切さがこれで理解できたと思います。



第七章

ホリスティック健康學(いがく)、予防醫學

眞のホリスティック醫學(いがく)の世界にようこそ

生命(いのち)の調律は、眞の健康に繋がる道

地上世界の悲劇、病人の激増による苦しみ

それは靈的眞理に適った生き方を通してなくせる



資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

音叉セルフ學は、地上世界最先端の健康學であり予防醫學である



音叉による生命の調律は、スピリチュアリズムが明らかにした靈的眞理のひとつ、人間の「身體觀」が基盤になった「ホリスティック健康學」を元にしています。音叉による生命の調律は地上世界最先端の健康學です。

> 病氣というのはその大半は主として精神と肉體と魂との間の連絡が正しく行われていないことに起因しています。正しく行われていれば、つまり完全な一體關係にあれば完全な健康と安定性と落着きと機敏性を備えています。もっとも、そういう人物は地上では滅多にお目にかかれません。
>
> 『シルバーバーチの靈訓（二）』p.193～p.194

シルバーバーチの言葉を正しく理解するならば、「靈」、「靈の心（EXA PIECO）」、「肉の心（DIKAG）」、それらを繋ぐのが「精神」であり、「靈體」と「肉體」の連絡が正しく行われていれば健康になると述べられています。

人間を構成する本質と、ネットワーク關係			
人間の身體構成	靈體	幽體	肉體
管理する器官	奇經八脈	チャクラ	十二經絡
分泌液	リンパ液	髓液	血液
分泌液の作用	靈體オーラ	自律神經	肉體オーラ
エネルギーの触媒	ホルモン	ミネラル	酵素
健康との關連	細胞、睡眠、休息	骨、食事、水	筋肉、運動、散歩

ホリスティック健康學では、人間の健康状態は「心、食事、運動、休養」という４つの健康条件の総合的な影響力によって決定すると考えています。そして、スピリチュアリズムでは病氣の９割は「心のカルマ」が原因であると斷定しています。

EXA PIECO靈の心優位で生きるために必要なことが禱りであり、音叉による生命の調律とは「EXA PIECO靈の心の所作」であり、心を正すための行爲。これを強調する理由とは、「禱りによって心を正せば、病氣の９割は自分自身で治せる」からです。しかし、殆どの人間は自分自身の心の在り方を正そうという努力を嫌います。だから病氣が治らないのですが……。

音叉による生命の調律により心を正せば病氣の９割は自分自身で治せる、これがホリスティック健康學の眞髓です。すべては「心の在り方」が健康と病氣の原因です。その事實を受け止め、日々の禱りをすることが健康の原点なのです。

現代地球文化の現代醫學は肉體のみしか見ていない唯物思想であり、人間を構成する５つの本質的要素を認めていません。靈、EXA PIECO靈の心、靈體、靈體オーラも基本的に否定しており、血液を循環させるために酵素、筋肉を鍛えるための運動、肉體を温める温熱療法が健康學の中心になっています。しかし、人間はそれだけでは健康にはなれません。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

「やはり病気は自分で治せるのでしょうか？」

治せるだけでなく、げんに治しております。魂の優位を主張し、肉體（にくたい）という下等なものによって束縛され抑えられることを拒否することによって病氣を追い払うのです。身體（しんたい）を従者にするのです。主人にしてはなりません。誰にでも出來ることです。ですが、大部分の人間は頭から出來ないものと思い込んでいます。だから出來ないのです。

肉體（にくたい）は精神の従僕です。精神は肉體（にくたい）に隷属しているのではありません。肉體（にくたい）は束の間の存在であり精神は永遠の存在です。肉體（にくたい）はいずれ朽ち果てます。精神が宿っている間だけ現在の形態を維持している一時的な存在です。それがその人ではありません。その人の表現體（ひょうげんたい）であり、道具であり、地上で認識してもらうための手段です。

その肉體（にくたい）が精神によって歩きまわることを教わり、筋肉を動かすことを教わり、血液を循環させることを教わり、心臓を鼓動させることを教わり、内臓の全ての機能を働かせることを教わったごとくに、こんどはその（リズムを狂わせている）機能に本來のリズムを取り戻させることによって病氣や疾患や異常を無くしてしまうことができるはずなのです。

『シルバーバーチの靈訓（五）』p.122～p.123

シルバーバーチは「精神」を強調していますが、MANAKA（マナカ）の宇宙觀で、精神と「星」は照應（しょうおう）關係にあると述べられており、正しく翻訳するとこういう意味になります。

「命とは星からの贈り物であり、身體（しんたい）は天體（てんたい）の神殿であり、肉體（にくたい）は星の従僕であり、星は永遠の存在です。その星により肉體（にくたい）の筋肉、血液、心臓が正しく機能し、肉體（にくたい）の本來の機能を回復することで、病氣や疾患や異常をなくせる」、このようにシルバーバーチの言葉を翻訳することが可能です。

知的生命體（せいめいたい）「MANAKA（マナカ）」の宇宙觀	
生とは？	死の世界へ入ることである
死とは？	星が生まれることである
命とは？	星からの贈り物である
魂とは？	星の生みの元である
覺醒とは？	星と受胎することである
星とは？	精神の瞬（またた）きの煌（きら）めきである
銀河とは？	精神の思い出の生地である

大靈（たいれい）が宇宙が生み、そのミニチュアである靈が生命を生み、魂という靈の心（EXA PIECO）が星を生み、万物すべてを「精神」という形でネットワーク化している。すべてが重なりあって自分自身が存在しており、靈、魂、身體（しんたい）の連絡をするのが「精神」であり、「星」になる。

これがシルバーバーチのいう、「精神と肉體（にくたい）と魂との間の連絡」であり、「星信仰の復活」とは「精神文化の復活」であり、それが究極の健康學にも繋がる。音叉は「天球の音樂」の具現化であり、シルバーバーチのいう「精神という永遠の存在」への帰化である。

２１世紀の現代、クストーの功績により天球の音樂を聽き、そして肉體（にくたい）と五感で體感（たいかん）できる地上世界最高峰の「ヒーリングツール」と「自己治療の手法（セルフヒーリング メソッド）」が誕生しましたが、それは音叉というよりも、「天球の音樂」という概念が最重要だということを忘れてはなりません。

音叉が凄いのではなく、大靈（たいれい）の自然法則である星々の運行（サイクル）を、肉體（にくたい）に、五感に、地球人類の誰しもが受け取れる時代に突入したことが凄いのです。それが、地上世界最先端の健康學と言い切れる根拠です。これは「靈的眞理」であり、星信仰の復活を通して、地上人類は誰しもが自分自身で病氣を治せる時代に突入しました。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

自然法則に反した健康學による病人の蔓延

地上世界の悲劇のひとつ、「調和の攝理に反した行爲による病人の激増」は大きな問題のひとつです。地上人類にとって健康は重大な問題です。人々は健康でいる時には氣づきませんが、病氣になると健康の大切さ、有り難さを身にしみて感じるようになります。

肉體は地上で働くための「魂の道具」です。その道具が故障していては思うように貢献できません。健康はお金で買うことはできません。いくら高度な現代醫療に頼っても、唯物思想の現代醫療では病氣は治せませんし、自ずと限界があります。たとえ億万長者であっても病氣になったとたんに、お金の力は地に墜ちてしまいます。

地上世界の人間が幸福な人生を送るためには、「魂の道具」である肉體の健康は欠かせません。心の平安と喜びこそが何よりも大切ですが、肉體を病んでいては未來に希望を見出すことができなくなります。現代地球人類にとって「病氣とは人生が絶望に支配されること」を意味しています。

現在の地上世界において完全な健康を手にしている人間はきわめて一部に限られます。殆どの國で病氣が当たり前となり、健康は遥か彼方の理想となっています。現代地球文化は靈的無知により、人間の幸福の条件である健康は、ますます手の届かないものになろうとしています。

これほど多くの人々が大切な肉體を病んでいるという實情は、地球人類の靈的レベルを物語っています。人間の本当の健康については、靈的成長を含めた靈的視点に立たないかぎり永遠に理解することはできません。その意味でスピリチュアリズムが明らかにした靈的眞理は、遠い未來における地上世界に本物の醫學をもたらすことになります。

地上世界の人間の最大の關心事				
人々の關心事		対義語		補足説明
寿命	健康	⇔	病氣	殆どの人間は予防醫學に力を入れないで病氣になる
収入	經済	⇔	貧困	殆どの人間はお金についてを學ばないから貧困になる
未來	希望	⇔	絶望	その結果、希望は閉ざされ絶望の人生を歩むことになる

地上世界の人間の最大の關心事は、如何に健康で長生きしよう、如何に沢山のお金を得よう、如何に地位、名譽、財産を築こうということに關心を向けており、殘念ながら殆どの方が靈的成長に關心がありません。高級靈シルバーバーチはそうした地上世界の傾向に対して苦言を呈しています。

「余暇の正しい使い方について教えてください」

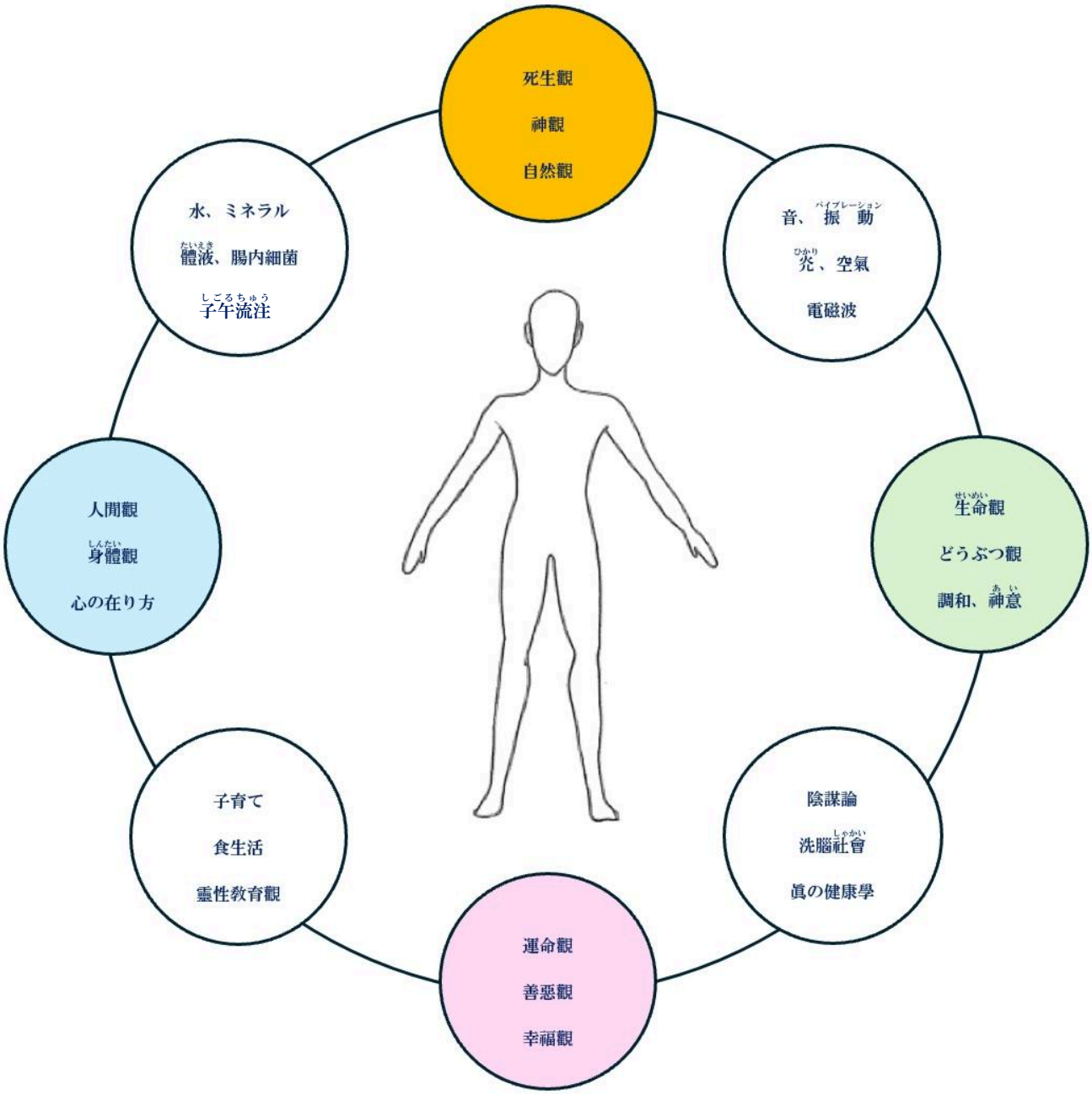
余暇は精神と靈の開發・陶冶に当てるべきです。これはぜひとも必要なことです。なぜかと言えば、（地上世界の人間は）身體に關係したことはすでに十分な時間が費やされているからです。人間は誰しも健康を維持し増進するための食生活には大變な關心を示します。もっとも必ずしも健康の法則に適っておりませんが……しかし精神と靈も發育が必要であることをご存知の方はほとんどいません。

『シルバーバーチの靈訓（四）』p.211～p.212

地上世界の人間は、健康には大變な關心を示しますが、大半の健康學がスピリチュアリズムが明らかにした健康の法則に適っていない、これが地上世界の現状です。そして大半の方が自然法則に反した生き方から病氣になります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

ホリスティック健康學に必要な人生觀と實踐論



人間が本当の意味で健康になるためには、スピリチュアルリズムが明らかにした靈的眞理への「信仰」と「實踐」が不可欠になり、音叉による生命の調律は、日々の實踐論に該当します。しかし、それだけでは健康にはなれません。なぜなら、靈的眞理に対する理性的信仰、確信的信念、それを揺るぎない人生觀にしなければ生命の調律は眞価を發揮しないからです。

【ホリスティック健康學に必要な人生觀】

神觀、調和、神意、自然觀、死生觀、人間觀、心の在り方、身體觀、生命觀、どうぶつ觀、運命觀、善惡觀、幸福觀

【ホリスティック健康學に必要な實踐論】

音、振動、炎、空氣、電磁波、水、ミネラル、體液、腸内細菌、子午流注、靈性教育論、食生活、子育て、陰謀論、洗腦社會、眞の健康學

靈的眞理と音叉による生命の調律はセットの意味にも繋がりますが、こうした人生觀が、そのままホリスティック健康學にも反映され、その人の地上人生の幸福、不幸を左右します。眞のホリスティック健康學はスピリチュアリズムの靈的眞理を取り入れたところに初めて成立するものです。

靈的眞理とは心の在り方の確立であり、靈的眞理に適った人生觀という心の在り方があってこそ全ての實踐論が活かされるのです。音叉による生命の調律は實踐論すべてに適用できますが、それはあくまで靈的眞理があってこそ活きてくることを忘れてはなりません。

特に、「人間觀」と「身體觀」という人間の５つの構成要素を知らなければ、どうやって健康になるというのでしょうか。それすらも知らない人間が地上世界には沢山存在し、肉體がすべてと思っている人間がどうやって健康になるというのでしょうか。

わたし達は「FUNEKON」が本質であり、靈と肉の２つの心と、靈體と肉體の二重構造を「精神」が繋いでいることを常に自覺している必要があります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

惑星音叉は賦活性を持った放射線そのもの

> ―――わたし達のすべてが治病能力を具えているのになぜ心靈治療家の存在が必要なのでしょうか。
>
> 神の攝理を知らない人が多すぎるからです。みんなそんな攝理なんかあるわけがないと思い込み、健康を回復する法則を實踐できる段階まで意識を高めることが出來ないと決めてかかっているからです。神の攝理に従って生きれば病氣も異常も生じません。肉體に異常が生じるのは攝理に反した生き方をしているからです。（靈と精神と肉體の）調和が乱れると病氣になり、自分自身の努力、または靈界からの治療エネルギーによって調和を取り戻すまでその状態が續きます。
>
> 『シルバーバーチの靈訓（五）』p.124～p.125

シルバーバーチは、魂心身の調和が乱れると病氣になると斷定しております。シルバーバーチは、自分自身のセルフヒーリングで魂心身の調和を取り戻すか、治療家によって治療エネルギーを送ってもらうまで病氣、不快、異常が續くと述べています。

天球の音樂を再現した音叉ヒーリングは、靈的エネルギー(宇宙エネルギー)と生命エネルギー(大地エネルギー)を人體に取り入れるための画期的な方法論です。星々の音がシルバーバーチのいう「靈界からの治療エネルギー」に該当します。

シルバーバーチはそうしたエネルギーを「賦活性を持った放射線」と表現しています。賦活性とは「機能や働きを活發化させること」を意味します。惑星音叉、ソルフェジオ音叉は賦活性を持った放射線そのものであり、それを人體に取り入れることで生命力を蘇生させます。それを地球人類誰しもが音叉により自分自身で出來る時代なのです。

心靈治療はどういうメカニズムで病氣を治すのか、治療家と患者との間にどういう關係が生じるのかを問われて―――

賦活性を持った放射線が注入されるのです。病氣に應じて種類が異なります。どういうものかと言われても、地上にはそれに類するものが見当たりませんので説明できません。たとえばX線、無線、磁氣、電氣といったものもあくまで〝用語〟であって、本質を傳えてはいません。

要するにこちらの世界には病氣を癒す力を持った放射線、エネルギー―――どう呼ばれても結構です―――が存在し、それを使用するのです。賦活性をもった生命力の一種で、それを人類のために使用できるまでに進化した靈が驅使しているのです。靈的啓示を授ける者が叡知の泉から汲み上げるように、心靈治療家は健康の泉から治癒力を汲み上げることができます。

『シルバーバーチの靈訓（五）』p.127

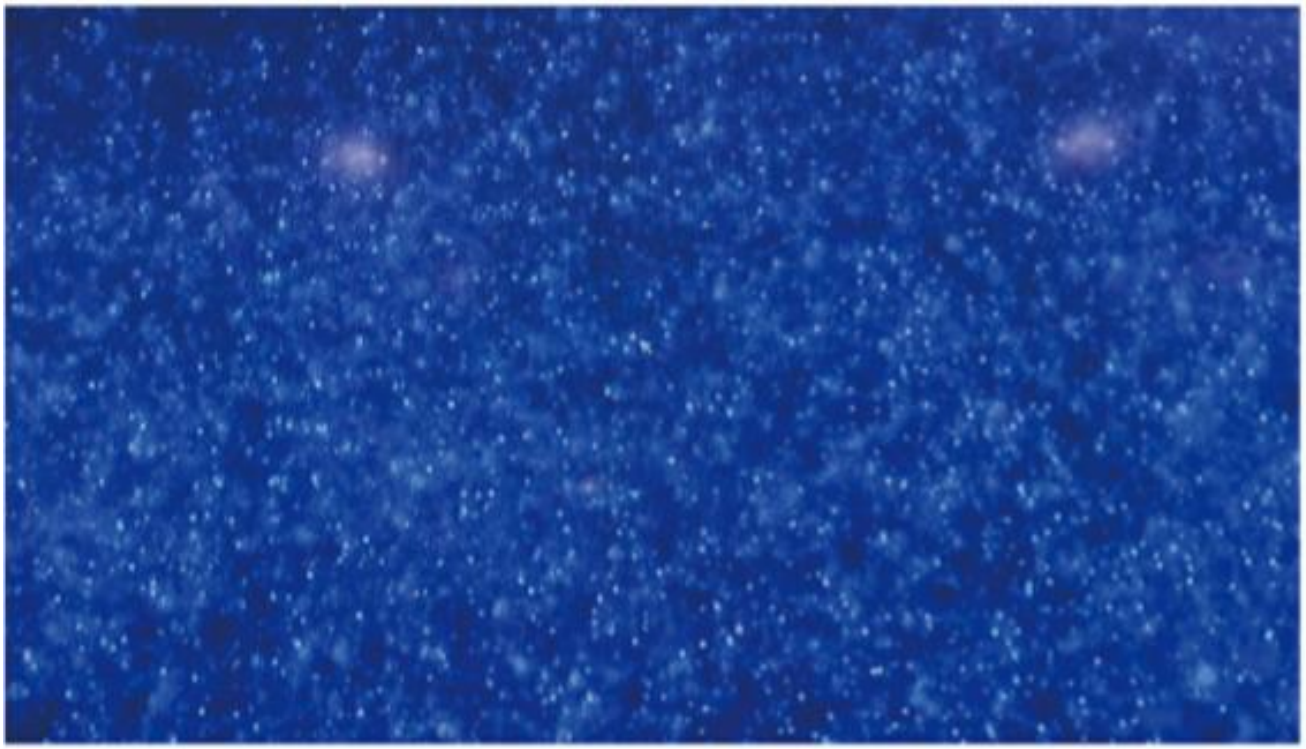
シルバーバーチの靈界通信は1920年から1981年にかけてイギリスで行われていましたが、当時は「星々の周波數」を誰しもが受け取れる時代ではなかったため、地上世界で賦活性を持った放射線の表現に苦心していました。

しかし、21世紀は、「星信仰の復活」を通して、誰しもが音叉を通して自分自身で「心靈治療」を出來る時代です。病氣は誰しも自分自身で9割治せる時代に突入しております。後はどれだけその事實を素直に受け止め、信仰實踐し、その眞理を人々に普及するかだけです。

そもそも、醫者や治療家が患者を治そうとするような時代は終焉させなければなりません。醫者や治療家は神ではありません。人間は万能ではありません。全知全能、完璧なる存在はFUGEHUKON（大靈）とFUGEHEKIN（自然法則）のみであり、人間に人間を治す力などありません。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

FUGEHEKIN（自然法則）は、精霊と妖精によって自然界、生命界を管理している



では、人間でなければ、何が病氣を治すのでしょうか？結論から言えば、病氣を治すものは「精霊」と「妖精」です。精霊の別名が「微生物」、妖精の別名が「ソマチッド」になりますが、この２つの存在の力を借りることで生命力が甦り、健康になるのです。

そして、精霊を活性化させるもの、妖精を活性化させるものの「原理」が異なります。しかし、あらゆるものに精霊と妖精は宿っており、FUGEHEKIN（自然法則）そのものといえます。古代インドの思想に興味深い考え方があります。

> 神は鉱物の中で眠り／植物の中で覺め／どうぶつの中で歩き／人間の中で思惟（しい）する
>
> （古代インド、ウパニシャッド哲學（てつがく）經典）

これはまさに精霊と妖精のことを表しており、アニミズムにも同様の考え方が存在します

地球ならびに自然界の背後には、常に天使、精靈、妖精の存在がありますが、日本人は古來より土の神、水の神、火の神といったように、多くの神々の存在を認めてきましたが、それらは精靈、妖精を靈能者が靈視したものです。アニミズムは無數の神々や靈的存在を認めるところに成立しますが、アニミズム信仰の対象となる精靈の多くは、自然界に遍在する妖精たちだったのです。

こうした觀点からすると、すべての存在物と自然界に神々が宿るとするアニミズムの思想は、正しい靈的認識の上に立っていたことが分かります。しかし、殆どの人間は精靈と妖精の違いを分かりません。この謎を解く鍵が「微生物」と「ソマチッド」なのです。

精靈とは「天使の想念が生み出した分身」であり、下級天使によってつくられた無數の分身が「微生物（精靈）」として、自然界を管理するために精密なリモートコントロール・ロボットとして忙しく働くことになります。

微生物（精靈）はロボットといっても意識が全くないというわけではなく、低次元の意識のようなものを持っています。そして自然界の創造、運行、維持は、すべて天使と、天使の分身である微生物（精靈）の働きによって進められています。

それとは別に妖精は「原始靈」と靈的世界では呼びます。妖精は、進化の低い靈的存在として下級天使のもとに置かれ、そこで神の攝理（せつり）を遂行する役割を与えられます。そして天使の末端の仕事、地上世界の現場の仕事に携わるようになります。

こうしたソマチッド（妖精）は、自然界を形成する「光（ひかり）、空氣、土、水」の四元素（エレメント）別に存在し、それぞれの仕事を担当します。すなわち光（ひかり）に所属するソマチッド（妖精）、空氣に所属するソマチッド（妖精）、土に所属するソマチッド（妖精）、水に所属するソマチッド（妖精）に分かれて天使の支配を受けて働き、神に貢献することになります。まさに「原始靈」というべき存在者です。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

靈的世界の地上世界へのサポート形態

自然界を形成しているのは、微生物（精靈）の働きによるものです。地上世界の人間は、自然界を形成しているのは微生物（精靈）であることを理解していません。宇宙中に、微生物（精靈）は遍満しており、その頂点が「靈の大海、すなわち大靈（たいれい）」なのです。

微生物（精靈）が働くものを生命エネルギーといい、人間を治療する原則は「海水、鉱物、植物」の力、要するに創造主なる海の力、地球の管理者である大地の息吹である鉱物と植物の力で人を癒すのです。

そして、ソマチッド（妖精）は原始靈、個別靈であり、靈的エネルギーを司ります。ソマチッド（妖精）は下級天使の分身である微生物（精靈）より、明確に意志を持って行動しています。ソマチッド（妖精）の別名を「超微小生命體（せいめいたい）」とも表現しますが、近年の研究で「音と微小生命體（せいめいたい）が相互に調律し合う」ことが判明しています。

天球の音樂、星々の振動によりソマチッド（妖精）は活性化し、人間にも力を貸してくれるようになります。ソマチッド（妖精）は、自然界を形成する「光（ひかり）、空氣、土、水」の四元素（エレメント）別に存在するので、心臓と肝臓が光（ひかり）、肺が空氣、脾臓が土、腎臓が水というように、それぞれ異なる役割をしています。

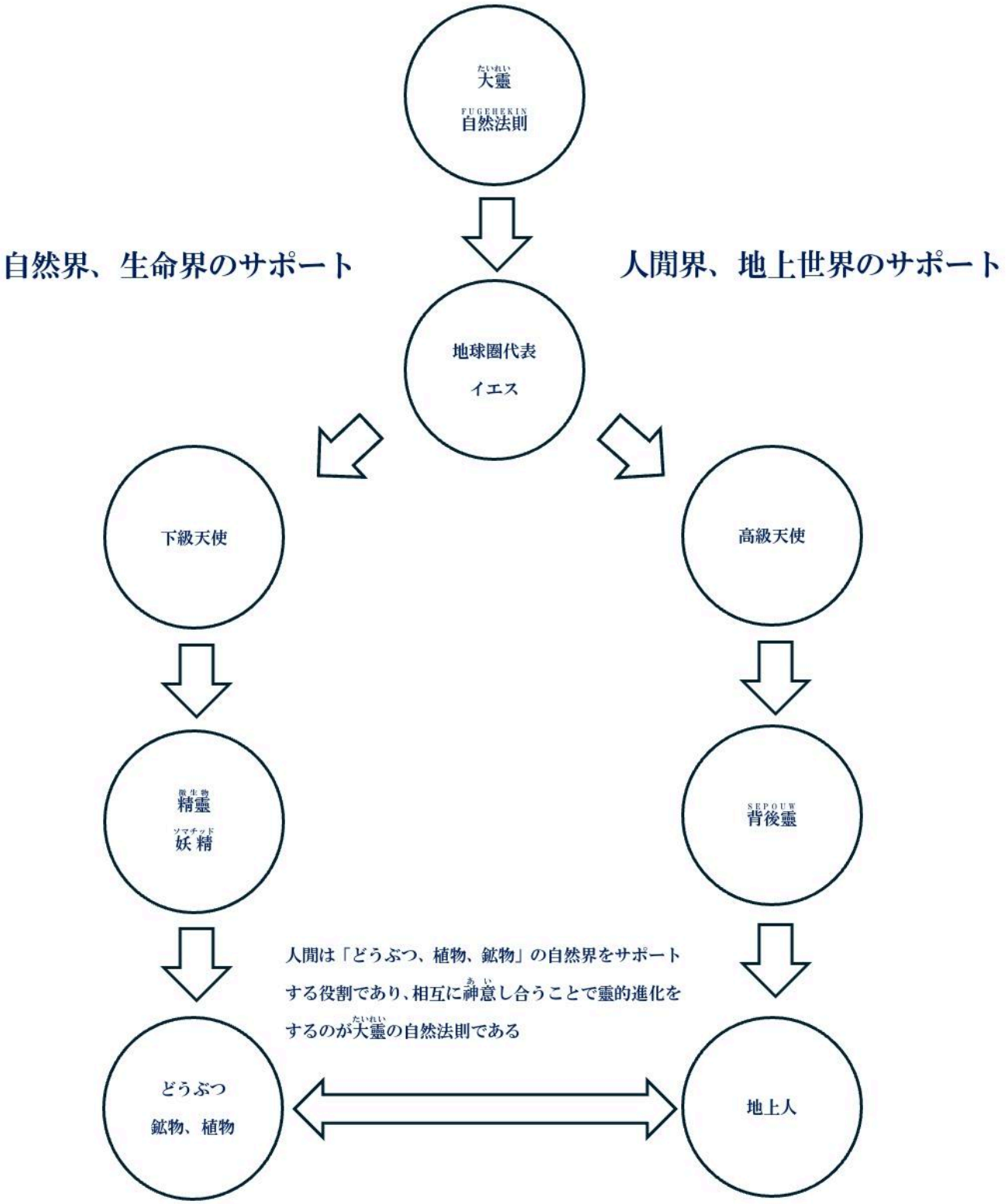
【精靈と妖精の人々を癒す原理の違い】

微生物（精靈）は、海水、鉱物、植物で人々を癒す。ソマチッド（妖精）は音、周波數により人々を癒す。

２つを融合調和することで、あらゆる病氣を治すことが可能になる

この情報は、地球環境の蘇生、病人の人々の蘇生に繋がってきます

霊的世界の地上世界へのサポート形態



資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

細胞の中の水が受ける「音＝波動、周波数」の調整で病氣は治る



エドガー・ケイシーは存命中に、「音は未來の治療となる」と述べていましたが、音によるヒーリングの用途は多岐に渡り、魂心身（こんしんしん）の健康を始めとして、アニマルセラピーや農業にも音叉を含めたサウンドツールを使い、様々なジャンルの垣根を越えた使用法が存在します。

音による癒しの研究の最先端は、アメリカのニューメキシコ州に本部のある「acutonics（アキュトニックス）統合醫學（いがく）研究所」と呼ばれる機關です。acutonics（アキュトニックス）統合醫學（いがく）研究所では、20 數年に渡る音叉ヒーリングの研究と、何万件もの臨床データ、エビデンスが存在します。

そして中醫學（ちゅういがく）をベースに東洋醫學（いがく）、西洋醫學（いがく）、心理學、理學療法、鍼灸、マッサージ、カイロプラクティック、そうしたものを融合した音叉ヒーリングを教えているスクールでもあり、醫療（いりょう）従事者の多くがacutonics（アキュトニックス）統合醫學（いがく）研究所に學びにいっています。

そして、acutonics（アキュトニックス）の周波数の研究によりあらゆる病氣が治ることが解明されています

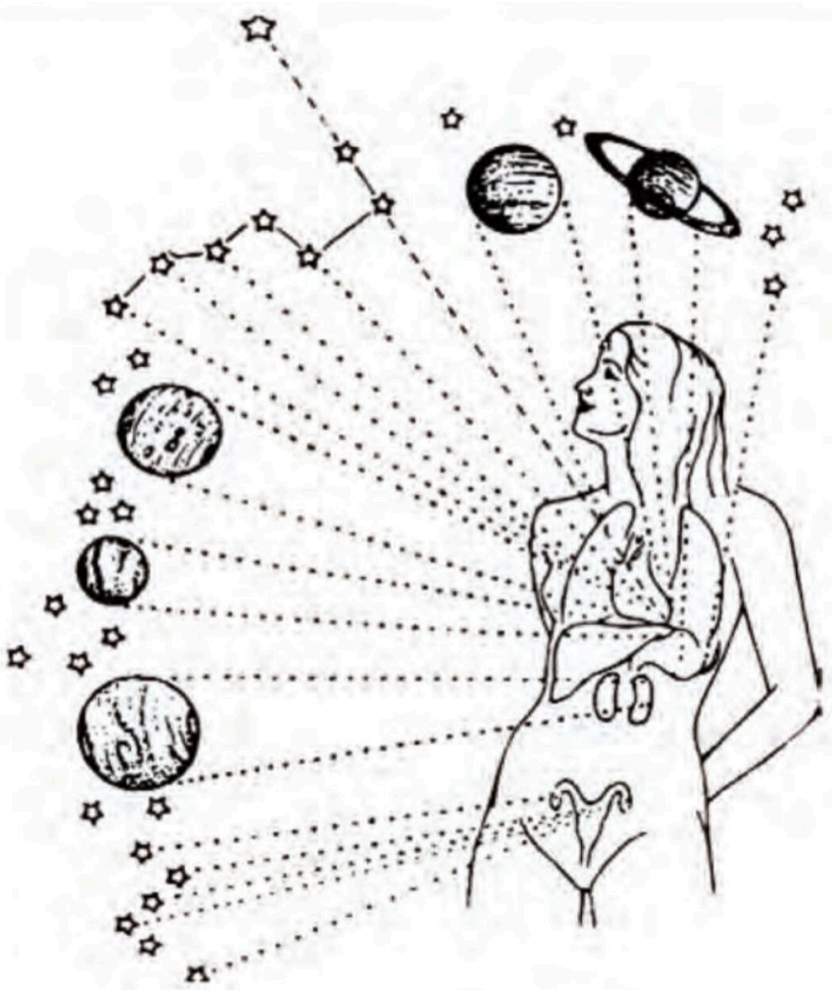


「cymatics（サイマティクス）」という、音や振動が物質に与える影響を研究する分野で、砂や水に音を当てた際に現れる美しい模様を指しますが、こうした現代科學（かがく）の分野でも、細胞の中の水が受ける「音＝波動、周波数」の調整ですべての病氣は治ると斷言されています。

この原理を應用（おうよう）した「サイマティクス・セラピー」は、人體（じんたい）の固有の周波數の乱れを、正常な音の周波數で共鳴・共振させることで、心身のバランスを整え、健康状態の改善を促す療法も存在します。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

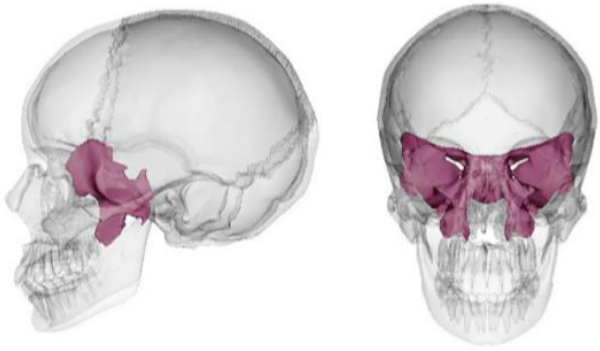
星々の音による生命（いのち）の調律という新次元の健康學



人間の各臓器、各組織、各器官には、固有の「振動數」が存在します。そこにアプローチできるのが「經穴（ツボ）」であり、人體（じんたい）には「365 個の經穴（ツボ）」が存在します。あらゆる病氣のメッセージは、正確には「經穴（ツボ）が病氣のサイン」という意味になります。なので病氣のメッセージに氣づくには經穴（ツボ）を知ることが重要になります。

靈體（れいたい）と肉體（にくたい）を繋ぐ接合点は「チャクラ」ですが、靈的世界と物質世界の接續点（せつぞくてん）は「經穴（ツボ）」になります。奇經八脈と十二經絡上に經穴（ツボ）が存在するので、それは不思議なことではありません。カラダの經絡上にあるエネルギーの出入り口である經穴（ツボ）に「星々の音」を直接注入すると、潜在意識（F I K）レベルでの變化（へんか）、細胞レベルでの變容（へんよう）が始まります。

蝶形骨（色の濃い部分）



経穴（ツボ）は靈的世界と物質世界を繋ぐ「ゲートウェイ」であり、わたし達は経穴（ツボ）という接續点（せつぞくてん）を通して、スピリチュアルレベル、精神レベル、感情レベル、物質レベルにおいてバランスが回復します。各経穴（ツボ）に様々な「基音（ホームトーン）」と「音程（インターバル）」を取り入れていくにつれ、人間の細胞は新しい次元に生まれ變（か）わります。

人體（じんたい）で重要な器官に「仙骨」と「蝶形骨」がありますが、仙骨は「新月」の波動と同じであり、蝶形骨は「滿月」と同じ波動になります。月の波動を仙骨や蝶形骨に使用することで、頭蓋仙骨療法と同じことが可能です。

仙骨と蝶形骨について				
器官	惑星	月の周波數	ホームトーン 基音	役割
仙骨	新月	210.42Hz	128Hz	靈體（れいたい）と肉體（にくたい）を繋げる役割をしている
蝶形骨	滿月	227.43Hz	136.1Hz	DIKAG FIK 顯在意識と潜在意識を繋げる役割をしている

仙骨や蝶形骨を刺激することで「遺傳子（いでんし）の構造變換（へんかん）」、細胞を新しい次元の細胞にするために脊髄一本一本の RNA 構造が變（か）わり、DNA が三重螺旋などになる、チャクラが開くことによる心靈（サイキック）能力の目覺めなどに繋がります。

これは、がん細胞などを正常な細胞に戻すことにも繋がってきます

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

色々な惑星の周波数を十二經絡の經穴に複合音で使うことで、様々な病氣の治療に有効なことが現代科學で確認されています。そして星々の音と人體の關係は、すべての音、身體の周波数を束ねて北極星に送られています。奇經八脈と仙骨八仙洞が、その介添えをしていることも判明しています。

身體の臓器のすべてに細かい星が共鳴して、わたし達の身體を生かしてくれています。こうした星々の音により靈、靈の心と肉の心、身體の「生命の調律」が可能であり、音叉によるセルフヒーリングが地上世界最先端の健康學という理由がこれでお分かりになるはずです。

本來健康とは、大自然と繋がり、精靈や妖精と調和することで人間に力を与えてくれるから健康でいられます。天使の管理下の下、精靈と妖精は万物に宿り、生命の順位も軀別もなく自然界のひとつひとつを育んでいます。

大靈のFUGEHEKIN（自然法則）は完璧であり、地球はこれからもずっと地軸を中心に回轉し續け、太陽はこれからもずっと輝き續けます。すべての天體が定められたコースを運行し續けます。潮は月の引力と斥力により満ち引きを繰り返し、春の後には夏が、夏の後には秋が、秋のあとには冬がめぐってきます。

それはその背後で支える大靈のFUGEHEKIN（自然法則）が無限であり誤まることが無いからです。これだけの大自然の見事なサポートの仕組みを知ったからには、それと同じ靈力が地上世界のことでしくじりを犯すことがあり得ません。それが永遠不變の法則なのです。

地上世界の人間にとって、健康と豊かさが最大の望みであり幸福です。健康なくしては調和の實踐も靈性の進化も不可能です。そのために、自分自身の靈の心（EXA PIECO）に耳を傾け、地球のあらゆる万物を尊ぶこと、共感力を養うことが本当の健康と幸福に繋がることに氣づく必要があります。



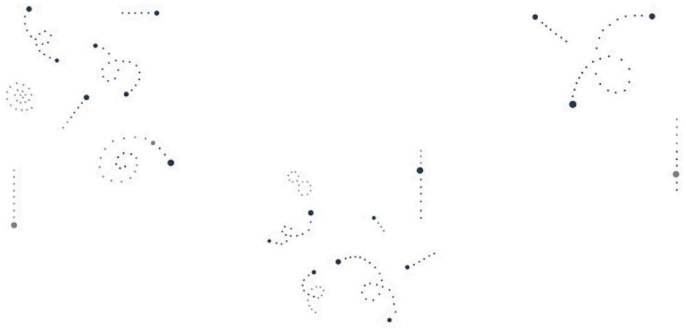
第八章

最先端科學（かがく）、周波數の叡智

病める地上世界を救う周波數の叡智

靈的眞理と生命（いのち）の調律が合わさる時

地球人類に眞の福音が訪れる





資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

靈的眞理の適用について



惑星地球文化の中核は、「科學（かがく）」、「醫學（いがく）」、「政治」、「經済」、「教育（※宗教）」になりますが、すべての分野が「FUGEHUKON（大靈）」の「FUGEHEKIN（自然法則）」に反した文化を築いており、それが地上世界を地獄のような世界にしてしまっています。

【地上世界の悲劇の根本的な内容】

① 小規模（ミクロ）と大規模（マクロ）の戦争

② 教育のマインド・コントロールによる魂の牢獄

③ 精神性の退廃、墜落による顯在意識（DIKAG）のEGHO（エゴ）意識の増大

④ 分かち合い意識の欠如による飢餓、貧困

⑤ 地球環境破壊、どうぶつ虐待

⑥ 調和の攝理（せつり）に反した行爲による病人の激増

それらは靈的眞理の適用によってのみしか、問題解決は出來ません

スピリチュアリズムという地球人類救済計画の総指揮者（リーダー）のイエスの教えである『シルバーバーチの靈訓』でも、靈的眞理の適用について、このように述べられています。

> 眞の平和は靈的攝理（せつり）を適用することによってしかもたらされないということを、地上人類はいつになったら悟るのでしょうか。戦争はもとより、それが生み出す流血、悲劇、混沌、破綻といったものの元凶は「利己主義」なのです。奉仕聖者が利己主義に取って代わることによってのみ、平和が訪れることを知らなければなりません。
>
> 『シルバーバーチの教え（新版・下）』p.68

> 和平へ向けていろいろと努力が爲されながら、ことごとく失敗しています。が、唯一試みられていないのは「靈的眞理」の適用という方法です。それが爲されないかぎり戦争と流血が終わることはなく、ついには人類が誇りに思っている物質文明も破綻をきたすことになるでしょう。
>
> 『シルバーバーチの教え（新版・下）』p.68

その靈的眞理の眞髄は、「FUNEKON（靈）優位」、「EXA PIECO（靈の心）優位」の生き方、そして「調和の實踐」による「靈的成長」という教えに集約されます。その教えは、「FUGEHUKON（大靈）」に対する神意（あい）と信仰心が必要不可欠であり、「FUGEHUKON（大靈）」の「FUGEHEKIN（自然法則）」に対する正しい理解も必要不可欠になります。

FUGEHUKON（大靈）に対する神意（あい）と信仰心は「禱（いの）り」が必要不可欠、FUGEHUKON（大靈）とFUGEHEKIN（自然法則）に対する正しい理解には「靈的眞理の學習」が必要不可欠、兩者が揃って、調和の實踐を通した靈的成長が本当の意味で可能になります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます



どういう現象が見られたとか、どんな音が聞こえたのかということは大して重要ではありません。もっと大切なことは、サークルのメンバーの霊性の開発です。

あなた方は毎週一回この交霊會に参加していますが、それによってより高度なバイブレーションに波長を合わせ、太古からの霊的叡智にいっそうなじむようになっています。霊的叡智は、地上という物質界に届けられることを待ち續けています。それが實際に地上に届けられるためには、そのバイブレーションに同調できる通路が必要となります。

あなた方の魂が開發されてより高度なバイブレーションに反應するようになれば、それだけ高度で強力な霊的エネルギーと接触できるようになります。そのエネルギーは目にも見えず耳にも聞こえませんが、永遠の霊的實在の一部です。

『シルバーバーチの教え（新版・下）』p.36～p.37

霊的世界と地上世界を繋ぐものは「周波数（フリークエンシー）」であり、違う表現だと「振動（バイブレーション）」であり、日本語だと「波動」と言われるものになります。日本語で周波数を表す言語は「氣」であり、万物は「氣＝周波数」によって秩序をもって自然界を管理、コントロールしています。

> 眞理が變（か）わることはありません。變（か）わるのは人間の心です。眞理は不變（ふへん）です。なぜなら眞理は正しい知識に基づくものだからです。その正しい知識は大靈（たいれい）から出ています。大靈（たいれい）こそ、すべてのインスピレーションの中心であり始原です。眞理はとてもシンプルで、容易に理解できるものなのですが、地上人はそれをきわめて難しいものにしてしまっています。
>
> 『シルバーバーチの教え（新版・下）』p.38

FUGEHUKON（大靈）は、振動（バイブレーション）によって霊的世界と地上世界を繋げ、FUGEHUKON（大靈）の振動（バイブレーション）に一致したときにインスピレーションが起きます。FUGEHEKIN（自然法則）とは「周波数（フリークエンシー）」と言い換えることが可能です。

インスピレーションの始原はFUGEHUKON（大靈）であり、霊的世界の存在と振動（バイブレーション）が一致した時に「インスピレーション」という形で「人生の導き（ガイダンス）」が手に入ります。全ての時代の霊的指導者は、高度な振動（バイブレーション）に同調し、その時代に必要なインスピレーションを地上世界に降ろしていました。

霊界からのメッセージを受け取る通路（チャンネル）に「霊媒」は必須です。スピリチュアリズムという地球人類救済計画の中心は「霊界通信」です。そして、霊界通信を通した「霊的眞理の普及」が大目的となります。その目的に、地上から「インスピレーション方式」で霊界と交信するための前段階に必要なのが「音叉によるセルフヒーリング」なのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

シャーマンという地上世界の靈的指導者



シャーマンは、10000 年以上も前の新石器時代の「巫（Wu）」と呼ばれる療術師が始祖的な存在になり、人生の青写眞、天體と人體の照應關係に氣づいた先驅者は、古代中國にいた「禹」でした。禹は 5000 年前の黄河沿岸の傳説的な首長でありシャーマンでした。

シャーマンとは、靈的世界と地上世界を繋ぐ「靈的指導者」であり、その最高峰の靈的指導者がナザレのイエスであり、イエスは靈能者であり、ヒーラーでもありました。

シャーマンは、祭祀や儀式、悪魔祓い、予言、ヒーリングを行う者ですが、そのシャーマンの使う「音」によって、祭祀、儀式、悪魔祓い、予言、ヒーリングが行われていました。靈的指導者の出す「振　動」によって人々を導いていたのです。

そうした存在の出す「音」で意識を「變性意識」、「變性状態」に導き、元々いた次元に繋がりやすくし、神や高次元と呼ばれる世界とも繋がりやすい状態にします。それは「多重波」を使用することで、靈的世界との繋がりをもたらしていました。

靈的指導者は、遺傳子(いでんし)が人間本来の「12 重螺旋構造」に近い状態なため、自然に「心靈能力」を發揮できました。地球の地上世界の人間は DNA 構造を二重螺旋構造と思っていますが、音によって DNA を進化させることは可能であり、本來は誰しも 12 重螺旋構造であり、その殆どの DNA（※約 98%）がジャンク DNA として眠っているだけです。

音は 360 度から情報が來るものであり、靈的指導者は古來から音によるヒーリングをしていました。樂器などは元々治療として使われており、例えばアボリジニの樂器である「ディジュリドゥ」などは 40000 年前には脊髄治療に用いていたという文献もあります。

すべては「振　動(バイブレーション)」で成り立っているので、「言葉、形、色、文字、香り」、これらは「振　動(バイブレーション)」であり、その根源は「音」です。闇とは「門」＋「音」であり、闇とは「光(ひかり)を生み出す源泉」であり、その本質は自分自身の内側の「振　動(バイブレーション)」のことを表しています。

シンプルな刺激と複雑な刺激による多重構造の音を聞くことにより、脳内は活性化されます。シンプルな音ばかりでは脳がマンネリ化します。

多重波(複合音)は腦梁、視床下部、前頭前野、楔部(けつぶ)への磁氣振動に影響を与える。そこから「神經系」→「心」→「魂」へと影響を拡げる。

多重波による脳と抹消神經への直接的な刺激により脳は活力が漲ります。なので、セルフヒーリングでも様々な音を使います。音を聞いてビジョンが見えてくるといった現象が發生するメカニズムは、目で見た時とは全く違った經路を辿って脳を刺激するからです。

それにより、わたし達の遺傳子(いでんし)の構造變換(へんかん)が始まり、靈的眞理が付け加わることで人々を正しい方向に導くことが可能になります。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

宇宙は音で始まり、やはり最後は宇宙は音で満ちている





音は基本的に自然物から發する音が心身によく、ネイティブでの祭祀でシャーマンは太鼓、ベル、笛、石や木、周辺の物を叩いて音を出していました。自然物にて音を意圖的(いとてき)に出す行爲は、人間と天體(てんたい)の音との繋がりを強くし、音により神と繋がると古來よりされてきました。

樂器はなるべく自然の素材を使用して作製された樂器がよく、デジタル音、プラスチック等人工物、鍵盤樂器は自然のリズムを變化(へんか)させてしまい、機械的、画一的になってしまい、シンプルな刺激しかなくなってしまうので好ましくはありません。

様々な情報を調べていくと、古代より人類は音の神祕の力を活用していることが分かってきます。古代エジプトやアイルランド、アフリカなど世界中で様々な音の作用により治癒力を高めていたことが判明してきています。

地球人類の殆どの方はDIKAG顯在意識とFIK潜在意識が分離しています。DIKAG顯在意識にあるEGHO(エゴ)意識が本質からのメッセージ、インスピレーションを妨げるのです。そうしたマインドを取り除くために音を使用し、ハートを開いていくことを古代人はしていました。音により肉のDIKAG心重視の生き方からEXA PIECO靈の心を重視した生き方にシフトすることが可能なのです。

そもそもわたし達のカラダそのものが「フィールド理論」の側面から捉えると、人體(じんたい)の構造は「樂器」と言えます。骨が木琴などの打樂器であり、胃はオカリナ、食道器官は管樂器、肺はアコーディオンに似ています。小さいカタカタ音がする樂器は腎臟と共鳴します。

太鼓は古の時代から存在し、心臟の治療に用いていました。古代エジプト、バビロニア文化では日常に最低二種類のドラムを使用しており、低周波と高周波のミックス音による多重波を發生させ、治療効果を高めたりしていたことが判明しております。

また、アボリジニの樂器であるディジュリドゥでは一本の樂器から發生するシンプルな鳴りと複雜な共鳴による多重波を發生させ、アボリジニはディジュリドゥの多重波により全ての種類の骨折、筋肉痛など様々な病氣を治していました。

古代ローマでは傷ついた戰士を癒すために滞在場所に使われた寺院などで様々な樂器や音を使用して治療効果を高めようとした記錄が殘っています。樂器ではなく歌も、グレゴリオン聖歌の讃美歌やララバイなどで多くの人を癒すと言われ、活用していたようです。

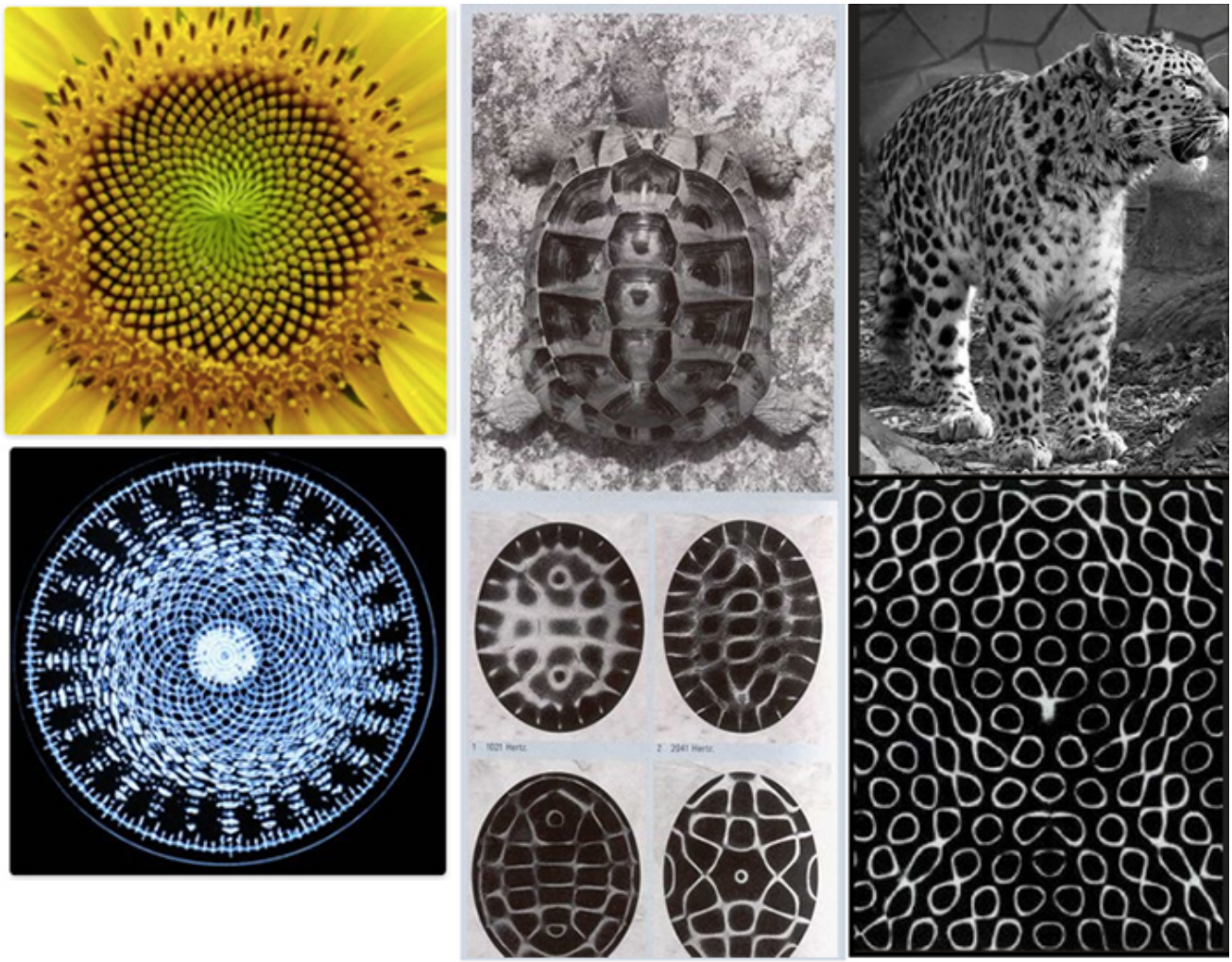
聖書ではイエスはハープかライアーかの弦樂器で治療をしていたという文献も存在しており、弦樂器は神經系の治療に用いていたようです。パイプオルガンは呼吸器系を司る臟器や氣道の治療に用いていました。

全ての植物が、あらゆる星々の違った複數の組み合わせの星から光(ひかり)を受けることで様々な形や色が作られていきます。見える光(ひかり)と見えない光(ひかり)がありますが、その光(ひかり)も音であり周波數であり、そうした宇宙の音樂が植物の生命の源になることもNASA等の研究で明らかにされつつあります。

NASAの職員は「宇宙は音で始まり、やはり最後は宇宙は音で滿ちている」と語っています

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

サイマティクスから明らかになる波動の世界



音の研究が解析されたのは「cymatics（サイマティクス）」という、音の振動が物質に与える影響を可視化する現象、またはその研究分野によってです。18 世紀の物理學者エルンスト・クラドニによって發見され、20 世紀のハンス・ジェニー博士（1904 年～1972 年）が命名しました。ジェニーはスイスの醫師（いし）、物理學者であり、cymatics（サイマティクス）の創始者です。

サイマティクスは砂や水などの液體（えきたい）に音を当てると、振動のパターンが形成される様子を觀察する實驗が有名です。ジェニー博士は研究の末、音による波動現象を、「無秩序なカオスではなく、動的で秩序だったパターンによるもの」だと結論付けています。

物理學の分野である量子力學では、「どうぶつ、植物、鉱物すべての物質は振動でできている」と言い表しています。つまり、あらゆるものにはそれぞれ固有の周波数があり、その周波数の組み合わせで万物は成り立っています。人間の身體も、身體の各臓器、各器官、各組織、體液、細胞それぞれに、特定の周波数を持つことが現代科學で解明されています。

これはすなわち、シルバーバーチがいうように、大靈の自然法則の完璧さが科學で証明されたことを表しています。これはスピリチュアリズムが明らかにした靈的眞理であると言い切れますが、これをどう捉えるかは皆さんの自由です。

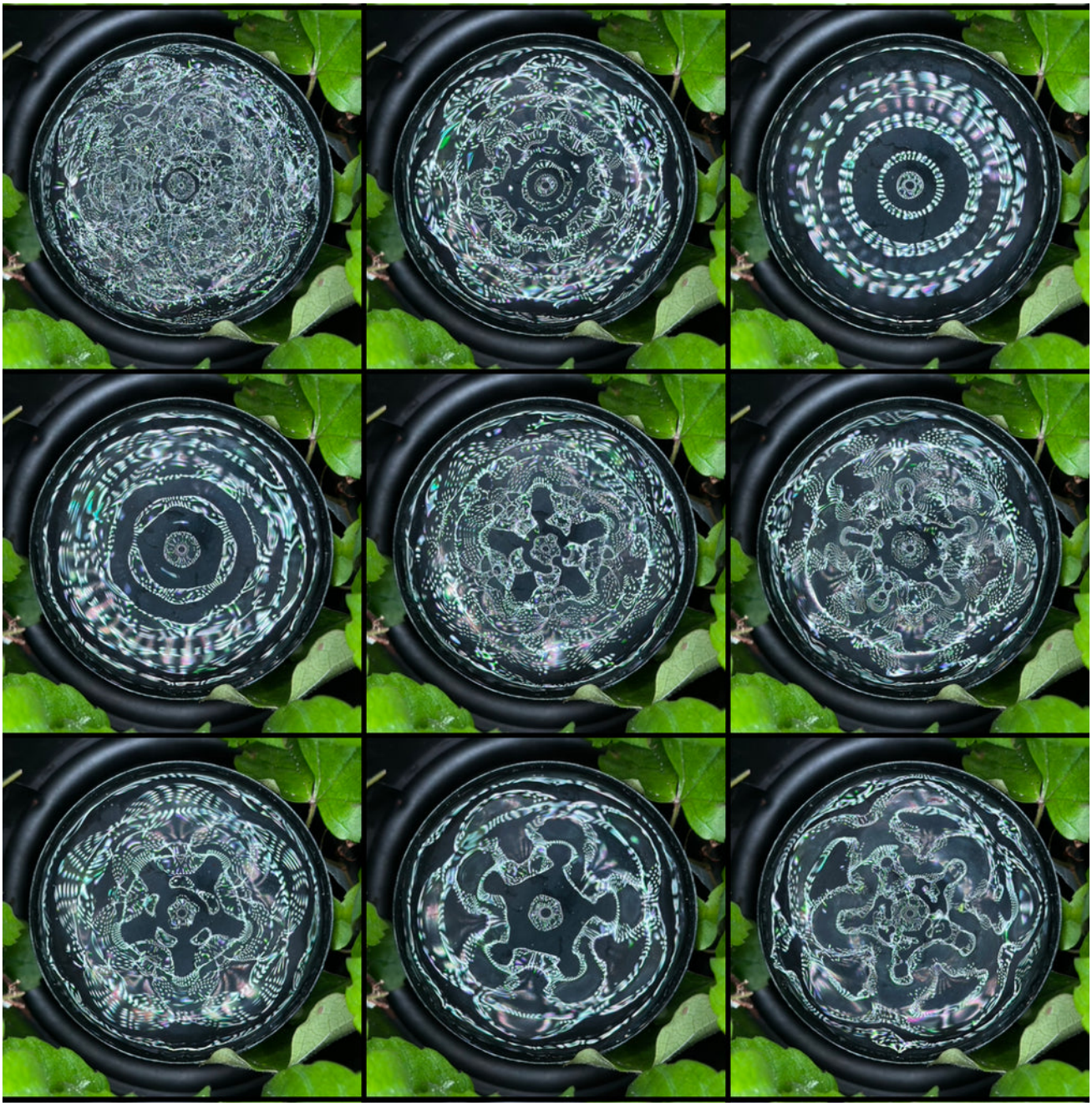
> わたし達は大靈が定めた攝理（法則）をお教えしようとしているのです。それを守りさえすれば、地上生活に健康と幸せをもたらすことができるからです。
>
> 『シルバーバーチの教え（新版・上）』p.88

全ての植物が、あらゆる星々の違った複数の組み合わせの星から光を受けることで様々な形や色が作られている、これは複数の天體の組み合わせで成り立つことも判明しております。これは『星たちのダンス』という著書も含めて明らかになっている事實です。

各種の植物の形は色々ありますが、すべてが惑星の運行の周波数によって成り立っており、星の關わり、地球の歴史の中で繰り返される變化と共に起きた世代交代による變遷、種子の記憶、星々の軌道と働きが生み出す周波数などが複雑に絡み合いながら微妙に變化して現在の形として存在しています。

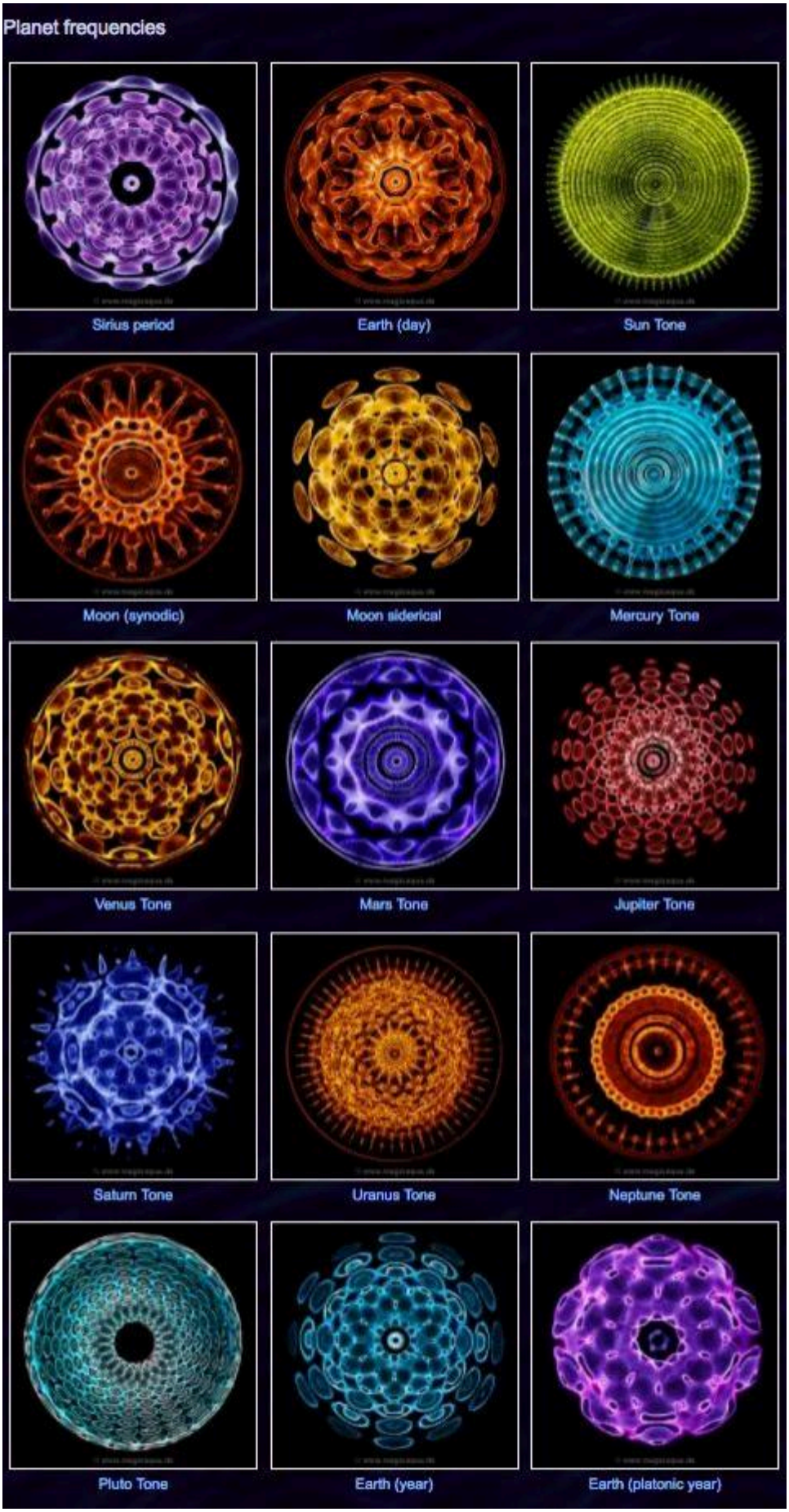
天體と人體は必ず照應關係にあり、人間は星座、どうぶつは銀河、鉱物は恒星、植物は惑星の影響を色濃く受けて生きています。周波数の研究とは、「大靈の自然法則の追窮」であり、神の學問という事實に異論の余地はありません。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます



また、現代科學(かがく)のサイマティクス装置でさまざまな周波數の模様が研究されていますが、植物の周波數を音樂にする機械のスピーカーの上にサイマティクス装置を置いて薄く水を張ると、スピーカーから流れる音樂によって水に幾何學(きかがく)的な模様が現れます。

そして、周波數や音量を變(か)えると、生き物のように模様が刻一刻と變化(へんか)していきます。數秒前の波の余韻から今この瞬間の波までが足し算されることで作られた波形は、一度たりとも繰り返されることはありません。



資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます



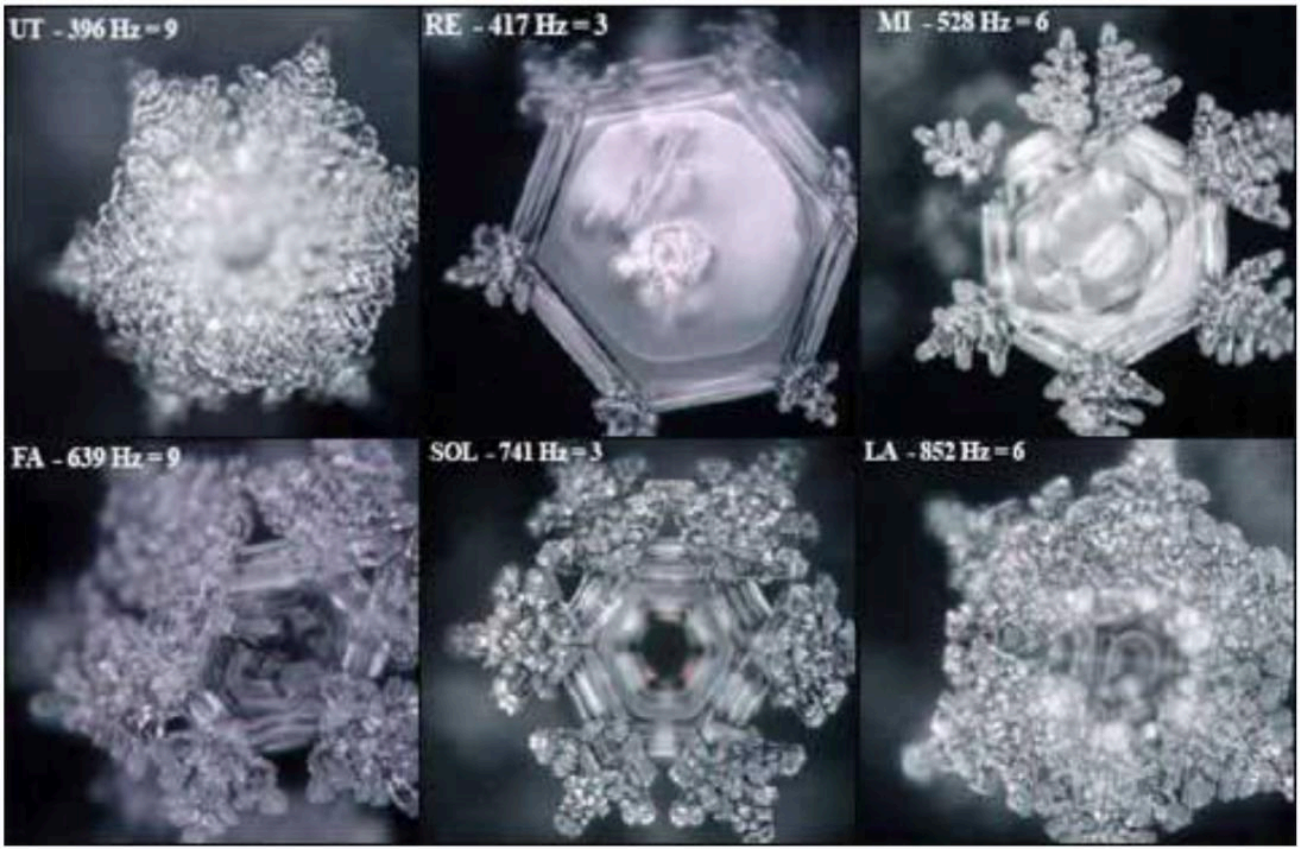
植物の周波数の波形が、惑星の周波数の波形と殆ど一緒なのは偶然ではありません。そもそも全生命は「光、空氣、土、水」がないと生命活動を維持できませんが、物質世界で最も重要なエネルギーを問われたら、必ず「海水」と答えます。

鉱物も植物も、「水」なくして形は成り立ちません。洋服も水分が完全になくなると最後はボロボロになっていきます。すべての生命は「保水性」がなくなった時に劣化が始まります。

そもそも微生物は「海水」、「水」、「ミネラル」を通して「鉱物」と「植物」に働きかけますから、鉱物と植物などの砂や水などの液體に音を当てると、振動のパターンが形成されるという理論は正しい理論なのです。

日本人では『水からの傳言』が有名ですが、『水からの傳言』とは水の結晶である氷から言葉や音樂への反應が讀みとれるとする江本勝の著書です。

この研究は「名勝の水」や「ありがとう」等の言葉を見せた水からは綺麗な結晶ができ、「水道水」や「ばかやろう」等の言葉を見せた水からはいびつな結晶ができるといった類のものであり、これはサイマティクスに通じるものがあります。



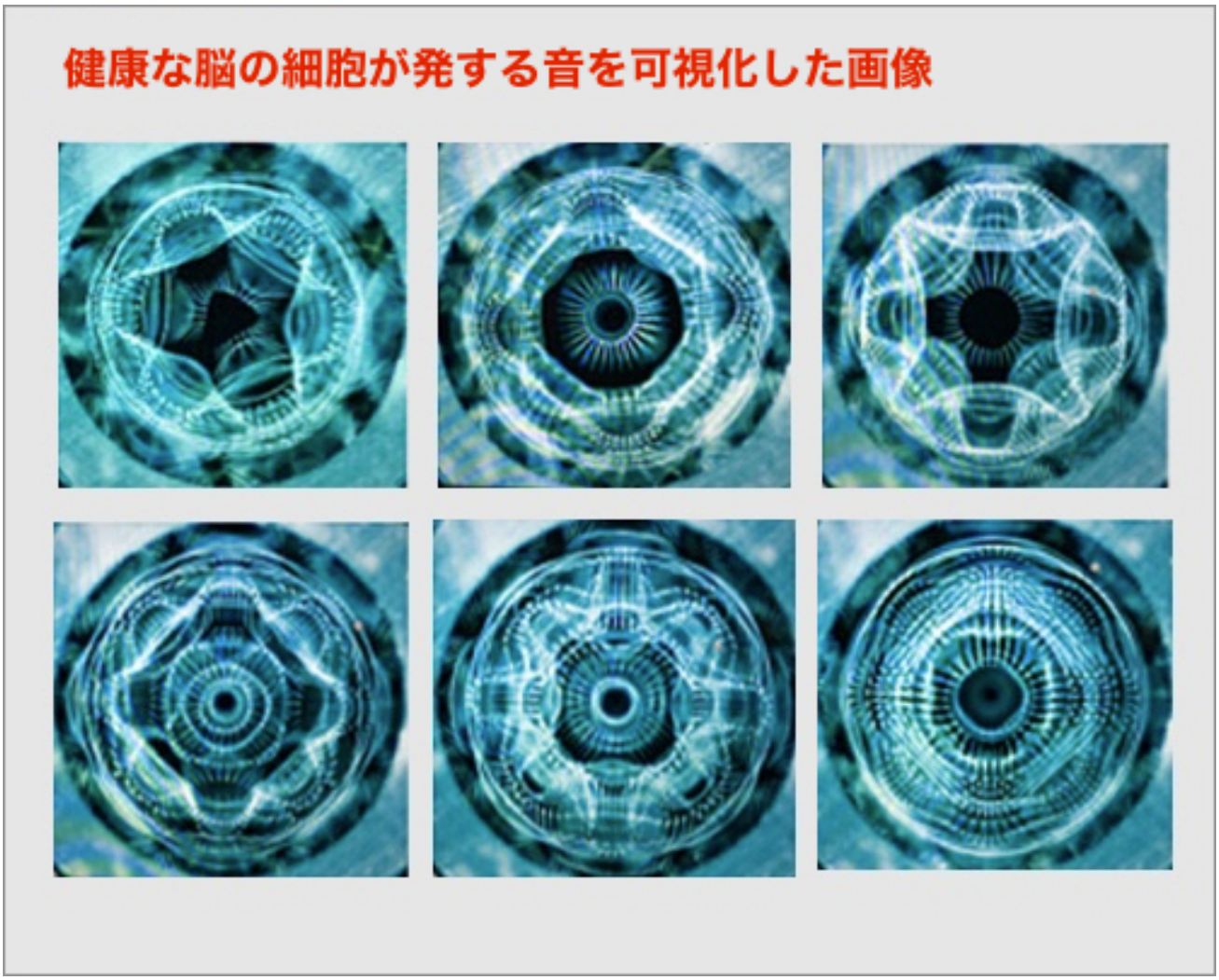
音叉によるセルフヒーリング入門編ツールの最重要セットである「聖なるソルフェジオ音階９本セット」も、水の結晶である氷から、音の振動が物質に与える影響を可視化することで形が判明しています。そして、「ありがとう」と「528Hz」の形が殆ど一緒なのも偶然ではありません。

水の本質的な作用とは「炎の周波数から波形を形成」し、「空氣を通して氣體、液體、固體と變質しながらエネルギーを傳達」し、「星屑から成り立つ元素と原子を通して周波数を記憶」する作用があります。

要するに、炎、空氣、土のエネルギーの集合體が「水」なのです。そういう意味で水はエネルギーの媒體そのものであり、そのエネルギーの中心の「音＝振動（バイブレーション）」によって靈的世界と物質世界を繋いでいます。地球人類が神秘の世界を知る鍵は「音」と「水」に答えを求めなければならないのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

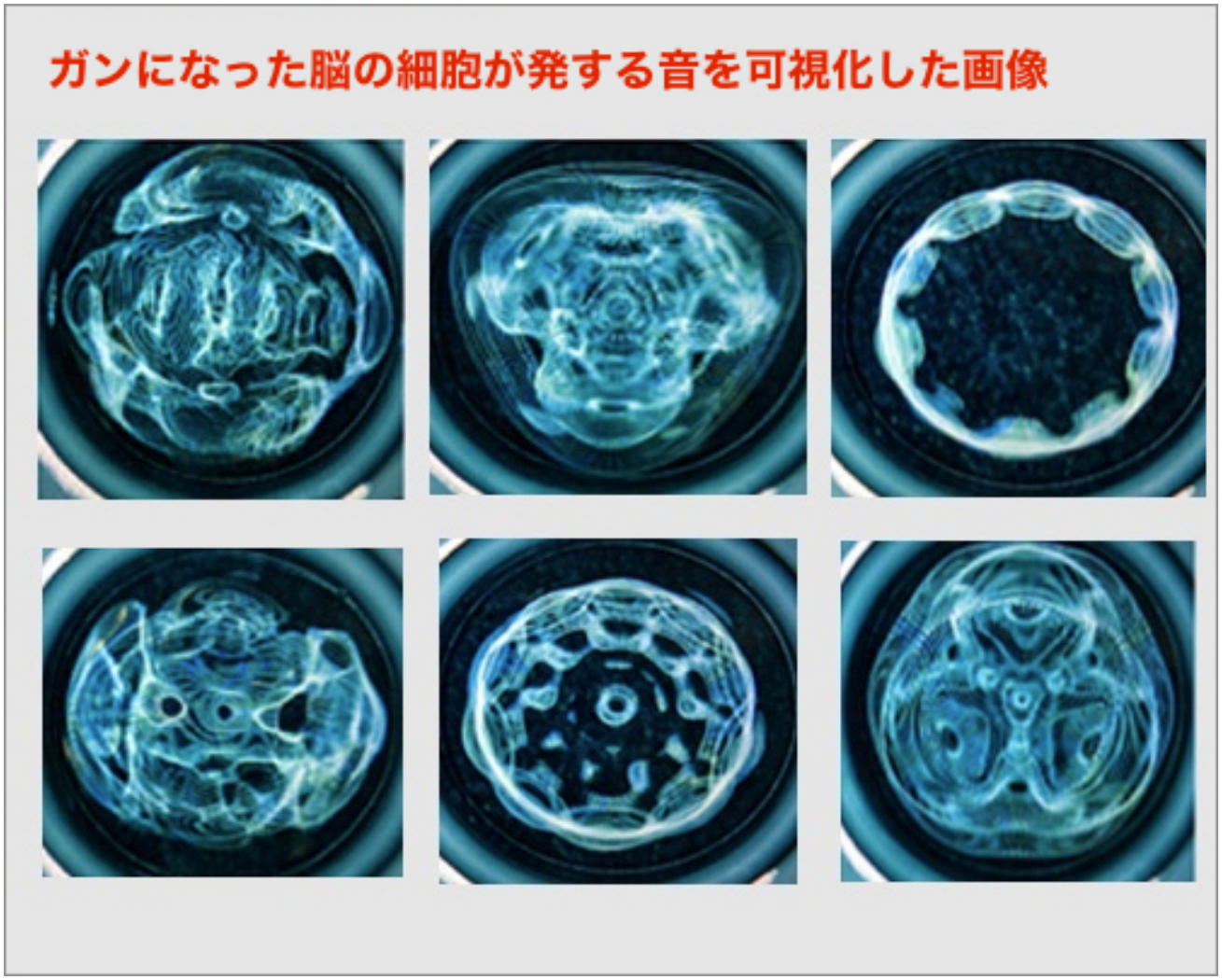
EXA PIECO
靈の心優位の場合の脳細胞の状態



現代科學(かがく)で、音は光(ひかり)よりもエネルギーの傳達(でんたつ)の速度が「10 倍」と言われており、水の中で音は「4 倍」でエネルギーが傳達(でんたつ)されることが明らかにされてます。大脳の 90％は「水分」であり、脳の營養素(えいようそ)は「音」だというのも判明しています。

なので普段の日常生活での「音」が「顯在意識(ＤＩＫＡＧ)」に与える影響は甚大であり、光(ひかり)や電磁波や磁氣波も結局は「音」の一種であり、わたし達の「心」に大きな影響を与えています。悪性の電磁波や磁氣波などに囲まれて生きている場合、脳細胞がガン化していきます。

DIKAG
肉の心優位の場合の脳細胞の状態

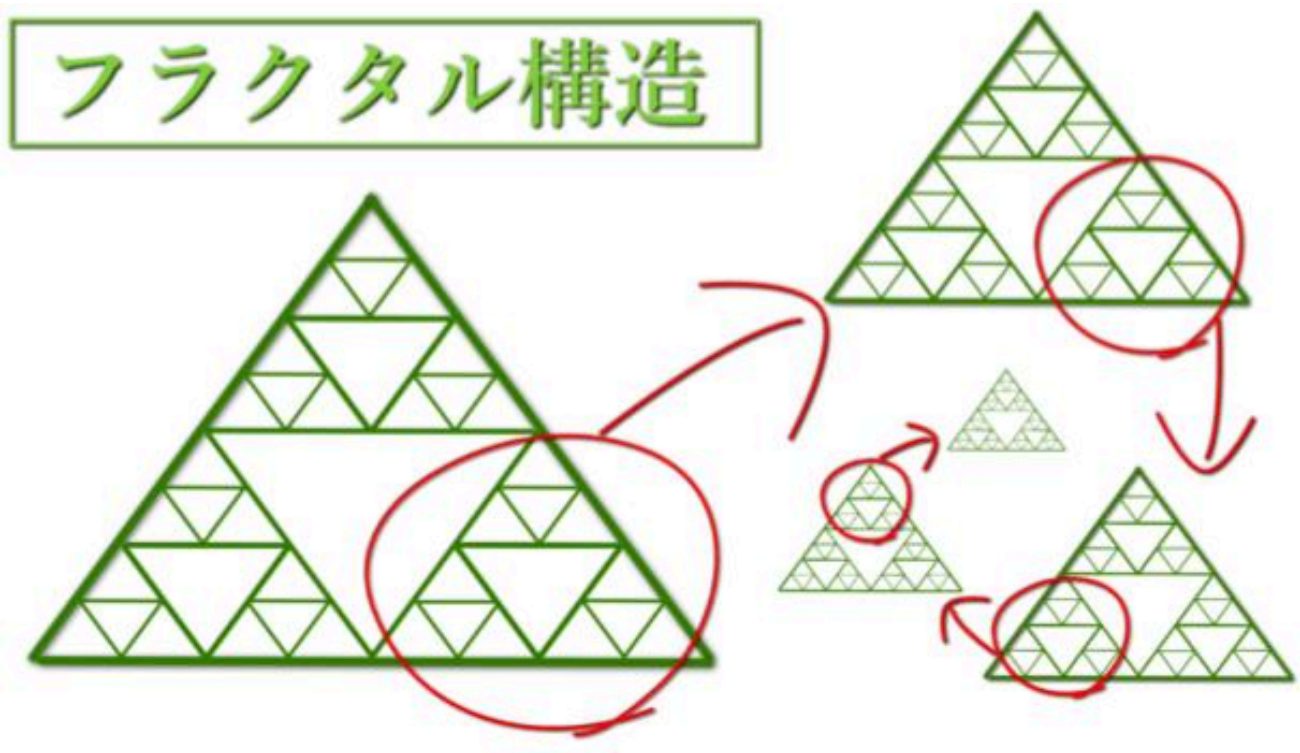


それは顕在意識(DIKAG)が様々な要因で歪んでしまったからでしょう。農薬、添加物、化學物質、重金属、電磁波、これらが現代地球人類の病氣の主な原因であり、これらが「細菌」と「ウイルス」の存在も生み出してしまっています。

しかし、これらも結局は「靈的無知」からなる「利己主義」、「物質中心主義」により問題を引き起こしており、周波數の叡智についての正しい理解があれば、これらの問題を解決することも可能です。周波數の叡智の正しい適用は、地上人類の課題とも言えます。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

音は「倍音」により物質次元を超えた影響を及ぼす



こうしたサイマティクスという水の科學の研究というアプローチから、周波数の世界を研究する科學者も地上世界に少数ながら存在しており、水面下では周波数に關しての様々な解析が進んでおります。

生命の形は「フラクタル構造」として、美しき數學的なパターンによって成り立っている事實は現代科學でも徐々に解明されつつあります。フラクタル構造とは、圖形や物體の「一部」と「全體」が同じ形を繰り返す「自己相似性」を持つ構造のことです。

いくつかの天體の周波數を、「基音」を元に「音程」の組み合わせを變えて複數を対象物に当てると、美しい形が次々と表れます。わたし達は無限に等しいほどの周波數の組み合わせで成り立っている存在です。

すべては周波数により形を成しているのが自然法則なのです

花などの植物の形を始め、形というのは「固有振動数」によって成り立っています。豹の模様なら 10101 ヘルツ、亀の甲羅なら 1088 ヘルツなど、万物の神秘は、周波数の世界に足を踏み入れることによってより魅力を増し、美しき生命(いのち)の尊さに触れていきます。

日本の古來の建築では、ふすまや障子越しに常に聽こえる風の音、小枝のそよぎ、葉の擦れ合う音、水の音の心地よい揺らぎのある世界。ありとあらゆる生命にエネルギーをくれる鳥のさえずりや虫たちのオーケストラなど、自然界の生命(いのち)の音はわたし達を癒やしてくれます。

これらは「精靈」と「妖精」が自然界、生命界を管理し、維持し、万物の生命(いのち)を蘇生しようとしているからです。そして精靈と妖精を管理しているのが「下級天使」であり、鉱物、植物、どうぶつ達の番人をしています。

「その中で、最も重要なのは、「ソマチッド(妖精)」は「倍音(オクターブ)」によって活性化するという事實です。音によるヒーリングは單音でもそれなりの意味があり、それなりのヒーリングの効果を發揮しますが、本質的には複合音として「倍音(オクターブ)」および「和音(アコード)」を發生させることにより音のヒーリングは眞の効果が生まれてきます」

和音は英語で「アコード」であり、「コード」とは日本語で「暗号」を表します。「和音(アコード)」の意味とは「始まりの暗号」であり、倍音は英語で「オーバートーン」と言いますが、倍音(オクターブ)の本質とは「靈的世界(オーバートーン)と物質世界(アンダートーン)を繋げる暗号」を意味します。

シンギングボウル、別名チベタンボウルは、7(セブン)メタルと言う金属素材（金・銀・水銀・銅・鉄・鈴・鉛）が「７チャクラ」に対應(たいおう)しており、ダンスのように回轉(かいてん)させることで、倍音(オクターブ)が發生し、靈的世界(オーバートーン)と物質世界(アンダートーン)を繋げる「磁場」が生まれます。

音樂と科學(かがく)の分野には「上方倍音(オーバートーン)」と「下方倍音(アンダートーン)」という法則がありますが、これはそのまま「靈的世界(オーバートーン)」と「物質世界(アンダートーン)」という意味になるのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます



わたし達の世界にも倍音（オクターブ）は溢れており、人の声、家庭やオフィスで使う機器、銅鑼（どら）の鐘、ディジュリドゥ、鳥のさえずり、虫の音など。そして音叉にも倍音（オクターブ）の振動（バイブレーション）が含まれています。「基音（ホームトーン）」と「倍音（オクターブ）」の關係性が「音程（インターバル）」をつくるからです。

音叉セルフヒーリングにおいて音程（インターバル）は「奏者の意志」を表します。音程（インターバル）とは２つの音の隔たりのことであり、２つの音の響きを合わせたものが、「和音」や「倍音」の響きになります。「音程（インターバル）」は「基音（ホームトーン）」との位置關係によって決まります。

音叉による「生命（いのち）の演奏」は、複數の音（フォーク、ヘヴィーフォーク、エナジーバー、ヒーリングパイプ）を同時に鳴らすことで、独自の響きと個性を持つ音程（インターバル）が生まれます。こうした音が、自分自身の「生命（いのち）の調律」へと繋がっていくのです。

なので、音のヒーリングで眞の効果を發揮するには、倍音、和音による複合音が必ず必要になります。シンギングボウル、クリスタルボウルも倍音による癒し効果により物理次元を超えた多次元的なヒーリングが可能になります。倍音と和音を驅使した「多重波」によるヒーリングは、單音でサウンドツールを使用する何倍～何百倍もの効果の差を生み出します。

しかし、現在の地上世界での音叉ヒーリングは「フォーク」および「ヘヴィフォーク」を扱う音叉ヒーリングが殆どであり、「エナジーバー」「ヒーリングパイプ」というサウンドツールと融合した音叉ヒーリングを教えているスクールは、地上世界中を探してもありません。

当スクールと他のスクールの最大の違いは「あらゆるサウンドツールを複合して使う点」にあります。「サウンドツールを三位一體(さんみいったい)で使用すること」により、生命(いのち)の演奏を通した生命(いのち)の調律は眞の効果を發揮していきます。

逆をいうならば、エナジーバーやヒーリングパイプを使用するか、使用しないかが體感(たいかん)や効果の差をかなり左右してしまいます。それ以外でも、「調和」のために複合できるものは何でも複合してしまうというのが当スクールの考え方になります。

音と音の「複合波」がかなり大切です。ヘヴィフォークタイプか、フォークタイプだけだと、酷い詰まりがある部分だと浄化が難しいケースがあります。この詰まりは、感情だったり、物理的だったりケースは様々ですが、こうしたケースは非常に多くあります。

しかし、複数を同時に奏でることで、異なる周波数はもちろん、同じ周波数でも「多重波」が生まれ、顯在意識(DIKAG)の複雑に入り組んだ古い情報や思考習慣を粉砕、突破できるようになります。これが「靈性の進化」のために必要なことなのです。

音治療の本質とは、カラダや精神面の深い安らぎだけでなく、目的として使うサウンドツール次第で靈的次元を高めたり、神意(あい)の波動を高めたり、意識を明るく前向きにさせたりと、魂レベルの調整を行うことに本質があります。

世界中のヒーリングメソッドを調べてきた中で、音ほど魂レベルに響かせ、生き方を新生させるメソッドは他には知りません。それは、理性的な判斷が介在せず、直接腦の深部にエネルギーが届き、心や魂に訴えかける力があるからだと感じています。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

惑星地球と地球人類を甦らせるために





音叉ヒーリングの使用はなにも人間だけに限定する必要は一切ありません。例えば、どうぶつ達への治療に導入している人達もいますし、わたしもどうぶつ達のヒーリングに使用しています。經絡、經穴（ツボ）は、どうぶつ達それぞれ、人間と同じように存在します。

また、音叉を当てずとも、鳴らしているだけでもどうぶつ達はその音の波動に癒されています。どうぶつ達の波動のキャッチ能力は、基本的に人間より上です。音の周波数が自然界と共鳴し、どうぶつ達も自然に癒されていくのでしょう。普段は凶暴だというペットも、音叉の波動を浴びている間は大人しくなると、どうぶつと暮らしている方は必ず言います。

人間とどうぶつの基本的な關係は「高級天使」と「下級天使」の管理下の違いだけで、本來は神意（あい）による関係性を築くことが原則です。そしてその関係を築く役目は、一方的に人間に負わされています。

人間に他の生命體（せいめいたい）、鉱物、植物、どうぶつを支配する能力が与えられているということは、人間には「神の代理者」として、他の生命體（せいめいたい）を調和、協調關係、分かち合いすることが人間の「責任」と「義務」であることを意味しています

なぜなら人間は、大靈(たいれい)によって高度な知性と精神、そして顯在意識(DIKAG)の自由意志という特權が与えられているからです。これまで地上世界の人間は「靈的無知」ゆえに、どうぶつ達と正しい關係を築くことができませんでした。

それどころか、大靈(たいれい)の自然法則に反する「どうぶつ虐待」という間違った行爲に走ってきました。地上世界でどうぶつ虐待は常態化し、地上世界の人間は日々大きな罪を重ねています。これまでの地球の地上世界の實情は、そうした神の計画から大きく外れていました。

現在では、本來は神意(あい)の対象であるはずのどうぶつ達が人間の食料にされています。神の計画の中には、どうぶつ達を殺して人間の食料にするというようなことは含まれていません。大靈(たいれい)がどうぶつ達に生命を与えたのはであって、人間が生命を与えたのではありません。

人間と同じように、どうぶつの生命は大靈(たいれい)のものなのです。したがって人間には、どうぶつ達の生命を奪う權利はなく、どうぶつ達を殺して食料とすることも許されていません。こうしたことを考えると、現在の地球の地上世界の人間がいかに異常な状態かが分かります。

また、人間に飼われているどうぶつ達の９割以上は精神が病んでしまっています。どうぶつ達は飼い主のせいでノイローゼになってしまっています。理由は、飼い主の勝手などうぶつ達への解釈によるコミュニケーション不足が最大の原因です。

しかし、飼い主とペットが、本質的な部分でコミュニケーションを取っている場合は、例外のようで、調和と神意(あい)のサイクルの表現になるようです。そうした本質的な部分でのコミュニケーションを促すという意味でも音叉は非常に有用です。

どうぶつ達の心を癒すことにより、地球人類も蘇生の方向に向かいます。どうぶつ達も我々人間と同じ生命であり、人間の都合で勝手に傷つけていい道理はありません。そうした自然法則に反した行爲は必ず当人に苦しみとなって返ってきます。それが法則だからです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます





どうぶつ達を食料と考え殺害することは、最も自然法則に反したEGHO的な行爲です。どうぶつ虐待や肉食は、人間の靈性の低さがもたらす「調和の欠如」という「神意という攝理への違反行爲」です。

こうしたあまりにも常軌を逸したEGHO的な行爲に対して、人間はその罪に見合った罰としての苦しみを必ず背負うことになります。神意という攝理違反という「罪」は、苦しみという「罰」を通して償うことになります。

その償いの苦しみは、さまざまな病氣という形で必ず現れます。肉食が病氣の大きな原因であることは遠い地球の未來で醫學の常識になっていきます。肉食が必要などという現在の間違った醫學の見解は根本から修正されるようになります。

また、現代地球文化では新しい薬品や商品を開發するために「どうぶつ實驗」が盛んに行われています。しかし、そうした行爲も完全に間違いです。どうぶつ實驗などという虐待をしなくても、人間の病氣を癒す方法はいくらでもあります。

弱い立場のどうぶつ達を利用しなくても、もっと治療効果のある療法は存在します。海水、鉱物、植物、そして音叉セルフヒーリングもその一つです。シルバーバーチは、どうぶつ實驗についてこのように意見を述べています。

> ―――いわゆるどうぶつ實驗では本当に役立つものは得られないということを人類が理解する段階はもう來ているのでしょうか。そのことに理解がいけば、それは道德的ならびに靈的生活における大きな進歩を意味することになるのでしょうか―――
>
> どうぶつ實驗によって何一つ役立つものが得られないというわけではありません。が、その手段は間違っていると申し上げているのです。何の罪もないどうぶつに殘酷な仕打ちをすることは靈的なことすべてに反するからです。人間は自分のすることに責任を取らされます。
>
> 動機は正しいといえるケースも沢山ありますし、それはそれとして靈的發達に影響を及ぼします。攝理とはそういうものなのです。がしかし、神は、子等がどうぶつへの略奪と殘忍な行爲によって健康になるようには計画しておられません。それは改めて強調する必要を認めないほど明らかなことでしょう。
>
> 學者が道を間違えているのはそこのところです。人間の方がどうぶつより大切な存在である。よってそのどうぶつを實驗台として人間の健康と幸福の増進をはかる權利がある、という弁解をするのですが、これは間違っております。共存共榮こそが攝理なのです。
>
> 『シルバーバーチの靈訓（八）』p.191～p.192

どうぶつ達の生命も、等しく平等であり、わたし達人間と何も變わりません。その神意すべき仲間、どうぶつ達にも、深い癒しが必要であることを忘れてはなりません。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

ある日のシルバーバーチの交霊會で、一人の参加者がシルバーバーチに「イエスはどうしてどうぶつへの神意を説かなかったのですか？」と質問しました。

それに対してシルバーバーチは――「（2000 年以上前の地上人類は）当時はまだ人々の靈性が低く、どうぶつに対する神意を示す段階にまで至っていなかったのです」と答えています。イエスの時代には、人間同士の神意の重要性を明らかにすることで精いっぱいだったのです。

> 自然界の生命はすべてが複雑にからみ合っており、人間の責任は、人間どうしを超えて草原のどうぶつや空の小鳥にまで及んでいます。抵抗するすべを知らない、か弱い存在に苦痛を与えることは、ぜひとも阻止しなくてはなりません。（中略）小鳥やどうぶつに対して平氣で殘酷なことをする者は、人間に対しても平氣で殘酷なことをするものです。
>
> 『シルバーバーチの靈訓（八）』p.204～p.205

スピリチュアリズムは、地上人類史上初めての本格的などうぶつ福祉運動であり、スピリチュアリズムは、人間だけを悲劇から救済することだけを目的としているわけではありません。人間を含めた、地球上のすべてのどうぶつ達を悲劇から救済することも目的としています。

人間がEGHO意識に走り、自分たちの利益と幸福だけを追い求めて他のどうぶつ達を犠牲にするなら結局、神が人間のために用意してくれた幸福を手にすることはできなくなります。地上人類はそこを正しく理解し、生き方を調和に改める必要があるのです。

スピリチュアリズムの地球人類救済計画、ならびに地球人類の靈性の向上のための最後の關門は、地球人類の悲劇である「地球環境破壊、どうぶつ虐待」の問題をどう解決するかが最大の鍵です。音叉による生命の調律は、その問題を解決するための糸口になり、万物を尊ぶ生き方へのシフトを促します。




現在の地球人類が抱える様々な問題の解決策は、「地球人類が靈性を高める努力」以外にはありません。「地球環境破壊、どうぶつ虐待」の問題の解決は、人々が自然法則に適った生き方をして初めて可能になります。

環境問題とも密接に關わっている農業ですが、農業の問題は深刻な健康被害を生み出しています。地球人類の未來の農業は、靈的眞理の普及と、音叉による生命(いのち)の調律を通して、靈性を高めた上で「微生物(精靈)」と「ソマチッド(妖精)」を味方につける「靈性農業」にしていかなければなりません。

音叉は使う周波數次第ですが、生命の根本原理に關わる「微生物(精靈)」と「ソマチッド(妖精)」を活性化させるので、自然界にもよい影響を与えるのは当然です。地上の人間が「FUGEHUKON(大靈)」の「FUGEHEKIN(自然法則)」に適った生き方を心がけ、調和の實踐を意識していたならば、微生物(精靈)とソマチッド(妖精)と最も親しい關係を築くことが出來ます。

人間が「FUGEHUKON(大靈)」の「FUGEHEKIN(自然法則)」に忠實に従っていれば、ソマチッド(妖精)の協力のもとで、ある程度まで自然界をコントロールすることが可能です。「音と微小生命體(せいめいたい)が相互に調律し合う」ことで、わたし達は自然界を蘇生させることも出來るのです。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます





音叉により宇宙と人をつなげるならば、地球と人をつなげることも可能です。また、人を癒せるならば地球を癒すことも可能です。こうした柔軟な發想は世界各地で水面下で拡がっており、それを實踐している方々は少數ながらも存在します。

Acutonics（アキュトニックス）統合醫學（いがく）研究所では、音叉を使った植物の栽培法のレクチャーを教えています。音叉の振動音を植物に与えることにより、植物の成長が促進され、元氣になったり収穫量が増えたり早まったりします。

種に音叉の音を浴びせる、土（とその容器） に音叉の振動を傳（つた）えるなど、様々なやり方で音叉の振動や周波数を植物に傳（つた）えます。もちろん使用する音叉はどれでも良いわけではなく、それぞれの方法論で決まっています。

また、ワイン生産にもサウンドツールを活用し、それらがどのような影響を与えるのかの研究もされており、それに対する結果もきちんと出ております。



こうした背景から農業への應用にもサウンドツールが有用なのは間違いありませんが、現實的にはまだまだ地上世界にその考えは普及はされていません。それどころか、現代科學で証明されていることを疑う人間が殆どです。

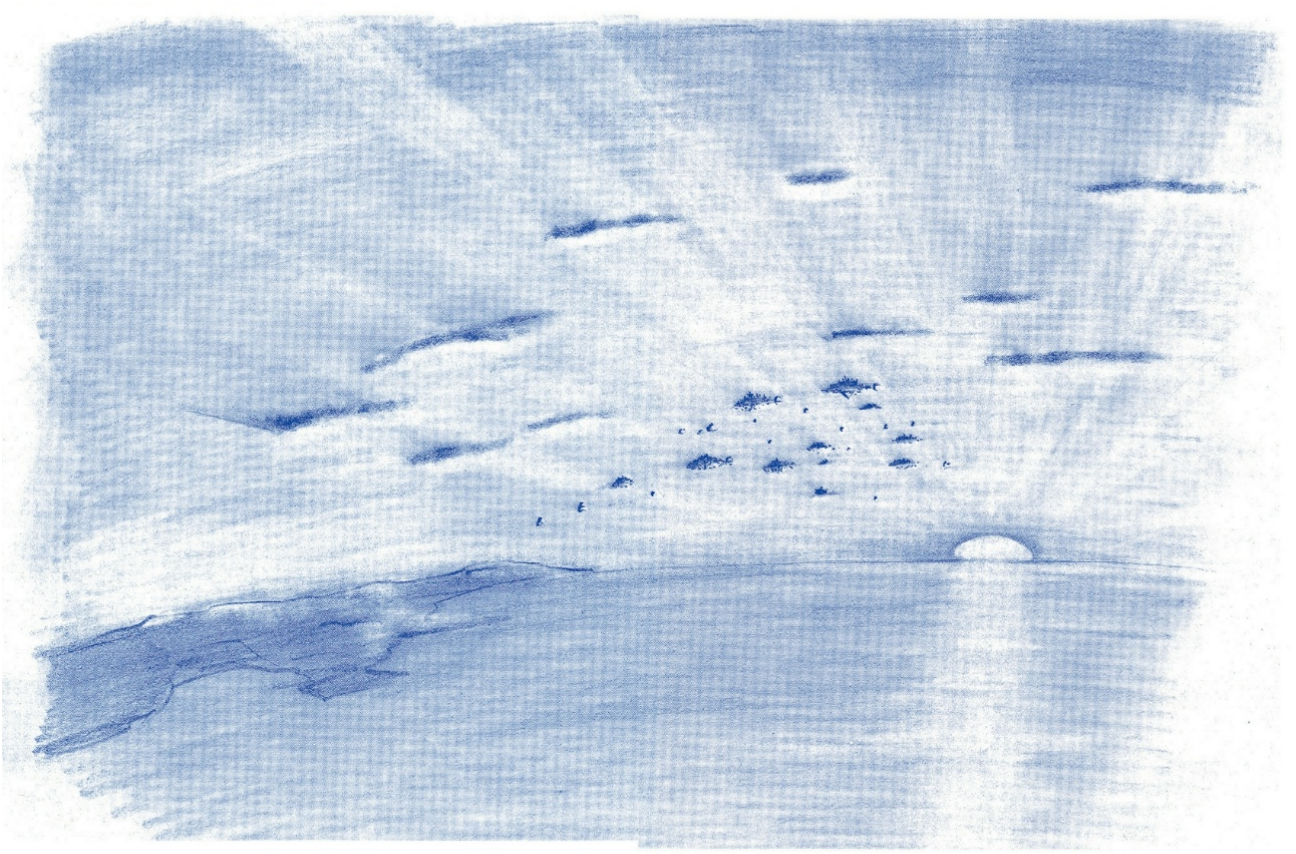
靈的眞理の普及と、音叉による生命の調律の普及が地上世界で進んでいったならば、地上世界の悲劇の問題を根本的に解決できます。靈的眞理の普及は「小規模と大規模の戰爭」、「教育のマインド・コントロールによる魂の牢獄」、「分かち合い意識の欠如による飢餓、貧困」を解決に導きます。

そして、音叉による生命の調律の普及は「精神性の退廃、墜落による顯在意識のEGHO意識の增大」、「地球環境破壊、どうぶつ虐待」、「調和の攝理に反した行爲による病人の激增」の問題を解決に導きます。

これは決して理想論ではなく、あくまでも現實的にこの話をしています。宇宙と人を繋ぐ方法が現實にあることを知り、意識を再び目覺めさせ、この大宇宙の聖なる原則を體驗する方法が既にスピリチュアリズムを通して確立されているからです。

あとは、地上人生をかけて眞理への信仰實踐と、生命の調律の普及をするかだけです

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます



和平へ向けていろいろと努力が爲されながら、ことごとく失敗しています。が、唯一試みられていないのは「靈的眞理」の適用という方法です。それが爲されないかぎり戰爭と流血が終わることはなく、ついには人類が誇りに思っている物質文明も破綻をきたすことになるでしょう。

これが先ほどのシルバーバーチの言葉ですが、現代地球文化では、貪慾、強慾の類により、本当に必要な方々に、公平に豊かさが行き渡らないシステムになってしまっています。そして、シルバーバーチは利他、奉仕の實踐について、このように述べています。

> 肝心なことは、それを人生においてどう體現（たいげん）していくかです。心が豊かになるだけではいけません。個人的満足を得るだけで終ってはいけません。今度はそれを他人と分かち合う義務が生じます。分かち合うことによって靈的に成長していくのです。
>
> 『シルバーバーチの靈訓（一）』p.118

ここで最初の話に戻りますが、人生で一番大切なことは「靈的成長」であり、靈的成長は「DEVIK(デヴィック)の實踐」を通してでしか不可能です。そしてシルバーバーチは、このように大事なことを述べています。

肝心なことは、DEVIK(デヴィック)の實踐を地上人生においてどう體現(たいげん)していくかです。自分自身の肉の心DIKAG(ディカグ)が豊かになるだけではいけません。顯在意識のEGHO(エゴ)意識による個人的満足を得るだけで終ってはいけません。

今度は靈的眞理を他人と分かち合う義務が生じます。他人と靈的眞理を分かち合うことによって靈的に成長していくのです。利他、奉仕、分かち合い、協調關係、平和、これらはすべてDEVIK(デヴィック)の意味に含まれます。人生とはDEVIK(デヴィック)を通して靈性を進化させていく、これが神の自然法則です。

靈的眞理や音叉による生命(いのち)の調律を一部の特定な人だけしか受け取れない社會(しゃかい)では、この先の地球人類の未來も絶望しか待っていません。個人的満足を得るだけでは駄目なのです。本当に苦しみ、病める人々にこそ希望が行き渡らなくて神意(あい)を語るのはおかしな話です。

惑星地球文化の中核である「科學(かがく)」、「醫學(いがく)」、「政治」、「經済」、「教育」のすべての分野に「FUGEHUKON(大靈)」の「FUGEHEKIN(自然法則)」が適用され、地獄のような地上世界を改革する方法はすでに確立されています。

シルバーバーチの靈訓の一節に、「地上生活なんかいい加減に送ればよいと言っているのではありません。あなたが送るべき全生活のほんのひとかけらに過ぎないことを申し上げているのです。その地球をよりよい生活の場とするために努力なさってください」とあります。これが最も大切なことなのではないでしょうか。

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます

いつの日か、地上人類も「無償と自己犠牲を通した奉仕の實踐」、すなわちDEVIK（デヴィック）の實踐という神意（あい）こそが地上世界の悲劇に終止符を打つことに氣づく日が必ず來ます。調和の伴った神意（あい）こそが大靈（たいれい）の顯現だからです。「神の意志、調和を顯現することが神意（あい）の本質」なのです。

靈的眞理を知り、靈的眞理の眞髄である「周波數」を學び、音叉による生命（いのち）の調律を毎日の日課とし、DEVIK（デヴィック）の實踐を決心し、それを具現化しようと努力し、日常生活のあらゆる問題に利他、奉仕、無私無欲の精神で生きる人間が增えるにつれ、地上生活に平和と調和が訪れます。

それ以外に地上世界と地球人類を救う方法など存在しません。平和は利他、奉仕、分かち合い、協調關係からしか生まれません。地上人類すべての人が奉仕の精神に目覺め、それを決心實行に移すようになるまでは平和は訪れません。

人生の道に迷った時、いったん活動を休止し、靜寂の世界に入ることが大切です。そして靈的世界からの指導と援助を求めて禱（いの）るのです。もしも靈的眞理に対する理性的信仰による絶対的確信があるならば、与えられる靈力とインスピレーションと援助に限界はありません。

そして、わたし達はひたすら人々の役に立つ生き方を心掛け、實踐しているかぎり、常に大靈（たいれい）の保護と導きがあります。この叡智を知ることが出來たのは偶然でなく、皆さんの背後靈（SEPOUW）による導きに他なりません。後は、皆さんが地上人生をどのように生きたいのかだけです。

to be continued（後編に續（つづ）く）

音叉によるセルフヒーリングテキスト入門編　前編（理論編）

第一刷　2025 年 9 月 1 日

著者　廣瀬仁

【プロフィール】

1986 年生まれ。茨城県出身。2011 年にシルバーバーチの靈訓と音叉ヒーリング出会い、スピリチュアリズムの靈的眞理と音叉による生命（いのち）の調律を實踐形式で独學で學んできた。また、健康に關しても追窮してきて、靈的眞理に適ったホリスティック健康學の理論を完成させる。地上人生で一番大切なことは靈優位による利他、奉仕の實踐を通した靈性の進化と確信を持ち、その思想を信仰實踐している。

【自己表現プロジェクト】

〒441-0202　愛知県豊川市赤坂町東山 362

ホームページアドレス　https://self-expression.jimdosite.com/

遠隔ヒーリング系 YouTuber 戸田英子が贈る【奇跡の村 ch】

https://youtube.com/@enkaku-healing?si=KR4RFMflw2C5fAke

資料の再販、コピーを他人に配布、ホームページ、ブログ他、インターネットへの掲載は堅く禁じます